

2025年度

高校生の消費生活と 生活設計に関する アンケート調査報告書



公益財団法人 消費者教育支援センター
公益財団法人 生命保険文化センター

はじめに

本書は、高校生の普段の生活行動から、消費者としての側面、生活設計に対する考え方などについてアンケート調査をした結果の報告書である。本調査は2012年、2016年、2021年に実施しており、今回で第4回を迎える。

調査は、公益財団法人消費者教育支援センターと公益財団法人生命保険文化センターが共同で実施し、無作為抽出された高校の中から74校に協力をいただいた。ご多忙の中、調査にご協力いただいた先生方、高校生にお礼を申し上げたい。

今後、本調査結果が消費者教育の指導、教材開発等に役立つことになれば幸いである。

2026年3月

公益財団法人 消費者教育支援センター
理事長 田口 義明

公益財団法人 生命保険文化センター
代表理事 小原 広之

目次

【調査概要】	4
【調査結果の概要】	8
1. アンケート調査の概要.....	8
2. ヒアリング調査の概要.....	18
【調査結果】	24
I 自身のことについて	25
1. 興味があること	25
2. 普段の生活に関する考え方や傾向	27
3. 家族との会話について	31
4. 18歳成年に対する意識	35
II お金に関することについて	37
1. お小遣いについて.....	37
1-1 お小遣いの有無	37
1-2 1カ月にもらっている金額.....	37
1-3 お小遣いをもらっていない場合の対処法	38
2. アルバイトについて.....	39
2-1 アルバイト経験	39
2-2 1カ月の収入金額.....	40
3. 貯金の有無	40
4. お金との付き合い方.....	42
4-1 お金の使い道.....	42
4-2 【新規項目】 お金に関する考え方や傾向	44
4-3 【新規項目】 お金の管理方法	48
III 消費に関することについて	50
1. 買い物について	50
1-1 欲しいものがあるとき、参考にする情報	50
1-2 店頭で購入時の支払い方法	52
2. エシカル消費に関する考え方や傾向	54
IV インターネット・SNS などに関連する消費者トラブルについて.....	58
1. 【新規項目】 インターネット・SNS の利用に関する考え方や傾向.....	58
2. インターネットでの購入について.....	62
2-1 インターネットでの購入経験	62
2-2 インターネットでの1カ月の使用金額.....	63
3. 【新規項目】 インターネット・SNS での消費者トラブルについて.....	64
3-1 【新規項目】 インターネット・SNS での消費者トラブルの有無.....	64

3-2	【新規項目】消費者トラブルの内容	65
3-3	【新規項目】消費者トラブルの相談先.....	67
V	将来について	69
1.	卒業後の進路・働き方・暮らし方について	69
1-1	卒業後の進路.....	69
1-2	将来就きたい職業を決めているか.....	70
1-3	【新規項目】将来働きたい場所.....	70
1-4	【新規項目】将来の働き方.....	71
1-5	【新規項目】何歳まで働きたいか.....	71
1-6	【新規項目】地元での暮らしに対する意識	72
2.	結婚・子どもについて	73
2-1	結婚願望	73
2-2	結婚したい理由	74
2-3	結婚したくない理由	75
2-4	親になりたいか	76
2-5	親になりたい理由.....	77
2-6	将来子どもが生まれたときの働き方	78
2-7	親になりたくない理由	79
3.	将来の生活について.....	80
3-1	将来が思い描ける年齢	80
3-2	将来不安なこと	81
VI	これまでの学習状況について	83
1.	「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習について.....	83
1-1	「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習経験.....	83
1-2	学習項目	84
2.	【新規項目】外部講師の授業で印象に残った話.....	86
VII	契約と生活リスクに関する知識について	88
1.	契約に関する知識.....	88
2.	【新規項目】生活におけるリスク（病気・ケガ、死亡、介護等）に関する知識.....	90
.....		
【調査票・単純集計結果】		92

【調査概要】

1. 調査目的

全国の高校生の消費生活と生活設計に関する実態を明らかにし、学習指導要領を踏まえた学習指導、教材開発等の一助とすることを目的とする。

2. 調査項目

調査項目のうち、主なものは次の通り。

(1) 自身のことについて

- ① 現在、興味があること
- ② 普段の生活に関する考え方や傾向
- ③ 家族との会話について
- ④ 18歳成年に対する意識

(2) お金に関することについて

- ① お小遣いについて
- ② アルバイトについて
- ③ 貯金の有無
- ④ お金の使い道
- ⑤ お金に関する考え方や傾向
- ⑥ お金の管理方法

(3) 消費に関することについて

- ① 欲しいものがあるとき、参考にする情報
- ② 店頭での買い物の支払い方法
- ③ エシカル消費に関する考え方や傾向

(4) インターネット・SNS などに関連する消費者トラブルについて

- ① インターネットや SNS の利用に関する考え方や傾向
- ② インターネットでの買い物、使用金額
- ③ インターネット・SNS での消費者トラブル

(5) 将来のことについて

- ① 卒業後の進路
- ② 将来の働き方
- ③ 地元での暮らしに対する意識
- ④ 結婚と子ども
- ⑤ 思い描くことができる将来
- ⑥ 将来の不安

(6) これまでの学習状況について

- ① 「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習経験とその内容
- ② 外部講師の授業で印象に残った話

(7) 契約と生活リスクに関する知識について

- ① 契約の知識について
- ② 生活リスクに関する知識について

3. 調査設計

- (1) 実施主体 公益財団法人消費者教育支援センター
公益財団法人生命保険文化センター
- (2) 調査地域 全国
- (3) 調査対象 高等学校1年生、2年生
- (4) 抽出方法 二段無作為抽出法
「全国学校総覧 2012年版」掲載の国公私立の高等学校（分校、定時制等も含む）から等間隔に無作為抽出した 651 校に対し、郵送で各校約 40 人に対し調査を依頼。そのうち、74 校から承諾があり、担当教諭に対して調査票を一括送付した。
- (5) 調査方法 インターネットによるアンケート調査（WEB 調査法）
- (6) 調査時期 2025年7月1日～2025年9月30日
- (7) 回収サンプル数 3,034

4. 回収サンプルの属性 (N=3,034)

(1) 地域分布

地域	生徒数	生徒数割合(%)	学校数
全国	3,034	100.0	74
北海道	126	4.2	4
東北	306	10.1	7
関東	625	20.6	15
北陸	110	3.6	3
中部	481	15.9	11
関西	358	11.8	10
中国	116	3.8	3
四国	281	9.3	6
九州	631	20.8	15

* 地域は、以下のように分類。

北海道	……	北海道
東北	……	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	……	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
北陸	……	新潟、富山、石川、福井
中部	……	山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
関西	……	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	……	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	……	徳島、香川、愛媛、高知
九州	……	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

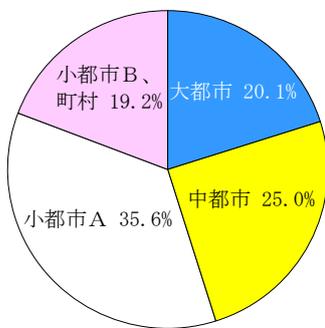
(2) 学年



(3) 性別

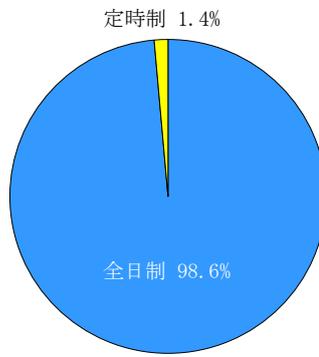


(4) 学校所在地

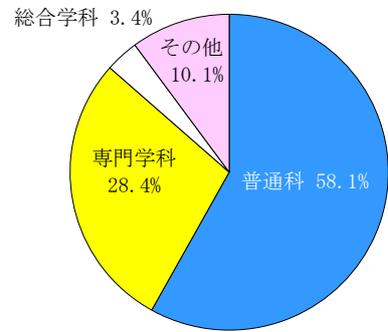


大都市 ……政令指定都市及び東京都区部
中都市 ……大都市を除く人口15万以上の市
小都市A ……人口5万以上15万未満の市
小都市B、町村 ……人口5万未満の市

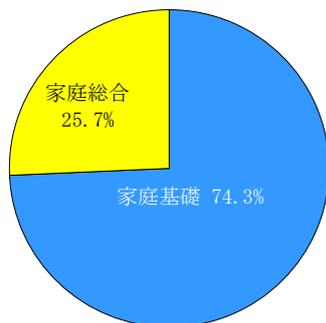
(5) 課程



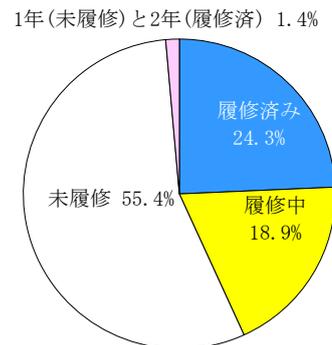
(6) 学科



(7) 家庭科の選択状況 (学校ベース)



(8) 家庭科における「消費生活」領域の学習状況 (学校ベース)



5. 報告書の見方

(1) 回答率について

- ・算出の分母（回答者総数）は図中で、単一回答質問では（ ）内に分母の数値を表記し、複数回答質問では「N」と表記している。
- ・原則として%（パーセンテージ・百分率）で表記しており、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。回答率を合算する場合、実数から改めて割合を算出するため、本文中に表記された数値の合計に一致しないものもある。

(2) 単数回答について

- ・1人の回答者が1つだけ回答する設問（単一回答）であっても、四捨五入を行っていることにより、回答率の合計が100.0%とならない設問がある。

(3) 複数回答について

- ・1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい設問（複数回答）の場合は、通常その回答率の合計は100.0%を超える。

(4) 質問文や選択肢、統計図表、分析文の表記について

- ・結果数値の「-」は回答者がいないものを示している。
- ・本文、グラフ中の設問文及び選択肢の表現は一部省略されているものがある。
- ・回答率のポイント差は小数点以下第1位を四捨五入し、整数で表記している。
- ・性別無回答の11人に関しては、性別のグラフから省略している。
- ・複数回答質問の項目の掲載順は、「その他」選択肢や「特になし」等の選択肢を除き全体（1年生・2年生の合計）の値の降順である。
- ・項目のタイトルに【新規項目】と表記しているのは、今年度初めて設けた質問項目である。
- ・「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」などの4件法の質問では、小計（例えば、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた計）の比率で記述している箇所がある。その場合、「(計)」をつけて表記している。
- ・割合については以下のとおり表記している。

割合	(%)
70%弱	67.1～69.4
約70%	69.5～70.4
70%	70.0
70%強	70.5～72.9
70%台半ば	73.0～77.0

(5) 誤差について

- ・回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差がある。

(6) ヒアリング調査について（P18～23）

- ・エリアと学科のバランスを考慮のうえ学校を選定し、事前に質問項目を提示する半構造化インタビュー形式で行った。

【調査結果の概要】

1. アンケート調査の概要

《調査結果の主なポイント》

「消費生活」に関する項目

1. 18歳で成年になることについて、「プレッシャーを感じる」が男女とも40%前後と最も多く、前回調査と比較して15ポイント以上増加した。次いで30%台半ばが「なんとなく面倒を感じる」と回答しており、18歳で成年になることを前向きに捉えていない様子が伺えた。「大人の仲間入りができてうれしい」は全体の20%台半ばと、前回調査から10ポイント以上増加し、高校生が抱える不安や期待が入り混じる回答となった。
2. 全体の90%強が「何をするにもお金が大切だと思う」、全体の90%台半ばが「お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う」と回答したものの、お金の管理方法については「特に管理はしていない」が全体の40%台半ばと最も多かった。「投資や資産運用などでお金を増やしたいと思う」と全体の40%台半ばが回答し、女子では30%強にとどまるが、男子は60%弱と25ポイントの差が見られた。資産形成への関心が高まる一方で、日常的な家計管理の意識が十分とはいえず、投資詐欺等の被害にあわないよう注意喚起が必要なことが伺えた。
3. 全体の80%強がインターネットで商品やサービスの購入経験があると回答。お店で買い物する時の支払い方法については、全体の90%台半ばが「現金」、次いで50%台半ばが「QRコード決済」と回答しており、キャッシュレス決済が高校生にも浸透していることが伺えた。
4. 「気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う」と全体の80%弱が回答しているものの、「高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う」と全体の40%強が回答した。また、「買い物は商品・企業に対する『お金の投票』だと思う」という回答も全体で過半数に満たず、消費者の役割や消費行動が社会全体に与える影響については、なお十分に理解が進んでいない課題が伺えた。

「生活設計」に関する項目

1. 将来の働き方では、全体の40%強が「最初に勤めた職場で働き続けたい」と回答し、一定の安定志向がみられた。性別では、「勤め先を変えながら働きたい」が女子で20%強と男子に比べ高かった。「何歳くらいまで働きたいか」の全体の平均は68.0歳で、中央値は男女とも65歳だが、平均では男子が69.8歳、女子が66.5歳と、男子の方が長く働きたい傾向がみられ、退職年齢や老後の生活資金を意識していることが伺えた。
2. 地元での暮らしに対する意識では、全体の20%台半ばが「自分の生まれ育った地元で暮らし、将来的には地元を出て暮らしたい」と回答し、最も多かった。性別で見ると、「自分の生まれ育った地元以外で暮らし続けたい」は女子に多い傾向がみられた。
3. 全体の60%台半ばが「結婚したい」と回答し、「結婚したくない」と回答したのは10%弱で前回調査と大きな変化はなかった。結婚したくない理由を性別で見ると、「金銭的に余裕がなくなるから」が前回調査と比較して男子は14ポイント、女子は20ポイント増加した。
4. 「親になりたい」は全体の50%半ばを占めたが、前回調査と比較して7ポイント減少した。一方、「親になりたくない」は全体の10%台半ばにとどまるが、前回調査と比較して5ポイント増加した。その理由を性別で見ると、「金銭的に余裕がなくなるから」は女子と比べて男子の割合が、「子どもが好きではないから」は男子と比べて女子の割合が高かった。

「消費生活」に関する項目

1. 18歳で成年になることについて、高校生が抱える不安や期待が入り混じる回答となった。

18歳で成年になることについて、「プレッシャーを感じる」が男女とも40%前後と最も多く、次いで30%台半ばが「なんとなく面倒を感じる」と回答した。「大人の仲間入りができてうれしい」は全体の20%台半ばとなり、前回調査から10ポイント以上増加した。

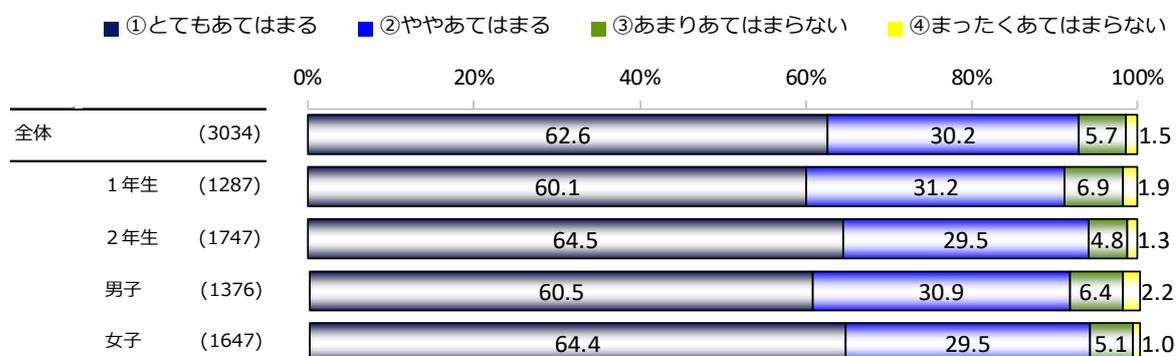
	男子		女子	
	2025年度	2021年度	2025年度	2021年度
プレッシャーを感じる	36.5% (+17.8)	18.7%	40.9% (+16.4)	24.5%
なんとなく面倒を感じる	33.2% (+13.8)	19.4%	34.5% (+8.7)	25.8%
消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる	23.7% (▲1.6)	25.3%	30.1% (▲2.7)	32.8%
法律や制度について詳しく知ろうと思う	27.2% (+8.2)	19.0%	24.4% (+3.1)	21.3%
大人の仲間入りができてうれしい	24.2% (+11.4)	12.8%	24.0% (+14.4)	9.6%
社会の一員として期待されていると思う	9.6% (+4.4)	5.2%	5.6% (▲0.1)	5.7%
特に何も思わない	21.2% (▲17.5)	38.7%	18.4% (▲11.1)	29.5%

2. 【新規項目】資産形成への関心が高まる一方で、日常的な家計管理の意識が十分とはいえず、成人後に投資詐欺等の被害にあわないよう注意喚起が必要なことが伺えた。

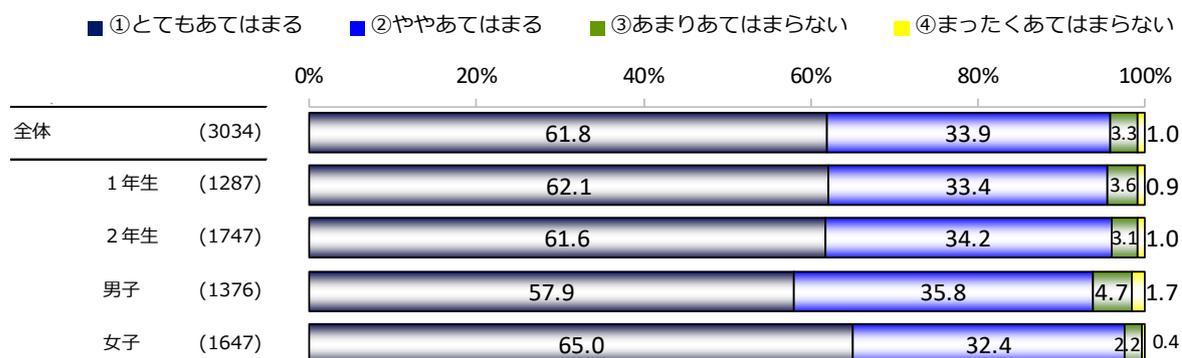
(1) お金に関する考え方

全体の90%強が「何をするにもお金が大切だと思う」、全体の90%台半ばが「お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う」と回答した。

何をするにもお金が大切だと思う<全体・学年別・性別>



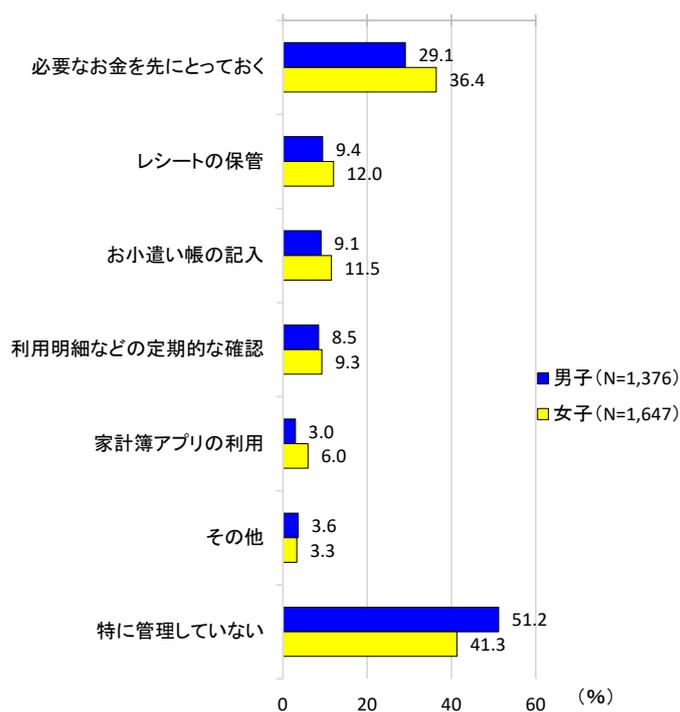
お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う<全体・学年別・性別>



(2) お金の管理方法

男女ともに「特に管理はしていない」が最も多く、男子では50%を超え、女子より割合が高かった。

お金の管理方法（複数回答）<性別>

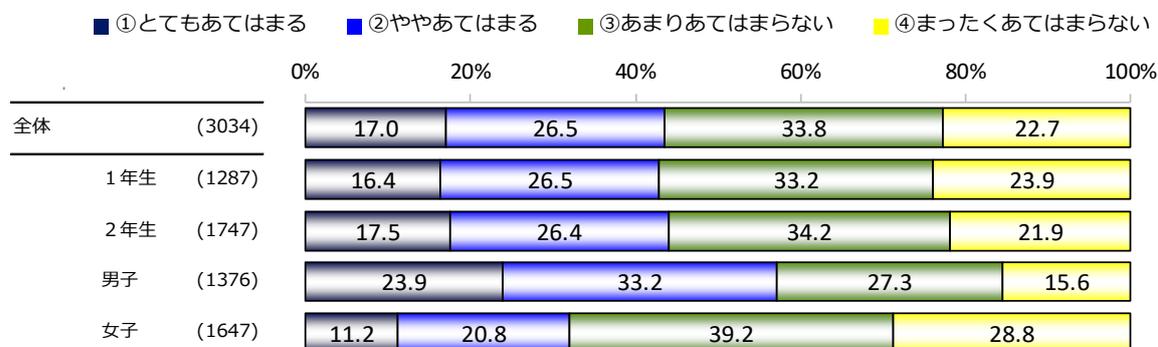


(3) 資産形成について

「投資や資産運用などでお金を増やしたいと思う」と全体の40%台半ばが回答し、女子では30%強にとどまるが、男子は60%弱と25ポイントの差が見られた。

投資や資産運用などをする中で、お金を増やしたいと思う

＜全体・学年別・性別＞

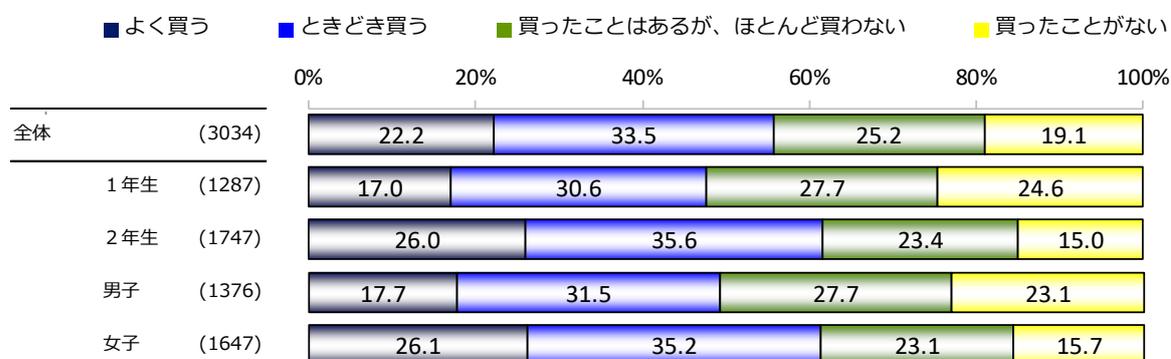


3. キャッシュレス決済が高校生にも浸透。

(1) インターネットでの購入経験

全体の80%強がインターネットで商品やサービスの購入経験があると回答した。「よく買う」「ときどき買う」をあわせた「買う(計)」は、1年生が50%未満であるが、2年生は60%強となり、性別でも、「買う(計)」は男子が50%弱、女子は60%強で差が見られた。

インターネットでの購入経験＜全体・学年・性別＞



	1年生		2年生	
	2025年度	2021年度	2025年度	2021年度
よく買う	17.0% (+4.9)	12.1%	26.0% (+8.6)	17.4%
ときどき買う	30.6% (+5.6)	25.0%	35.6% (+7.6)	28.0%
買ったことはあるが、ほとんど買わない	27.7% (▲4.2)	31.9%	23.4% (▲7.2)	30.6%
買ったことがない	24.6% (▲4.1)	28.7%	15.0% (▲6.8)	21.8%
無回答	—	2.2%	—	2.2%

(2) お店で買い物するときの支払い方法

「現金」が最も多く、1年生、2年生ともに90%を超え、次いで「QRコード決済」、「電子マネー」の順となった。

	1年生		2年生	
	2025年度	2021年度	2025年度	2021年度
現金	96.3% (▲2.3)	98.6%	93.9% (▲3.4)	97.3%
QRコード決済 (PayPay、LINE Pay 等) (※1)	48.9% (+27.0)	21.9%	57.8% (+34.4)	23.4%
電子マネー (Suica、PASMO 等) (※2)	21.4% (+1.9)	19.5%	24.2% (▲1.6)	25.8%

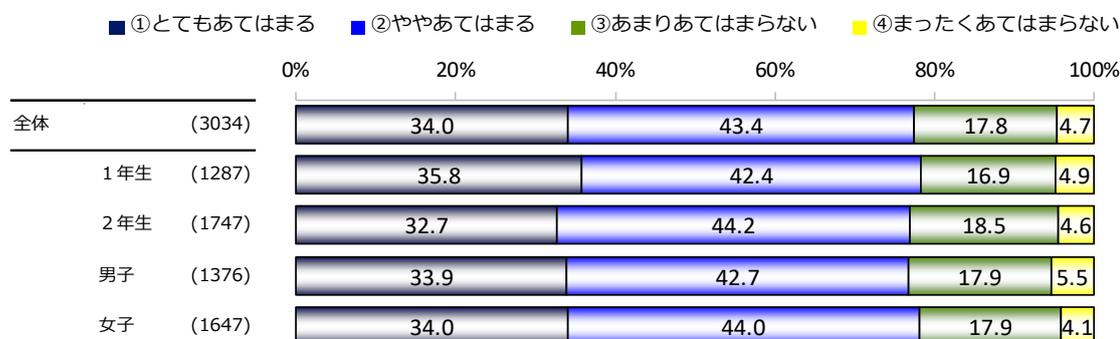
※1 2021年度の選択肢は「スマホ決済 (PayPay、LINE Pay 等)」。

※2 2021年度は「交通系ICカード (Suica、PASMO 等)」の他に「電子マネー (WAON、nanaco 等)」、「プリペイドカード (QUOカード等)」の選択肢が設けたが、単純比較できないため表記していない。

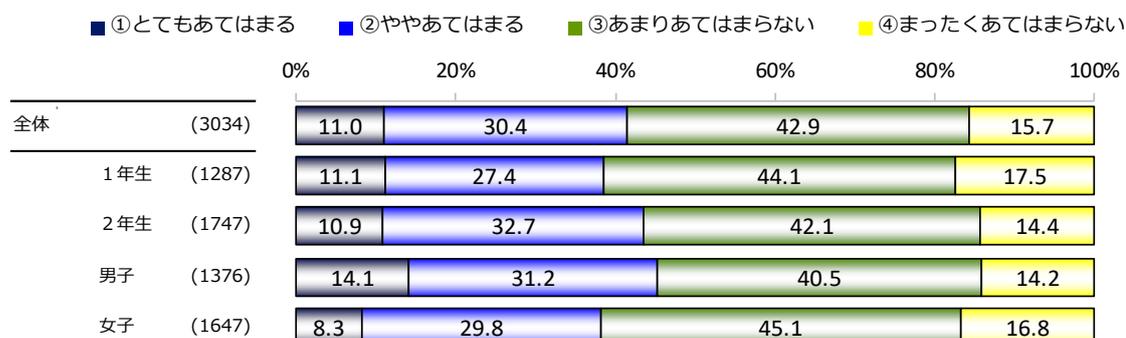
4. 【新規項目】消費者の役割や消費行動が社会全体に与える影響については、なお十分に理解が進んでいない課題が伺えた。

エシカル消費に関する考え方や傾向について、「気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う」と全体の80%弱が回答しているものの、「高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う」と全体の40%強が回答した。「買い物は商品・企業に対する『お金の投票』だと思う」という回答も全体で過半数に満たなかった。

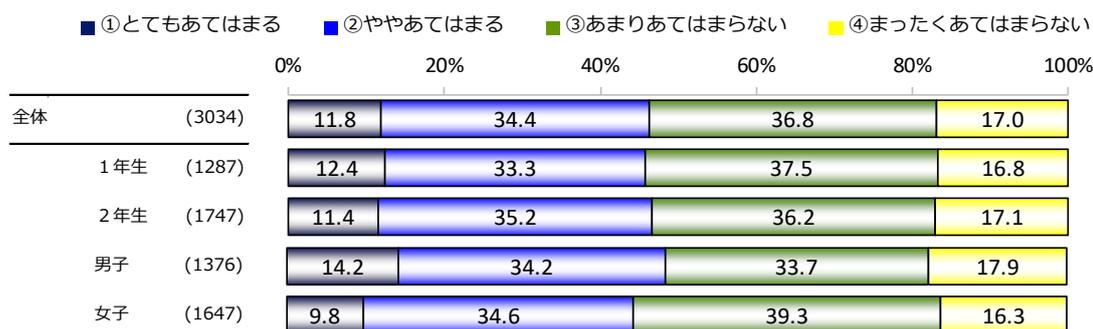
気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う<全体・学年別・性別>



高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う<全体・学年別・性別>



買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思おう<全体・学年別・性別>

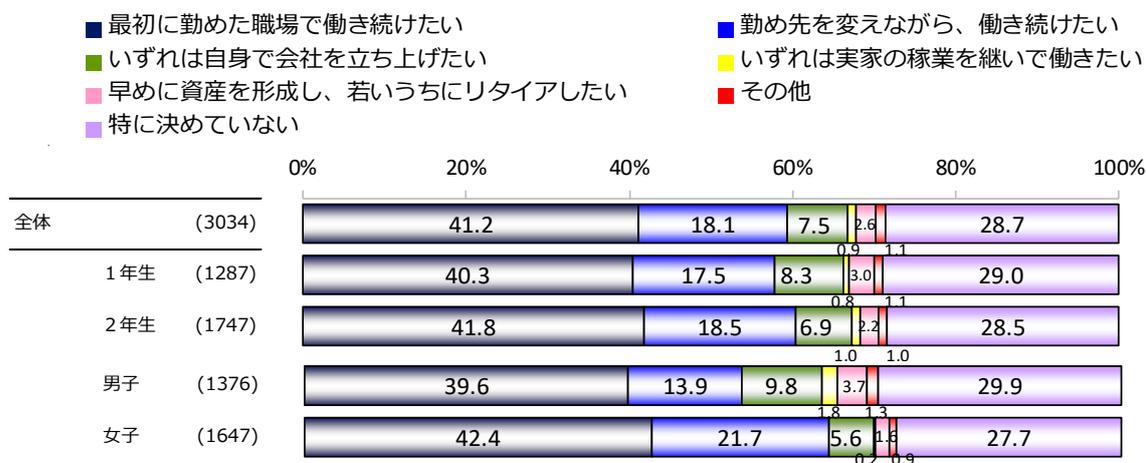


「生活設計」に関する項目

1. 【新規項目】将来の働き方では、「最初に勤めた職場で働き続けたい」が最多で、全体の40%強。全体で平均68歳まで働きたいと回答。退職年齢や老後の生活資金のことを意識していることが伺えた。

将来の働き方では、「最初に勤めた職場で働き続けたい」が全体の40%強と最も多く、性別では、「勤め先を変えながら働きたい」が男子に比べ女子の割合が高かった。「何歳くらいまで働きたいか」の全体の平均は68.0歳で、中央値は男女とも65歳。平均では、男子が69.8歳、女子が66.5歳となった。

将来の働き方<全体・学年別・性別>



何歳まで働きたいか<全体・学年別・性別>

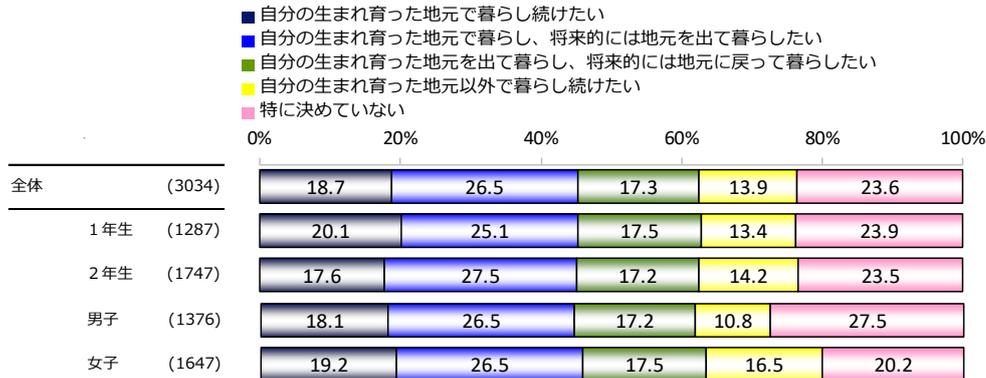
		平均値	中央値
学年別	高校1年生 (N=1, 287)	68.9	65
	高校2年生 (N=1, 747)	67.3	65
性別	男子 (N=1, 376)	69.8	65
	女子 (N=1, 647)	66.5	65
全体 (N=3, 034)		68.0	65

(単位：歳)

2. 【新規項目】地元での暮らしに対する意識では、「自分の生まれ育った地元で暮らし、将来的には地元を出て暮らしたい」が全体の20%台半ばで最多。性別による意識の差異あり。

地元での暮らしに対する意識では、全体の20%台半ばが「自分の生まれ育った地元で暮らし、将来的には地元を出て暮らしたい」と回答し、最も多かった。性別で見ると、「自分の生まれ育った地元以外で暮らし続けたい」は女子の割合が高く、「特に決めていない」は男子の割合が高い結果となった。

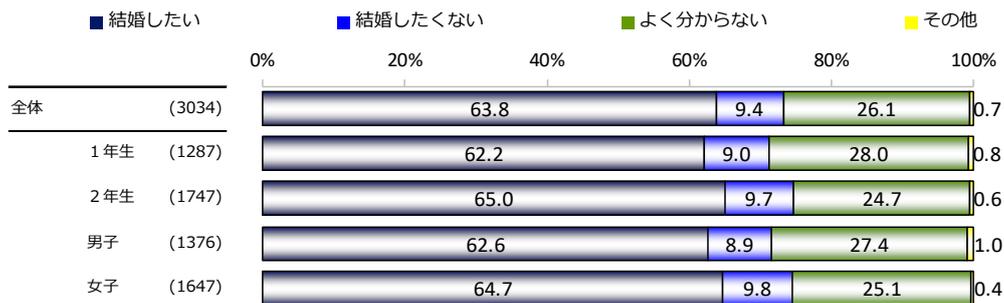
地元での暮らしに対する意識<全体・学年別・性別>



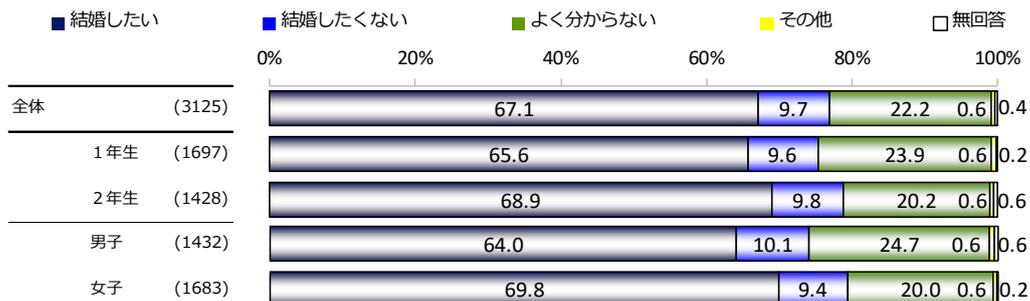
3. 結婚したくない理由を性別で見ると、「金銭的に余裕がなくなるから」が前回調査と比較して男子は14ポイント、女子は20ポイント増加。

「結婚したい」は全体の60%台半ば、「結婚したくない」は全体の10%弱で、前回調査から大きな変化はなかった。結婚したくない理由を性別で見ると、男女ともに「自由な時間がなくなるから」が70%前後で最も多く、次いで「家族を持つと大変そうだから」が続いた。「金銭的に余裕がなくなるから」は女子に比べて男子の割合が高く、「なんとなく面倒だから」は男子に比べて女子の割合が高かった。

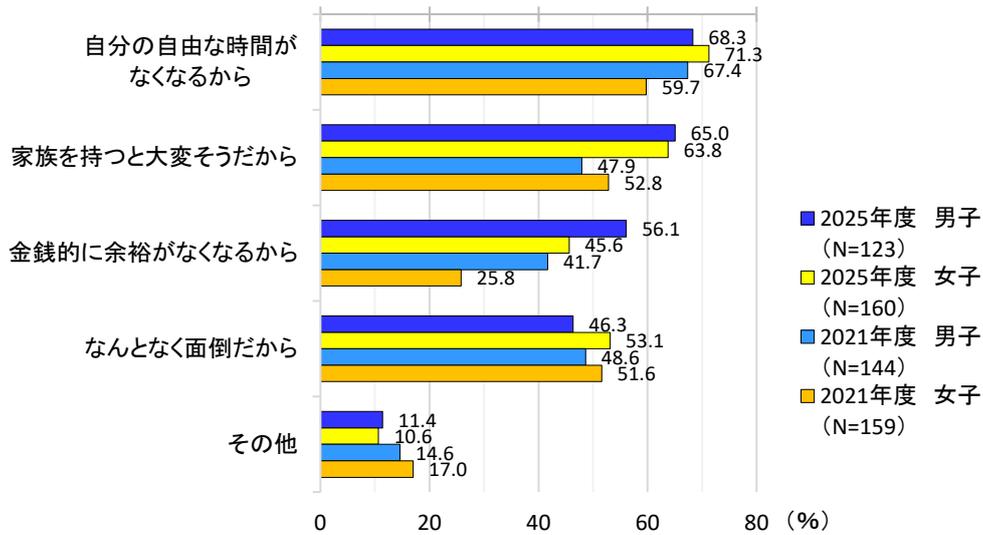
2025年度 結婚願望<全体・学年別・性別>



2021年度 結婚願望<全体・学年別・性別>



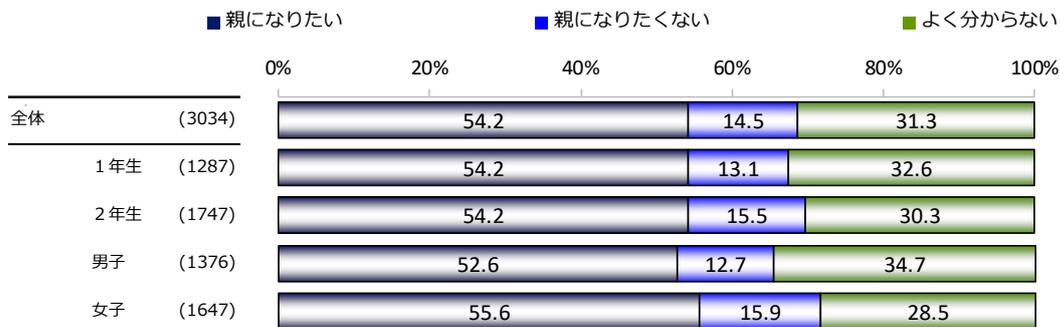
結婚したくない理由<性別>



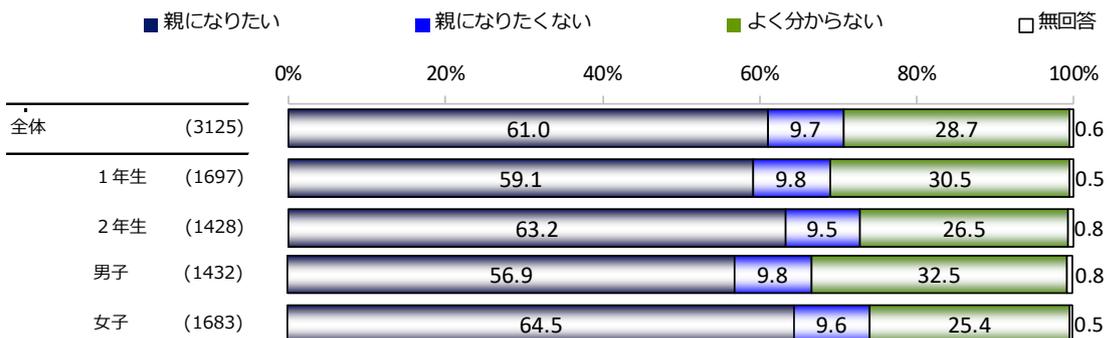
4. 「親になりたくない」理由を性別で見ると、男女ともに「面倒だから」「金銭的に余裕がなくなるから」が上位の回答となった。

「親になりたい」は全体の50%台半ばを占めたが、前回調査と比較して7ポイント減少。一方、「親になりたくない」は全体の10%台半ばにとどまるが、前回調査と比較して5ポイント増加。親になりたくない理由を性別で見ると、男女ともに「面倒だから」「金銭的に余裕がなくなるから」が上位の回答となった。「金銭的に余裕がなくなるから」は女子と比べて男子の割合が、「子どもが好きではないから」は男子と比べて女子の割合が高かった。

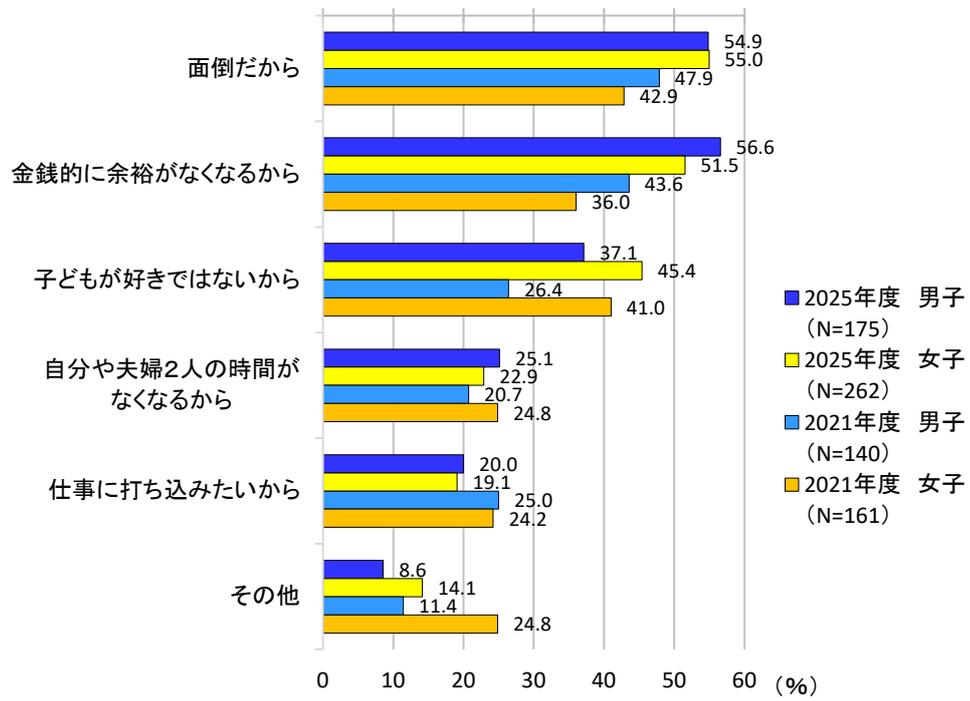
2025年度 親になりたいか<全体・学年・性別>



2021年度 親になりたいか<全体・学年・性別>



親になりたくない理由<性別>



2. ヒアリング調査の概要

<調査の概要>

調査時期：2025年10月～11月

調査対象：アンケート調査協力校10校の教諭

調査方法：Zoomによるオンライン

学校所在地：北海道、青森、茨城、東京、富山、愛知、大阪、香川、熊本、宮崎

調査内容：高校生の様子、家庭科の実施状況等

<主な調査内容>

1. 高校生の様子

① 最近の高校生の特徴について

- ・ コミュニケーション能力が低くなっている。他者を理解しにくく、自己中心主義的な傾向があるが、SNSの普及で承認欲求は強い。(青森県・公立・その他)
- ・ 生徒のコミュニケーション力の低下により自己開示が少なく、意思疎通が難しくなっている。課題が表面化しにくく、欠席をきっかけに問題が判明するケースや家庭と学校での様子の乖離が見られるようになっている。(東京都・公立・普通科)
- ・ 自分の考えを口にすることが減少しており、限られた友人以外との発言が少ない。聴く力は保たれているものの、聞いた内容を踏まえて自分の意見を形成し応答する力が弱まっていると感じる。(東京都・公立・普通科)
- ・ 入学段階の生徒に精神的な幼さが見られ、上級生が同学年時にできていたことが再現できない場面がある。また、学習意欲が低下し、達成度に対する危機感が薄い。厳しい指導より支援重視の方針が浸透し、安心を重んじる風潮が生徒の姿勢に影響している。また、人間関係が希薄化し、相手への配慮や共感が低下。発言の影響を理解できず、トラブルを抱える生徒が増加傾向にある。社会性発達の遅れが課題。(香川県・公立・普通科)
- ・ コロナ禍以降、オンライン授業を導入したことにより、学校を欠席することに対するハードルが低くなり、不登校も増加傾向にあるように感じる。また、SNSで共有する文化が根付き、学校行事を楽しむ意欲が強い一方、スマホ依存傾向も見られる。タブレット学習と遊びの区別がつきにくい点が課題。(熊本県・公立・普通科)
- ・ タブレットの導入で集中力が低下し、学校側が伝えたい情報を配信しても確認していないといった問題が発生している。配信情報の浸透率が低く、対面の重要性を再認識している。(宮崎県・公立・普通科)

② お金に関することについて

- ・ 物価高騰や生活困難の影響ではなく、自分のお小遣いを増やしたいという理由でアルバイトをする生徒が多い。欲しいものは我慢せずを買う傾向がある。(北海道・公立・普通科)

- ・ お小遣いをもらっている家庭もあるが、アルバイトをしている生徒が多い。大きな金額を使える生徒は基本的に自分で稼いだお金を使っている。以前よりも今の生徒たちの使う金額が大きくなっていると感じる。(茨城県・公立・普通科)
- ・ アルバイト収入は主に遊興費に充てられ、学業への影響が懸念されるが、小遣い減少を補う自立的行動としての側面も見られる。(東京都・公立・普通科)
- ・ キャッシュレス決済が主流で、お金を使う感覚が薄れているように感じる。お小遣いも現金ではなく、キャッシュレスで受け取っている生徒が増えている。(大阪府・私立・普通科)
- ・ お小遣いは約5千円で変化はないが、キャッシュレスの利用が進んでいる。家庭では教育に関する支出に積極的で、経済的に安定しているように伺える。(熊本県・公立・普通科)
- ・ キャッシュレスの利用が定着し、保護者の口座からお小遣いが自動振込される生徒も多い。キャッシュレスは現金よりも管理が甘いようで、生徒が気軽にお金を使っているように感じる。(宮崎県・公立・普通科)

③インターネット・SNS等の利用と消費者トラブル、成年年齢引き下げについて

- ・ SNSで知り合った顔も知らない相手と友人になったり、会ったことがない相手と付き合ったりする生徒が多く、心配している。成年年齢の引下げについては、未成年者取消権が使えなくなることに不安を感じる生徒もいれば、クレジットカードが使えるようになると楽しみにしている生徒もいる。(北海道・公立・普通科)
- ・ 18歳で何ができるのかを理解していない生徒や誤った情報で理解している生徒がいる。1年生で学んでも3年生になる頃には忘れていく現実がある。(青森県・公立・その他)
- ・ 1年生向けの全体講座と家庭科・社会科での補足授業で身近な消費者トラブルや成年年齢引き下げに関する基礎知識を伝えている。自覚には個人差があり、選挙の時期になると意識が高まる傾向が見られる。(富山県・公立・その他)
- ・ 生徒のほとんどがスマホ・SNSを利用。校内外に波及するトラブルも毎年少なくとも1件は発生しており、全体として把握件数は増加傾向にある。成年年齢引き下げによる生徒の意識変化は限定的である。(東京都・公立・普通科)
- ・ 成年年齢に関しては、様々な契約行為が可能になることを踏まえ、「自己責任」の重要性について生徒に対して啓発的な指導を行っている。(愛知県・公立・普通科)
- ・ 生徒のほとんどがSNSを利用しており、スマホ保有率は極めて高い。高校生でスマホを持たない生徒はいない状況である。(大阪府・私立・普通科)

④生活設計、将来の生活について

- ・ 1年生時にはまだ進路を考えていない生徒が多い。外部講師を招いて現在の自分について整理し、社会で必要とされる力や高校時代にやっておくべきことなどについて講演してもらう機会を設けている。子どもの進路については、「本人に任せます」という親が多い印象がある。(北海道・公立・普通科)
- ・ 授業で「人生すごろく」を作らせると、20代・30代前半までは勢いよく書くが、40代以降は想像力が乏しく書くことがなくなる傾向がある。進路について親と話し合っている様子は感じられず、

親は「この子の人生は本人に任せています」「決定権は本人」と言い、子どもに丸投げしている様子が伺える。子どもは選び方も分からないので、進路の話は保護者よりも学校の先生とする傾向があるように感じる。(青森県・公立・その他)

- ・ 保護者と日常的に話し合っている様子は見られない。就職や進学タイミングになった時に話し合いが始まるイメージである。学校では、様々なジャンルのキャリアを持った方を招いて講演してもらおう機会を設けている。(茨城県・公立・普通科)
- ・ ライフプランに関する講演会を2年次に実施。専門学校に進学する生徒はある程度考えているが、大学に進学する生徒についてはあまり考えておらず、進学後に学部が合わないというケースが見られる。三者面談で家族が「そうだったの」とはじめて知るケースも多く、家庭での会話も少ないのではないと思う。(東京都・公立・普通科)
- ・ 金銭的理由や早期収入への現実志向から「夢」よりも「現実性」を重視する生徒が多い傾向が見られる。授業では、県が作成したライフプラン教材を用いて消費者トラブルや生活設計を学び、授業のまとめで進学・就職を含む将来設計を考えさせている。(富山県・公立・その他)
- ・ 大学進学を目指す生徒向けに、卒業生の講話などを通して将来の進路や就職を見据えた主体的なキャリア教育を実施している。(愛知県・公立・普通科)
- ・ 結婚しなくていいと考えている生徒が多い。家庭科では、正規・非正規といった働き方について話し、自分に合った働き方を見つけるよう指導している。どちらが良いとか悪いとか話していないが、正規で働きたいと思っている生徒が多い印象がある。人生100年時代の老後設計について学ぶ指導も行っている。(大阪府・私立・普通科)
- ・ 地元志向が強く、進学先は県内や四国が中心。物価高騰により、経済的な理由で地元進学を選ぶ生徒も増えているように感じる。生活設計については主に家庭科で指導しており、別途カリキュラムは実施していない。(香川県・公立・普通科)
- ・ 地元志向が強いため、県内進学が多く、一人暮らしを避ける生徒が多いように感じる。県外進学者は就職も県外となる傾向がある。生活設計については家庭科、公民科、保健体育の各教科の授業と学年の進路指導で扱っている。(熊本県・公立・普通科)
- ・ 生徒は自作のフローチャートで20～30年後の人生設計を考え、進学や希望進学地、将来の職業を意識して進路選択について指導している。(宮崎県・公立・普通科)

2. 家庭科の実施状況

①授業・教材について

- ・ 教科書に書いてあることは触れているが、家のことについて生徒のみんなの前で質問するなど、プライバシーに関わることは避けている。(北海道・公立・普通科)
- ・ 小中学校で学んだ衣食住の部分は時間を縮め、これからの人生や共生社会といった内容を重視しているが、生徒の想像力の乏しさなどが難しい点である。紙やワークシート、タブレットなど全てを織り交ぜて使うようにしているが、ノートに書くことが一番効果的と感じている。(青森県・公立・その他)
- ・ 家庭環境が複雑な生徒もおり、「自分の家族を振り返る」という活動を強制しないようにしている。また、中にはクレジットカードを所有している生徒もおり、18歳成人やクレジットカードの使い方

について授業で触れるようにしている。一方的な講義を避け、ゲーム教材などを活用しながら授業を実施している。(茨城県・公立・普通科)

- ・ 経済的困難や生活保護といったデリケートな内容は扱いにくく、生徒も実感を持たず理解が進みにくい場面がある。授業でSDGsやエシカル消費を扱う際は、校内外でフードドライブなどの実践活動にも取り組んでいる。特にフードドライブは生徒が主体的に動きやすく教材として有効と感じている。(富山県・公立・その他)
- ・ 家族の形について教える際は配慮しており、難しさも感じている。人によって「普通」という感覚が異なるため、「普通」という表現は使わないようにしており、「一般的」などの表現にとどめている。授業では主に自作プリントを使用しているが、教科書に付属している二次元コードからアクセスできる、無料のデジタル教材も活用している。(大阪府・私立・普通科)
- ・ 母子家庭や父子家庭など家族のかたちが多様化しているため、生徒に配慮しながら社会の現状を伝えるよう心掛けている。(熊本県・公立・普通科)
- ・ 教科書に掲載されているモデルケースはあくまでも一例だと伝え、幸せの形が多様化している点を強調して話をしている。生徒に自分のライフプランについてワークシートを記入してもらうが、発表はしないよう配慮している。認知症を理解する際には、テレビ番組を活用したところ生徒の疑問解消に効果があった。持続可能な消費については、食生活、衣生活、子育ての単元のまとめの最後に実施している。(宮崎県・公立・普通科)

(公民科の実施状況)

- ・ 公共「自助・共助・公助」では、どれか一つを強調しないようバランス感覚をもって理解させるよう意識している。社会福祉や政治経済を専攻する学校へ進学する生徒は、小論文作成時に役立つ内容だとして指導している。(香川県・公立・普通科)

②アクティブ・ラーニングについて

- ・ アップサイクルの取り組みとして、使わなくなったジーンズを譲り受けて新しいものを作る授業を実施。デザイン画を発表したり、不要になったものを生活に使えるものに変える方法を考えたり、最終的には発表会を実施する。(北海道・公立・普通科)
- ・ 生徒たちに考えさせる材料を準備し、単元の後半で考えさせるようにしているが、基礎力がない段階でアクティブ・ラーニングを重ねても効果は薄いと感じている。(青森県・公立・その他)
- ・ 自身について話すことに抵抗感や苦手意識がある生徒には、自分の発表している姿を動画で撮影して振り返る活動を取り入れている。最初は恥ずかしがるが、自分で見ることで気づきが得られる効果がある。(茨城県・公立・普通科)
- ・ 各授業での実施は難しいものの、2コマに1回程度や短時間のペア・グループ活動を取り入れている。基礎知識が十分であれば学習が活性化する一方、知識不足の場合は発言が続かず効果が限定的と感じる。生徒の自己表現力低下とも関連があると感じる。(東京都・公立・普通科)
- ・ 毎時間の実施は難しいが、食生活の授業では日々の食事内容を共有し、栄養理解、供給源の追跡や食料自給率・国際比較を通じて課題認識を促し、「環境のためにできること」や「自分に合った選択」を考え発表するような授業を実施している。(富山県・公立・その他)

- ・ いま自分ができているエンカル消費・できていないエンカル消費など、自分で調べたこと発表させる授業を実施している。(大阪府・私立・普通科)
- ・ コロナ禍前からアクティブ・ラーニングに取り組んでいるが、グループ討議や発表だけでなく、意見の共有を通じて生徒が考えるプロセスを重視している。(香川県・公立・普通科)
- ・ 各単元で班活動を取り入れ、ディベートや弁当作りなどの制作・発表を通して、主体的に学び、評価される経験を重視している。(熊本県・公立・普通科)
- ・ すべての単元でグループ活動を増やし、クイズ形式でAI活用も許可しつつ、正解を導く過程を通して生徒に考えさせる指導を行っている。(宮崎県・公立・普通科)

③金融教育について

- ・ 年間として10時間程度実施。専門的な内容については外部講師に講話を依頼している。(北海道・公立・普通科)
- ・ 家庭科の授業で消費生活の分野を多めに取り、5時間ほど使っている。資産形成については専門家に依頼するべきだと思うが、まだ踏み切れていない。(青森県・公立・その他)
- ・ ゲーム教材を取り入れながら、約3ヶ月間、毎回10～15分程度の時間を取って実施している。NISAなどの金融商品についても触れるようにしている。(茨城県・公立・普通科)
- ・ 資産形成について1時間、金融教育については公民科で2時間程度が授業に導入されているものの、時間的制約から十分な指導が難しく、パンフレット配布や講演会を中心に実施している。内容は資産形成よりも家庭経済や保険の基礎が中心。(東京都・公立・普通科)
- ・ 1年生で1～2時間ほど資産形成の基礎を紹介するに留まっている。校内に専門人材が少ないため外部専門家の活用が必要となっている。(富山県・公立・その他)
- ・ 金融教育は主に1年生を対象に「公共」と「家庭基礎」の科目で実施している。2年生以上では、特別な授業は行っていない。(愛知県・公立・普通科)
- ・ 金融教育は年間通して2～3時間実施しており、株や投資への関心が高い生徒も多い。消費者教育は2～3か月かけて幅広く学習している。(大阪府・私立・普通科)
- ・ 家庭科と公民科で年間通して計5～6時間を金融教育に割いている。卒業前には、3年生に対して、消費生活に関する講座を行い、身近な金融トラブルや相談をすることの大切さについて指導している。(香川県・公立・普通科)
- ・ 家庭科で年間通して計6時間を金融教育に割いている。給与明細の見方や投資に関するゲームなどを通して実践的に学んでいる。今年は銀行から外部講師を招く予定。(熊本県・公立・普通科)
- ・ 資産形成に関する授業を年間通して2時間実施しており、マネープランや金融商品の基礎を扱っている。投資よりも消費者としての基礎理解に重点を置いている。(宮崎県・公立・普通科)

④外部講師の利用について

- ・ 資産形成などの話は基礎知識や事前学習がないと難しく、内容を淡々と話されるだけでは生徒が理解できないため、利用には慎重になる。(北海道・公立・普通科)
- ・ 他の先生からの情報などを参考にしているが、信用できるかどうかかわからず導入に踏み込みづらい。実際に授業を体験できるような機会があると良い。(青森県・公立・その他)

- ・ 学校の予算制約に対応するため、無料の講師派遣制度を活用している。(東京都・公立・普通科)
- ・ 消費者被害については弁護士などの専門家を招いている。職業科では、卒業生の講話や理学療法士による乳幼児ケア、助産師による命の学習など多様な外部連携を活用している。(富山県・公立・その他)
- ・ 国語科では高校1年生を対象に美術館学芸員を招き、古文と当時の文化・芸術の関連を専門的視点で学ぶ特別授業を毎年実施しているが、外部講師の案内は年度途中が多く授業計画に組み込みづらい。(愛知県・公立・普通科)
- ・ 証券会社の方を呼んで資産形成の出前授業を実施した際、授業後に補足をする必要があったが時間の確保が難しく、時間的制約から今年度の実施は見送ることとした。(大阪府・私立・普通科)
- ・ 模擬選挙の出前授業、OBによる職業講話、人権教育など、最新情報に生徒が触れる機会を意識して活用している。年度によって、金融教育も実施している。(香川県・公立・普通科)
- ・ 外部講師は利用している。今年は銀行の方に金融教育を行ってもらおう予定。(熊本県・公立・普通科)
- ・ 子育て支援や高齢者福祉に所属している市役所職員の方を年に数回呼んで講義をしてもらっている。(宮崎県・公立・普通科)

「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート」

【調査結果】

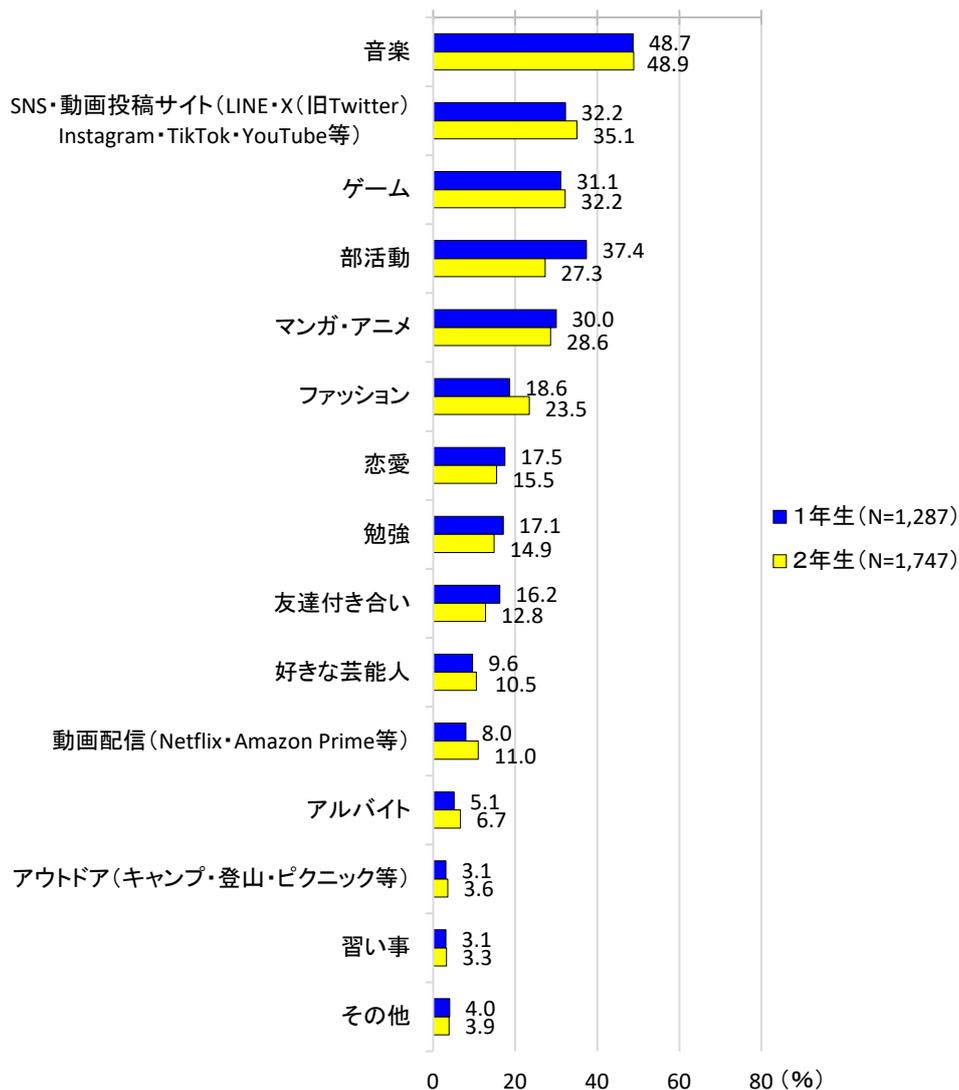
I 自身のことについて

1. 興味があること

1年生、2年生ともに「音楽」が50%弱で最も多く、1年生は「部活動」が40%弱で2位、「SNS・動画投稿サイト」が30%強で3位であった。2年生は「SNS・動画投稿サイト」が30%台半ばで2位、「ゲーム」が30%強で3位と、学年によって異なる結果となった。

【図表 I-1-1】興味があること（複数回答3つまで）＜学年別＞

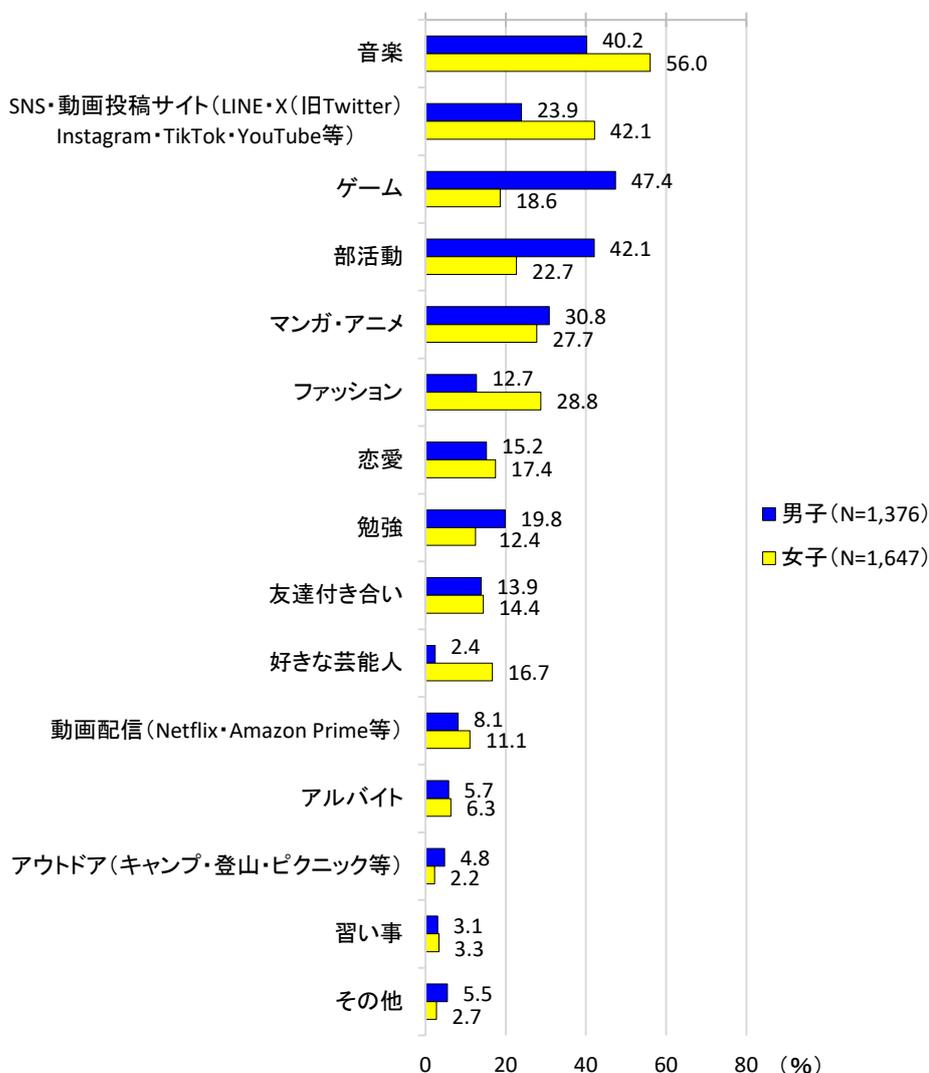
	1 位	2 位	3 位
1 年生 (N=1, 287)	音楽 (48.7%)	部活動 (37.4%)	SNS・動画投稿サイト (32.2%)
2 年生 (N=1, 747)	音楽 (48.9%)	SNS・動画投稿サイト (35.1%)	ゲーム (32.2%)



性別で見ると、男子は「ゲーム」が50%弱で1位（女子では6位）となり、次いで「部活動」が40%強で2位、「音楽」が約40%で3位であった。女子は「音楽」が50%台半ばで1位となり、「SNS・動画投稿サイト」が40%強で2位、「ファッション」が30%弱で3位（男子では9位）と、性別によって異なる結果となった。

【図表 I-1-2】興味があること（複数回答3つまで）＜性別＞

	1 位	2 位	3 位
男子 (N=1,376)	ゲーム (47.4%)	部活動 (42.1%)	音楽 (40.2%)
女子 (N=1,647)	音楽 (56.0%)	SNS・動画投稿サイト (42.1%)	ファッション (28.8%)



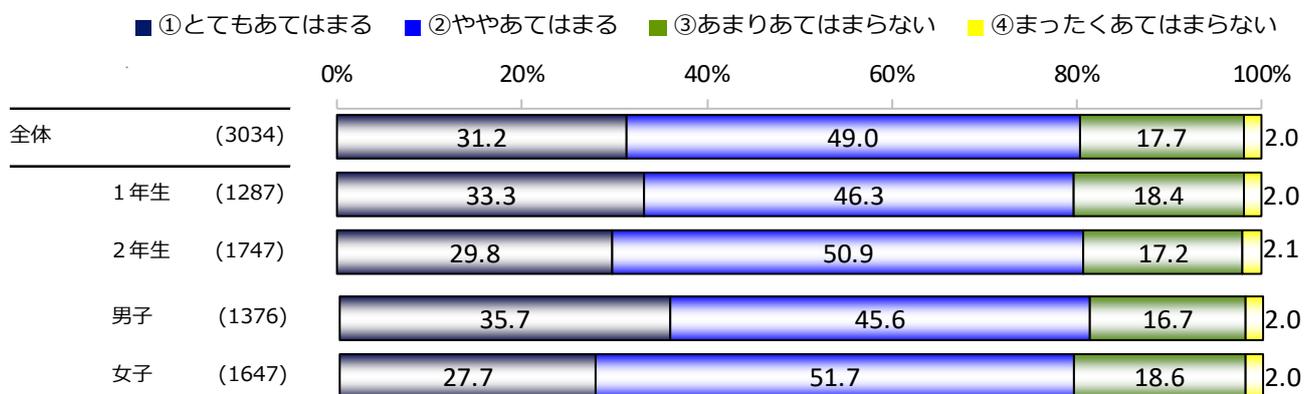
2. 普段の生活に関する考え方や傾向

(1) 欲しいものはすぐ手に入れたい方だ

全体の約80%が「欲しいものはすぐ手に入れたい方だ」と回答した。学年別では、「あてはまる(計)」※は、大きな差はみられなかった。性別では、「とてもあてはまる」は男子の割合が高く、「ややあてはまる」は女子の割合が高いが、「あてはまる(計)」では大きな差はみられなかった。

※「あてはまる(計)」＝「とてもあてはまる」＋「ややあてはまる」

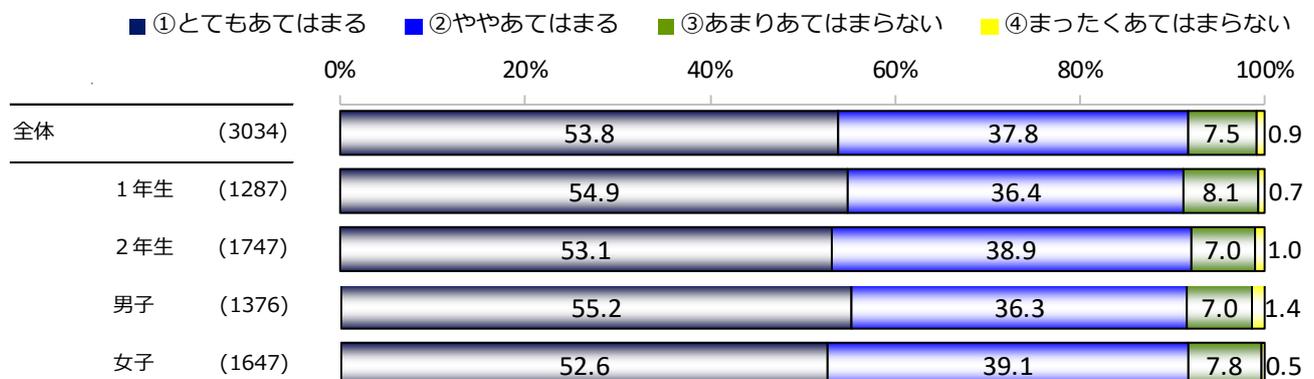
【図表 I-2-1】 欲しいものはすぐ手に入れたい方だ<全体・学年別・性別>



(2) 買ったものはできるだけ長く使う

全体の90%強が「買ったものはできるだけ長く使う」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-2-2】 買ったものはできるだけ長く使う<全体・学年別・性別>

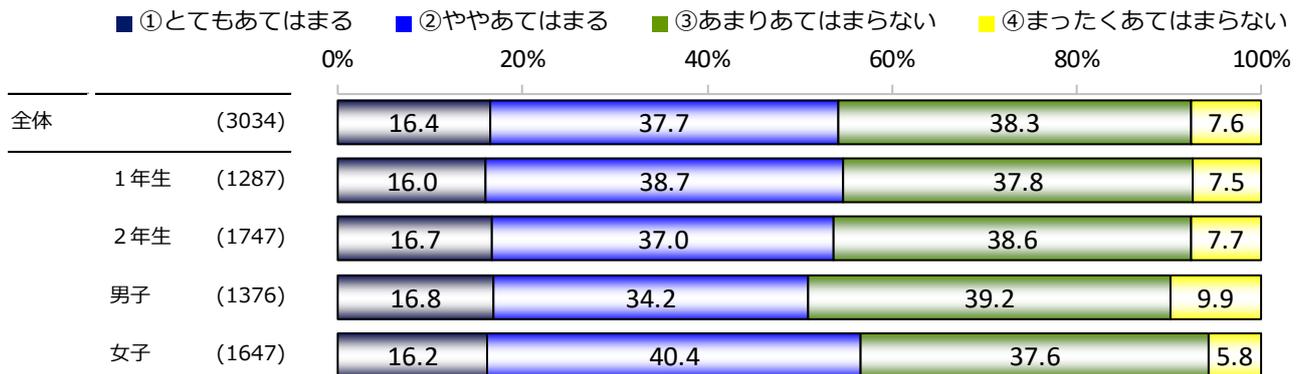


(3) 買い物は値段が安いのがいちばんだと思う

全体では、50%台半ばが「買い物は値段が安いのがいちばんだと思う」と回答した。学年別で大きな差はみられなかった。性別では、「ややあてはまる」は女子の割合が高く、「あてはまる(計)」※でも女子の割合が高かった。

※「あてはまる(計)」＝「とてもあてはまる」＋「ややあてはまる」

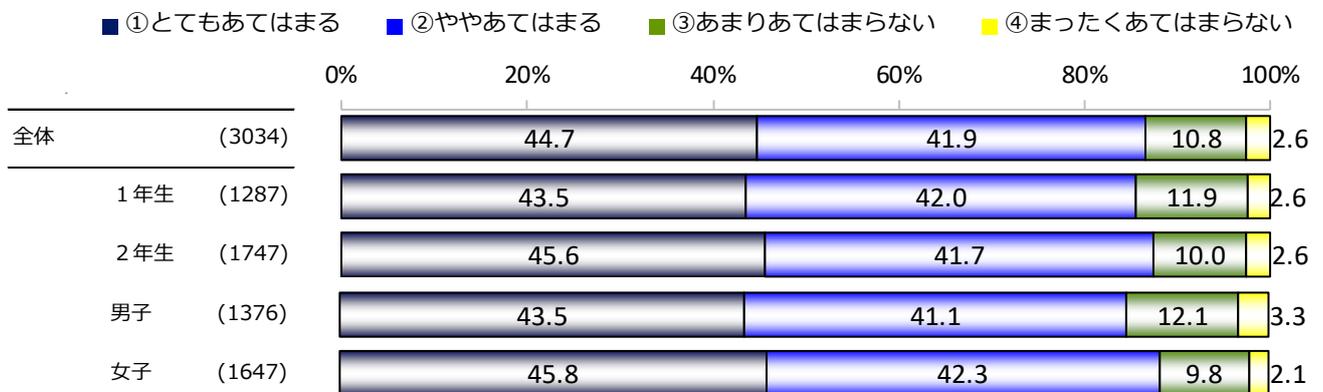
【図表 I-2-3】 買い物は値段が安いのがいちばんだと思う<全体・学年別・性別>



(4) 【新規項目】何かを決めるときは複数のものを比較して決めている

全体では、80%台半ばが「何かを決めるときは複数のものを比較して決めている」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-2-4】 何かを決めるときは複数のものを比較して決めている<全体・学年別・性別>

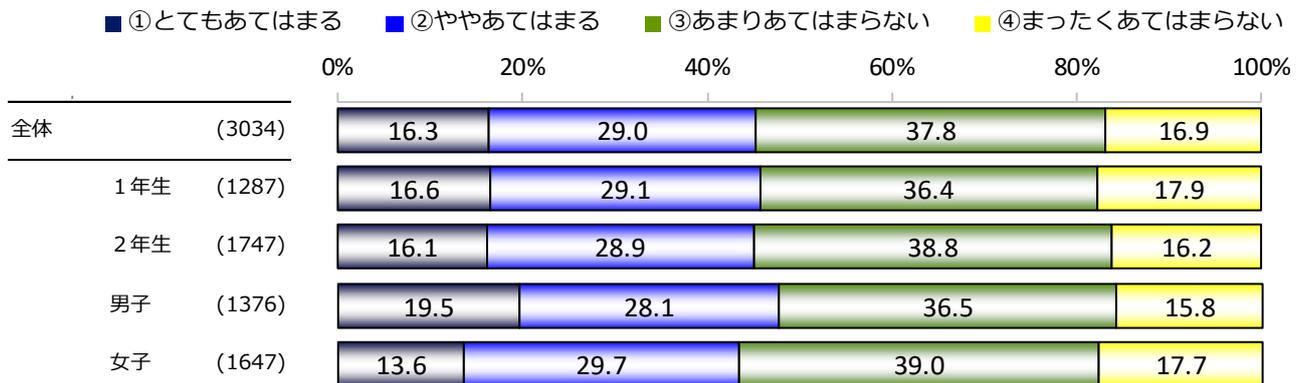


(5) 【新規項目】これから先のことは、あれこれ考えなくてもどうにかなると思う

全体では、40%台半ばが「これから先のことは、あれこれ考えなくてもどうにかなると思う」と回答した。学年別では大きな差はみられず、性別では、「とてもあてはまる」は男子の割合が高かった。

【図表 I-2-5】これから先のことは、あれこれ考えなくてもどうにかなると思う

＜全体・学年別・性別＞

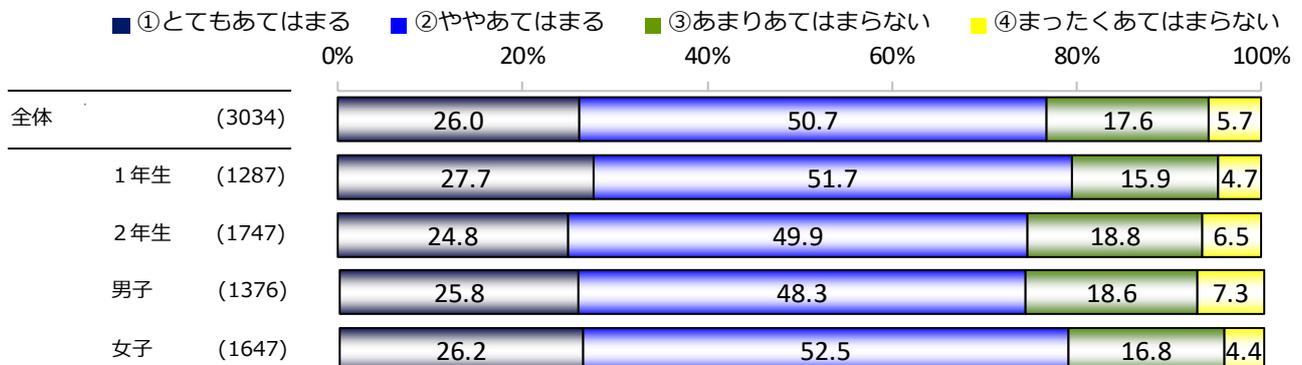


(6) 【新規項目】社会の一員として、何か社会のためになることをしたいと思う

全体では、70%台半ばが「社会の一員として、何か社会のためになることをしたいと思う」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-2-6】社会の一員として、何か社会のためになることをしたいと思う

＜全体・学年別・性別＞



(7) 【新規項目】 自分の考えを主張するより、周りの人の考えを優先している

全体では、80%弱が「自分の考えを主張するより、周りの人の考えを優先している」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-2-7】 自分の考えを主張するより、周りの人の考えを優先している

＜全体・学年別・性別＞



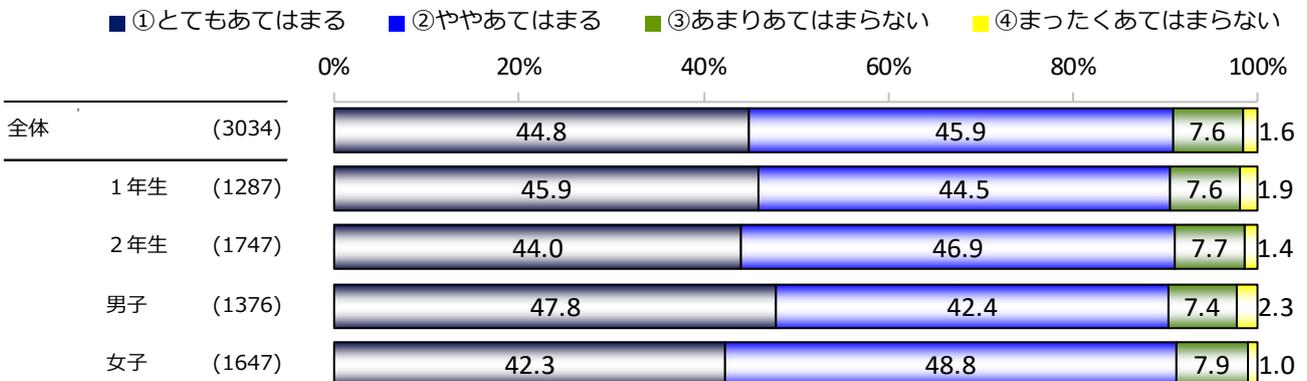
(8) 【新規項目】 自分が成長するためには、困難にも立ち向かっていくべきと思う

全体では、90%強が「自分が成長するためには、困難にも立ち向かっていくべきと思う」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「とてもあてはまる」は男子の割合が高いが、「あてはまる (計)」※では、大きな差はみられなかった。

※「あてはまる (計)」 = 「とてもあてはまる」 + 「ややあてはまる」

【図表 I-2-8】 自分が成長するためには、困難にも立ち向かっていくべきと思う

＜全体・学年別・性別＞

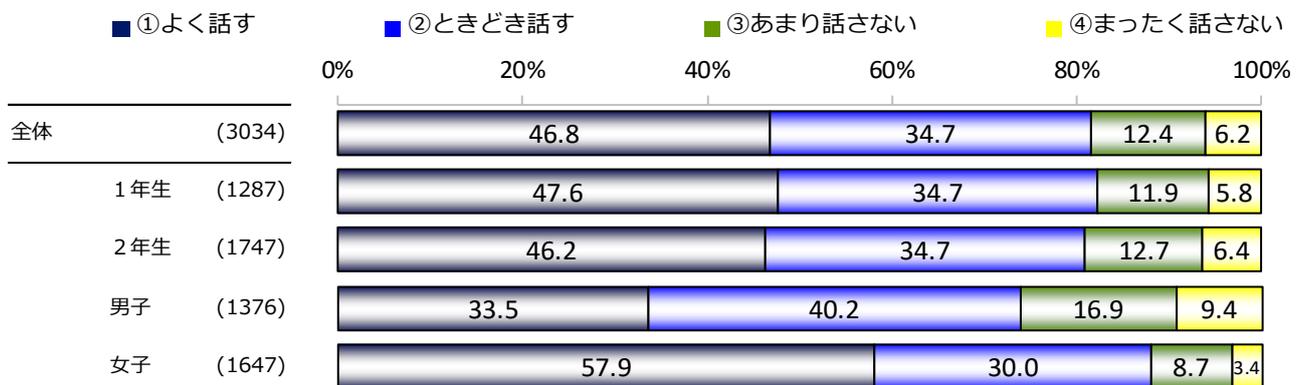


3. 家族との会話について

(1) 学校での出来事

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の80%強が「学校での出来事」について話すと回答した。学年別では大きな違いはみられなかったが、性別では、「よく話す」は女子の割合が24ポイント高く、「ときどき話す」「あまり話さない」「まったく話さない」は男子の割合が高かった。

【図表 I-3-1】 学校での出来事<全体・学年別・性別>



(2) 高校卒業後の進路

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の70%弱が「高校卒業後の進路」について話すと回答した。学年別では、「話す（計）」※は2年生の割合が高く、「あまり話さない」は1年生の割合が高かった。性別では、「話す（計）」※は女子の割合が高かった。

※「話す（計）」＝「よく話す」＋「ときどき話す」

【図表 I-3-2】 高校卒業後の進路<全体・学年別・性別>

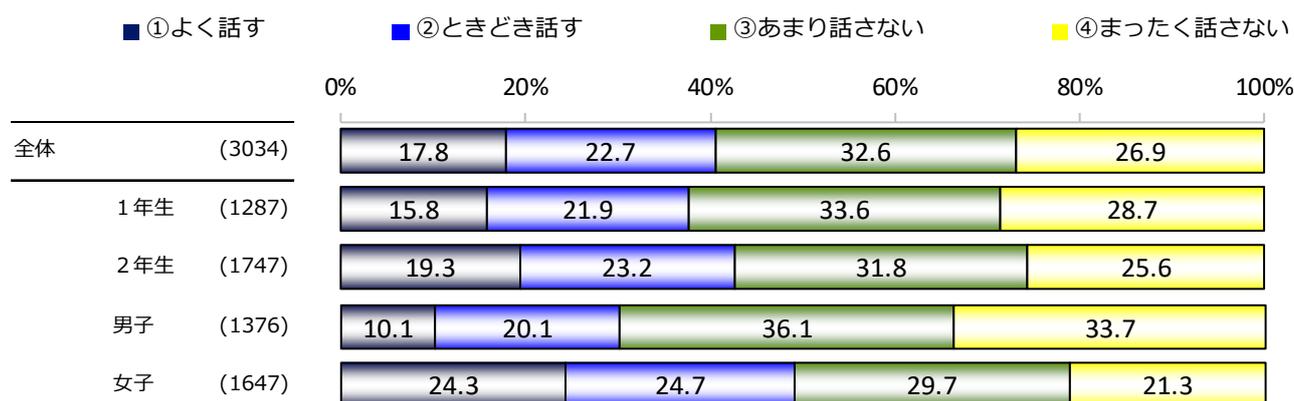


(3) 悩みごと（進路以外）

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の40%強が「悩みごと（進路以外）」について話すと回答した。学年別では、「話す（計）」※は2年生の割合がやや高かった。性別では、「よく話す」は女子の割合が高く、「話す（計）」※でも女子が19ポイント高かった。

※「話す（計）」＝「よく話す」＋「ときどき話す」

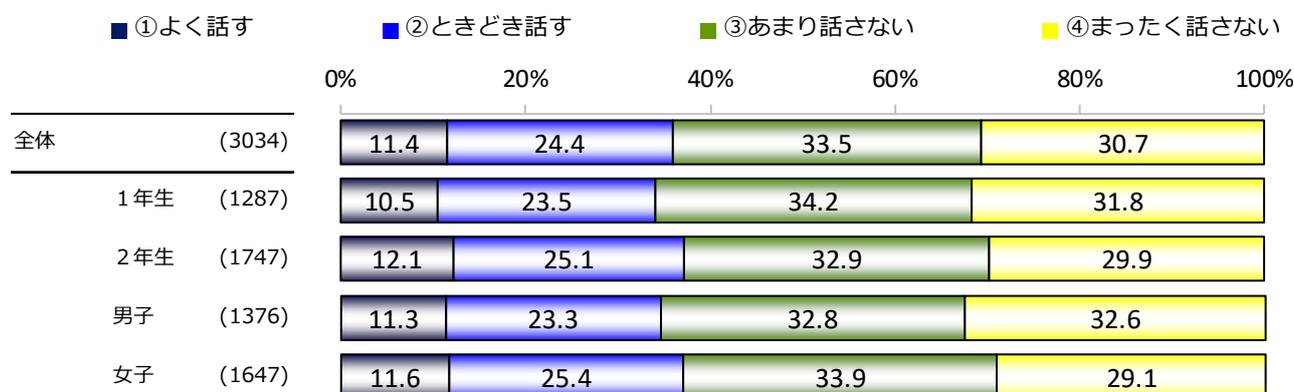
【図表 I-3-3】 悩みごと（進路以外）＜全体・学年別・性別＞



(4) お小遣いの使い方

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の30%台半ばが「お小遣いの使い方」について話すと回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-3-4】 お小遣いの使い方＜全体・学年別・性別＞

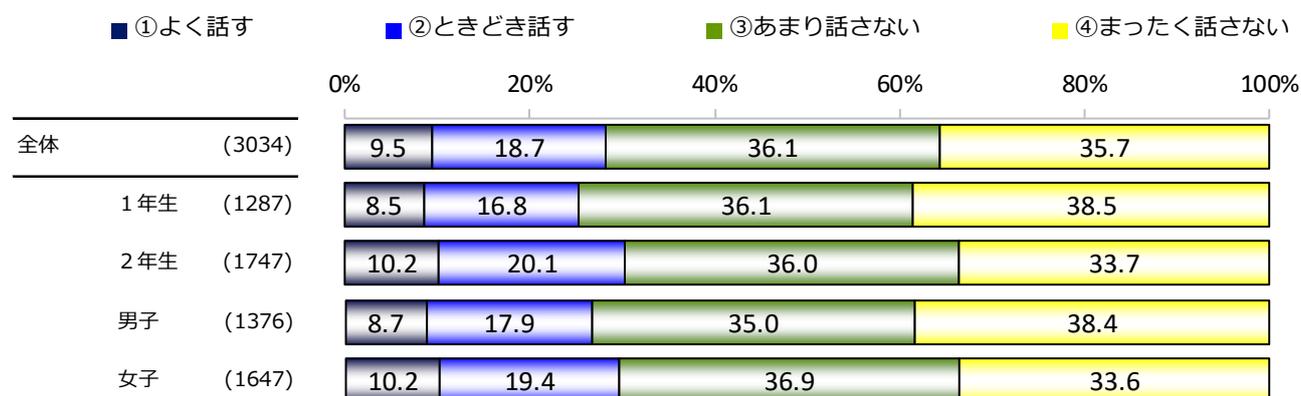


(5) 今の家計状況

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の30%弱が「今の家計状況」を話すと回答した。学年別では、「話す(計)」※は2年生の割合がやや高く、「まったく話さない」は1年生の割合がやや高かった。性別では、「まったく話さない」は男子の割合がやや高かった。

※「話す(計)」＝「よく話す」＋「ときどき話す」

【図表 I-3-5】 今の家計状況<全体・学年別・性別>

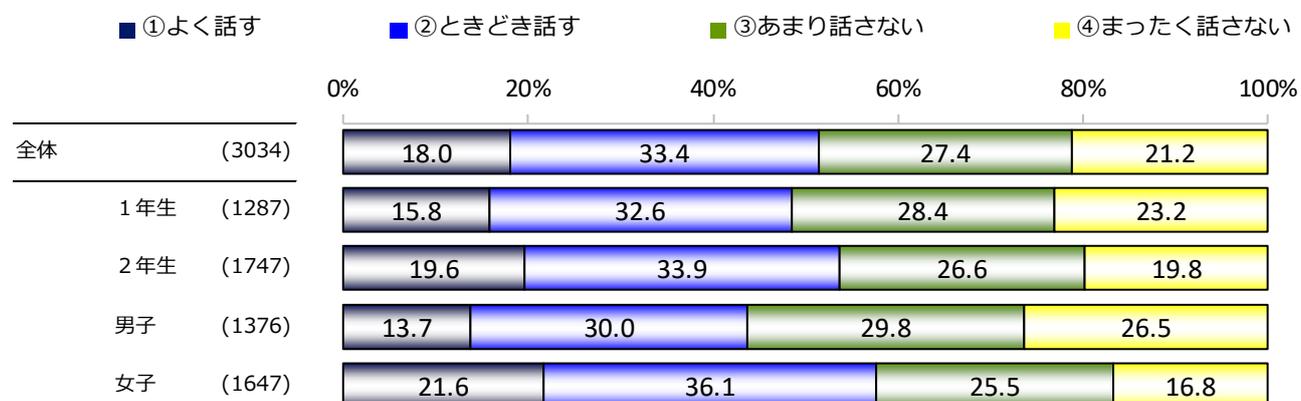


(6) 親の仕事内容

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の50%強が「親の仕事内容」について話すと回答した。学年別では、「話す(計)」※は2年生の割合が高かった。性別では、「話す(計)」※は女子の割合が高く、「まったく話さない」は男子の割合が高かった。

※「話す(計)」＝「よく話す」＋「ときどき話す」

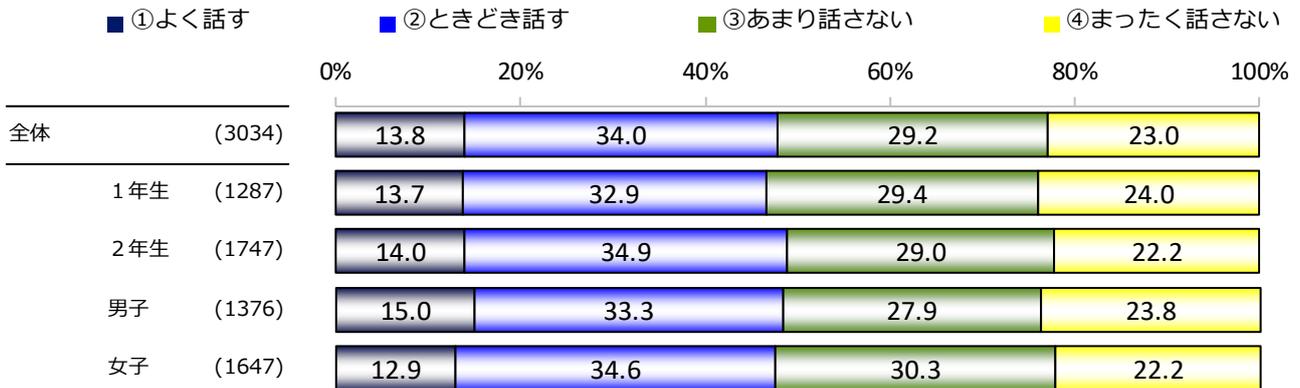
【図表 I-3-6】 親の仕事内容<全体・学年別・性別>



(7) 【新規項目】政治・経済などのニュース、出来事

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の 50%弱が「政治・経済などのニュース、出来事」について話すと回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表 I-3-7】政治・経済などのニュース、出来事<全体・学年別・性別>

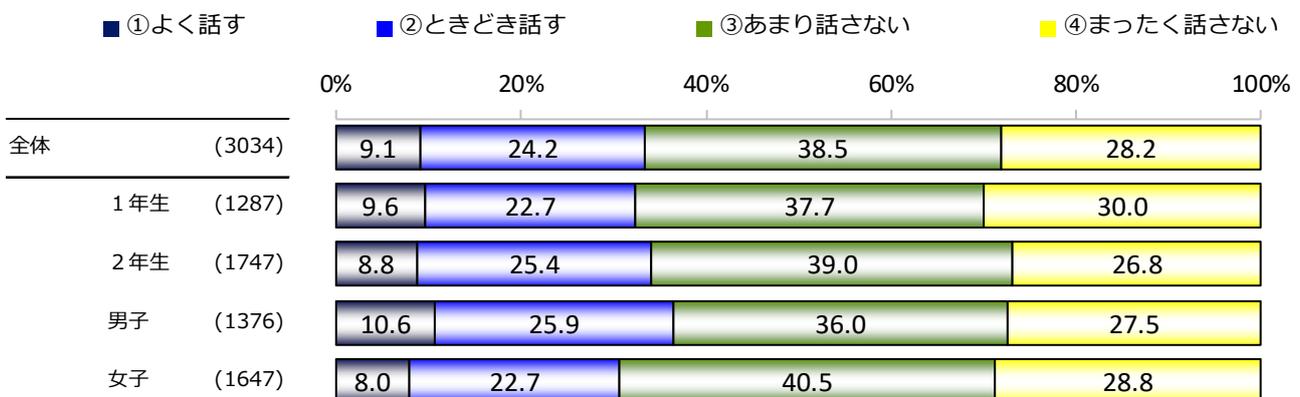


(8) 万が一のこと（病気・ケガ・事故等）に備えるための手段(健康保険などの国の保障や生命保険・損害保険 等)

「よく話す」「ときどき話す」と合わせて全体の 30%台半ば「万が一のこと（病気・ケガ・事故等）に備えるための手段」について話すと回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「話す（計）」※は男子の割合が高かった。

※「話す（計）」＝「よく話す」＋「ときどき話す」

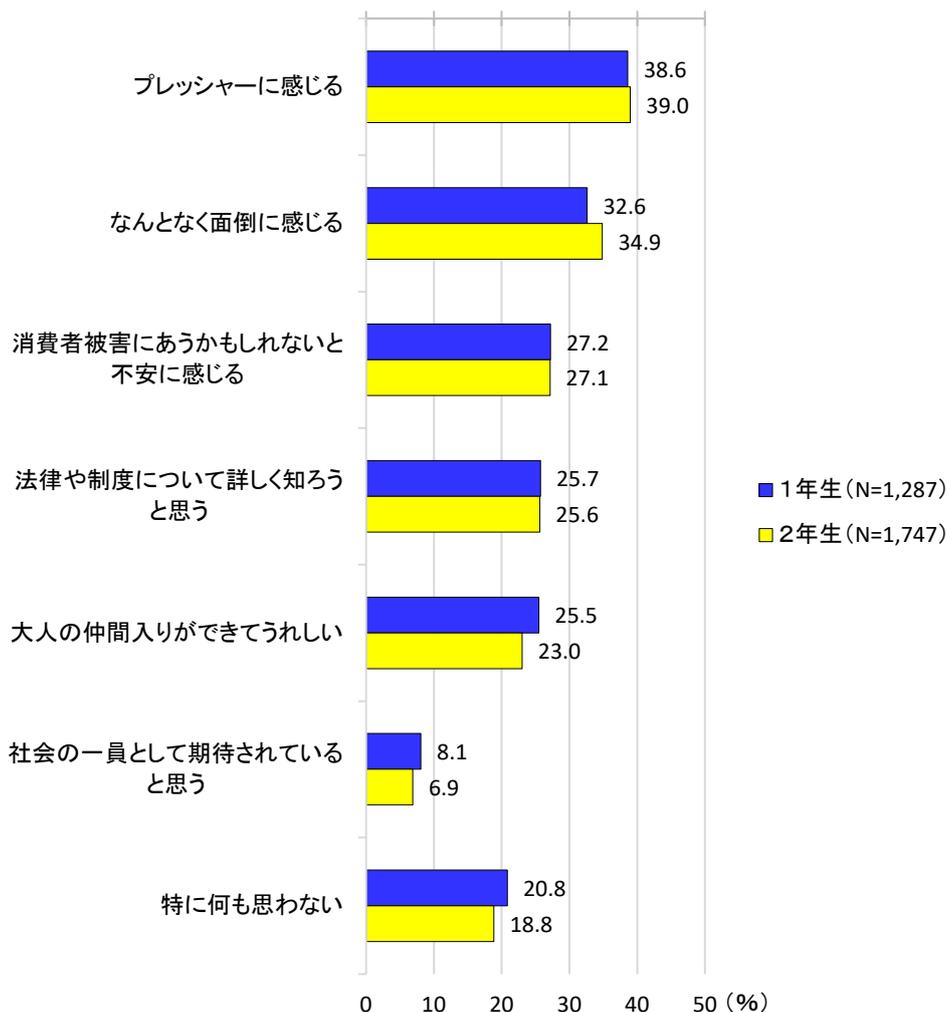
【図表 I-3-8】万が一のこと（病気・ケガ・事故等）に備えるための手段<全体・学年別・性別>



4. 18歳成年に対する意識

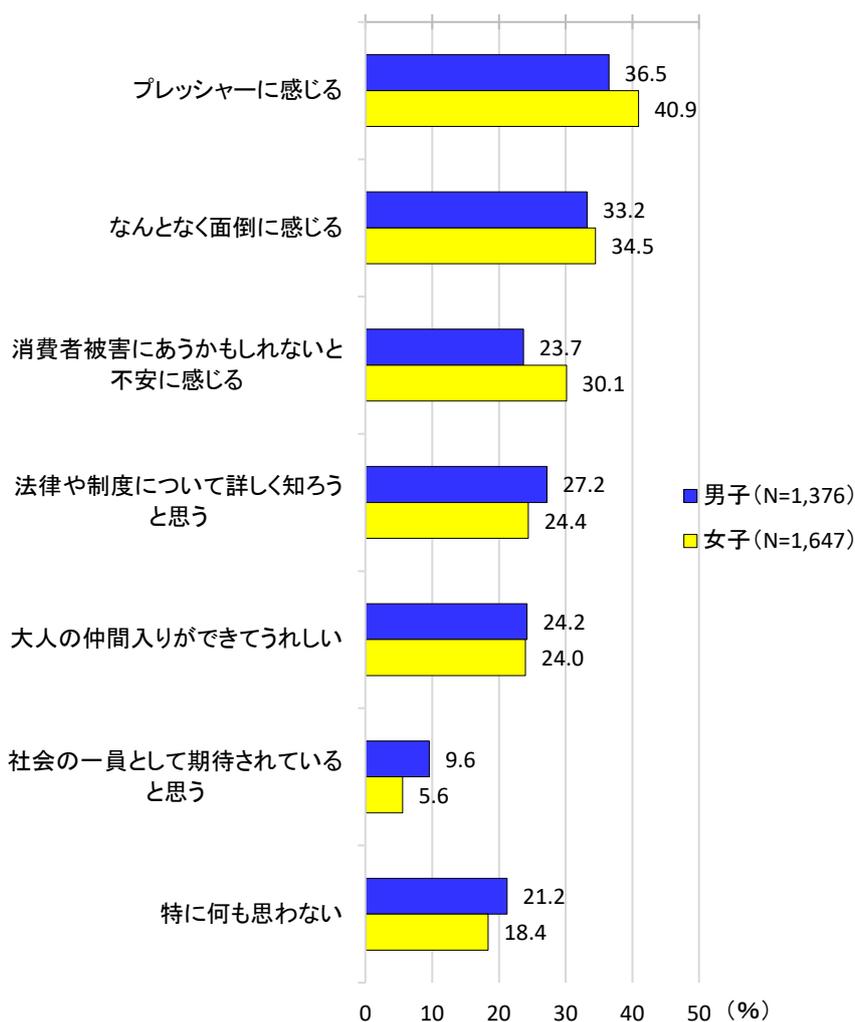
「プレッシャーを感じる」が1年生、2年生ともに40%弱と最も多く、次いで1年生の30%強と2年生の30%台半ばが「なんとなく面倒を感じる」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。

【図表 I-4-1】18歳成年に対する意識（複数回答）＜学年別＞



性別では、男子、女子ともに「プレッシャーを感じる」が最も多く、男子は30%台半ば、女子は40%強となった。男子は、次いで「なんとなく面倒を感じる」「法律や制度について詳しく知ろうと思う」、女子は、「なんとなく面倒を感じる」「消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる」の順となった。「消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる」は男子と比べて女子の割合が高かった。

【図表 I-4-2】18歳成年に対する意識（複数回答）＜性別＞



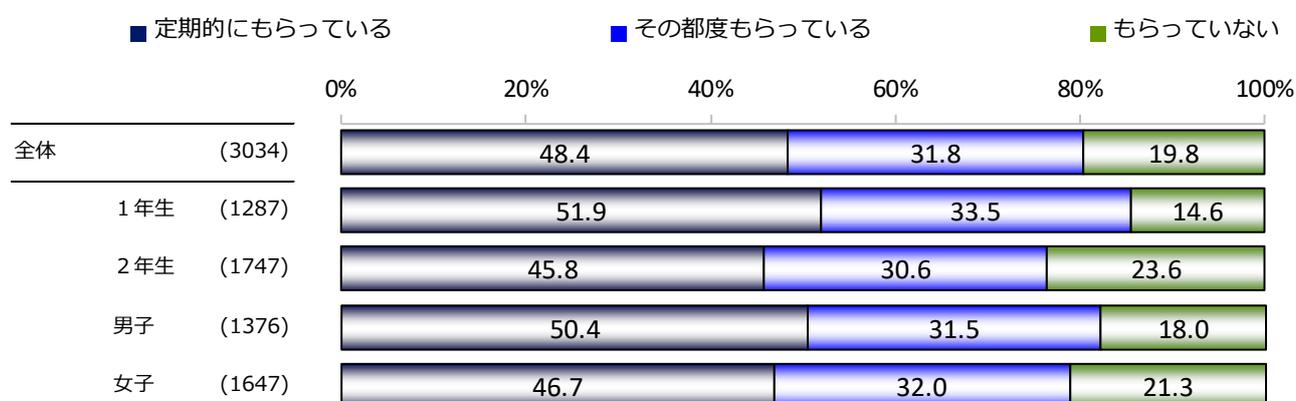
Ⅱ お金に関することについて

1. お小遣いについて

1-1 お小遣いの有無

全体では、50%弱がお小遣いを「定期的にもらっている」と回答した。「その都度もらっている」も合わせると、約80%がお小遣いをもらっているという結果であった。学年別では2年生に比べて1年生がお小遣いをもらっている割合が高いが、性別では大きな差はみられなかった。

【図表Ⅱ-1-1】 お小遣いの有無＜全体・学年別・性別＞



1-2 1カ月にもらっている金額

定期的及びその都度にお小遣いをもらっている生徒（アルバイトを除く）の、1カ月にもらっている金額は平均で6,181円（中央値で5,000円）であった。平均値で見ると、1年生より2年生が、女子より男子がそれぞれ1,000円以上多くもらっていた。中央値で見ると、学年別、性別で差はなかった。

【図表Ⅱ-1-2】 1カ月にもらっている金額＜全体・学年別・性別＞

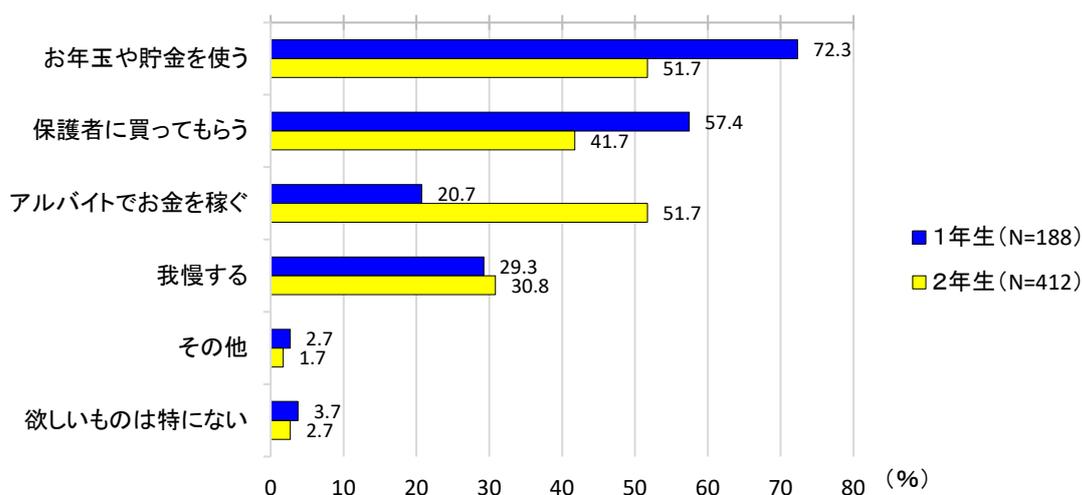
		平均値	中央値
学年別	高校1年生 (N=1,099)	5,588	5,000
	高校2年生 (N=1,335)	6,669	5,000
性別	男子 (N=1,128)	6,898	5,000
	女子 (N=1,296)	5,560	5,000
全体 (N=2,434)		6,181	5,000

(単位：円)

1-3 お小遣いをもらっていない場合の対処法

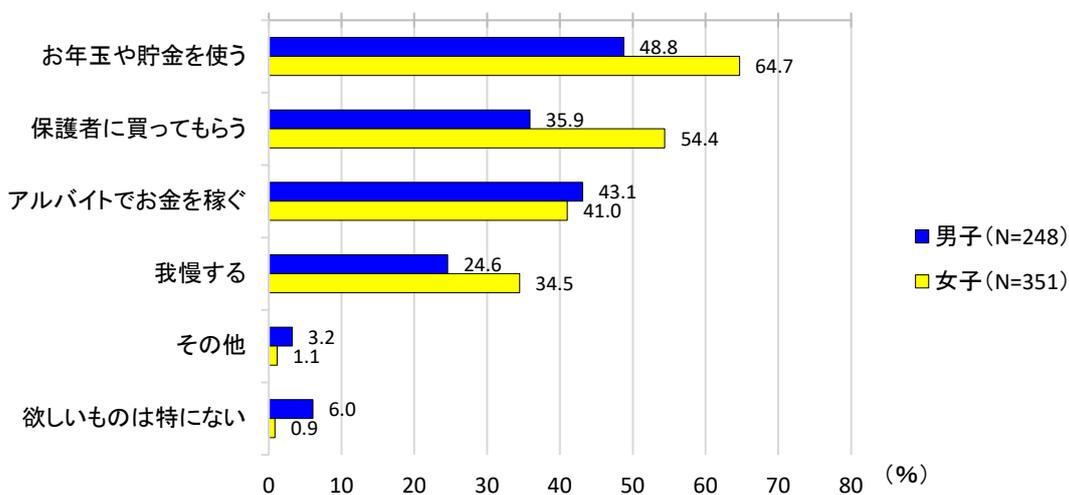
学年別では、1年生では「お年玉や貯金を使う」が70%強と最も多く、次いで「保護者を買ってもらおう」「我慢する」の順、2年生は「お年玉や貯金を使う」「アルバイトでお金を稼ぐ」が50%強の同率で最も多く、次いで「保護者を買ってもらおう」の順となった。「アルバイトでお金を稼ぐ」は2年生が31ポイント、「お年玉や貯金を使う」は1年生が21ポイント高く差がみられた。

【図表Ⅱ-1-3】 お小遣いをもらっていない場合の対処法（複数回答）＜学年別＞



性別では、「お年玉や貯金を使う」が男子は50%弱、女子は60%台半ばと最も多く、男子は、次いで「アルバイトでお金を稼ぐ」「保護者を買ってもらおう」の順、女子は、「保護者を買ってもらおう」「アルバイトでお金を稼ぐ」の順となった。「お年玉や貯金を使う」と「保護者を買ってもらおう」は女子が男子と比べて15ポイント以上高く、性別による差が大きかった。

【図表Ⅱ-1-4】 お小遣いをもらっていない場合の対処法（複数回答）＜性別＞

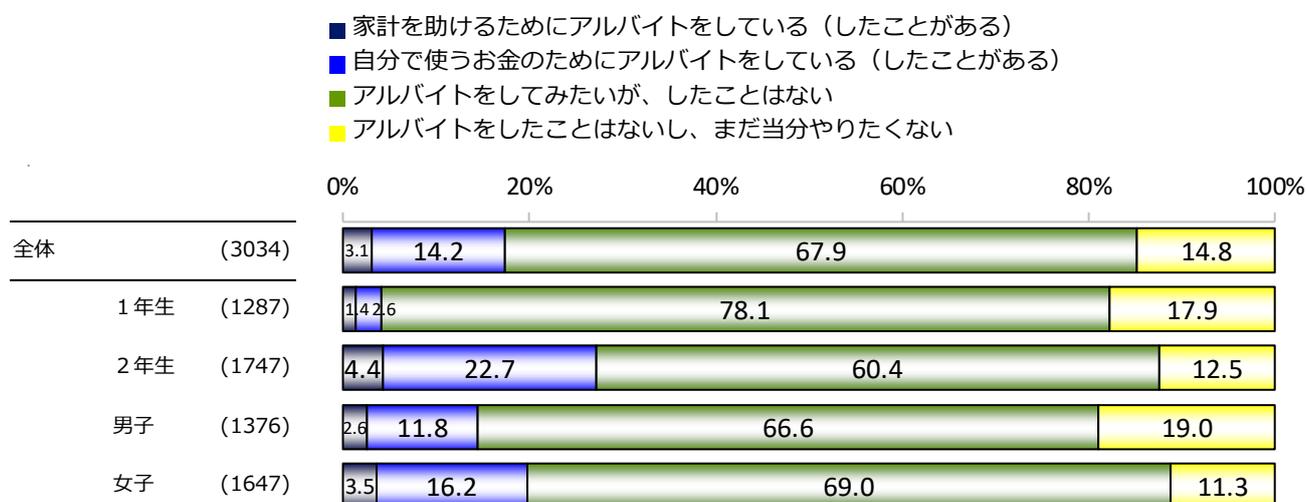


2. アルバイトについて

2-1 アルバイト経験

全体では、「家計を助けるためにしている（したことがある）」「自分で使うためにしている（したことがある）」を合わせたアルバイト経験のある人は全体で20%弱であり、「してみたいが、したことはない」が70%弱であった。学年別では、「自分で使うためにしている（したことがある）」は2年生の割合が20ポイント高く、「してみたいが、したことはない」は1年生の割合が18ポイント高かった。性別ではアルバイト経験のある人は女子の割合が高く、「アルバイトをしたことはないし、まだ当分やりたくない」は男子の割合が高かった。

【図表Ⅱ-2-1】アルバイト経験＜全体・学年別・性別＞



2-2 1カ月の収入金額

アルバイトの1カ月の収入金額は、平均で42,395円（中央値で40,000円）であった。中央値で見ると、学年別、性別で差はなかった。

【図表Ⅱ-2-2】1カ月の収入金額＜全体・学年別・性別＞

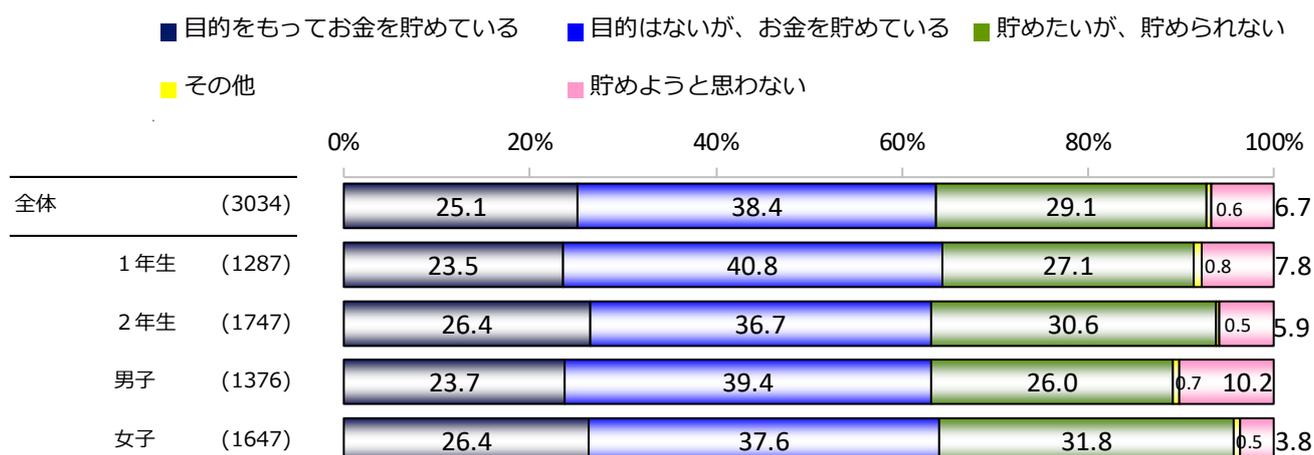
		平均値	中央値
学年別	高校1年生 (N=52)	50,411	40,000
	高校2年生 (N=473)	41,513	40,000
性別	男子 (N=198)	43,169	40,000
	女子 (N=325)	42,027	40,000
全体 (N=525)		42,395	40,000

(単位：円)

3. 貯金の有無

「目的をもってお金を貯めている」「目的はないが、お金を貯めている」を合わせると、全体で60%台半ばの高校生が貯金をしていると回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では「貯めようと思わない」は男子の割合が高く、「貯めたいが、貯められない」は女子の割合が高かった。

【図表Ⅱ-3-1】貯金の有無＜全体・学年別・性別＞



貯金の目的についての自由記述では、「欲しいものを買うため」という回答が最も多く、「将来のため」や「遊び・旅行のため」という回答もあった。

【図表Ⅱ-3-2】貯金の目的（自由記述、複数回答）

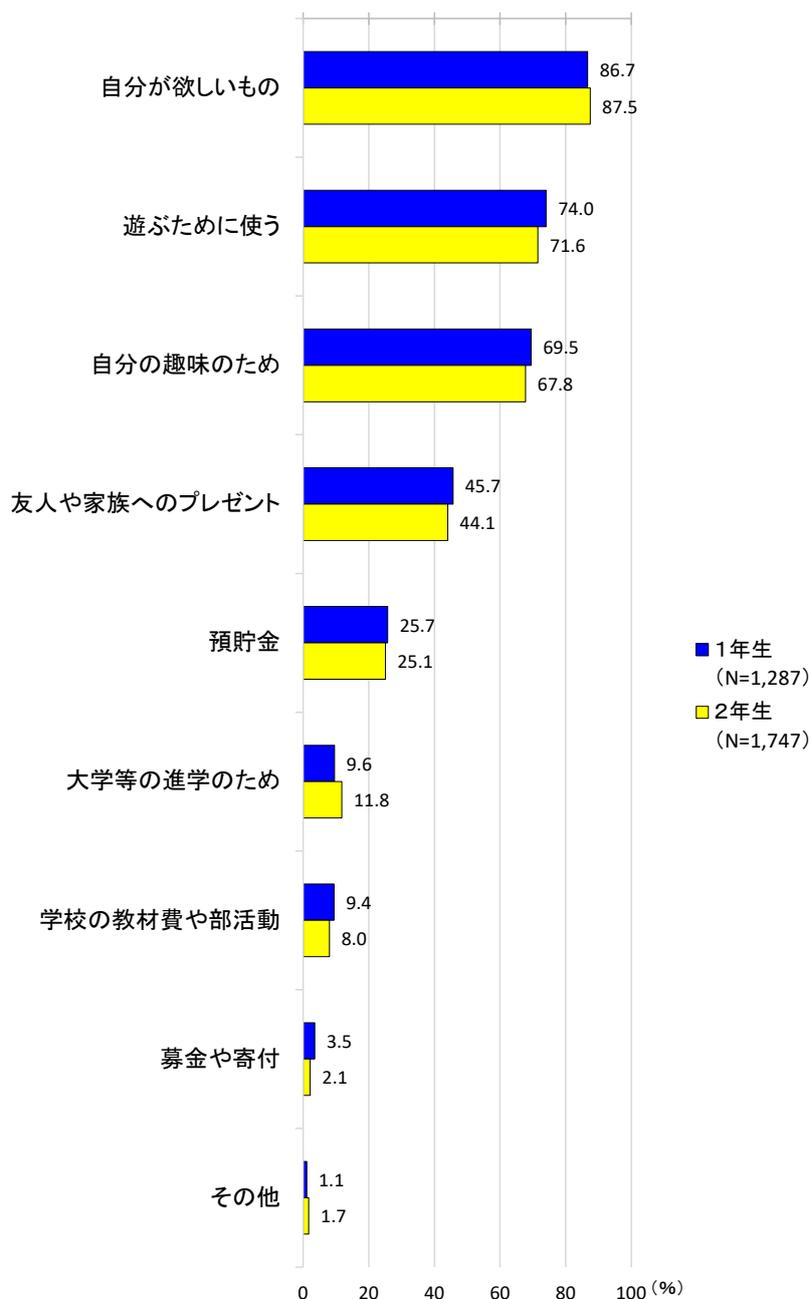
＜主な回答＞	
・欲しいものを買うため （服・漫画・ゲーム・CD・グッズ・パソコン等）	309 人
・将来のため（1人暮らし・夢のため等）	158 人
・遊び・旅行のため （遊びに行く・旅行に行く・修学旅行のため等）	147 人
・進学のため（大学・専門学校・学費等）	64 人
・車・バイクの免許を取るため	45 人

4. お金との付き合い方

4-1 お金の使い道

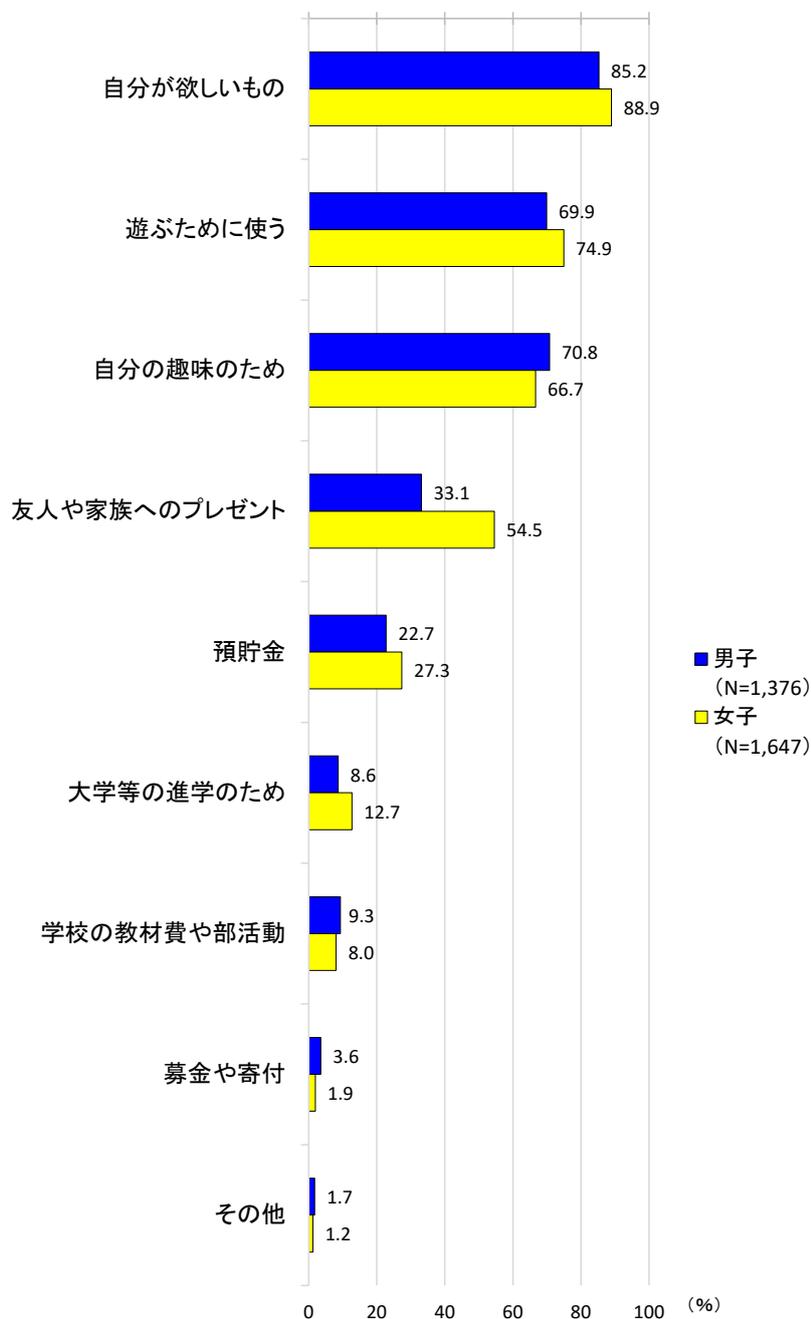
学年別では「自分が欲しいもの」が1年生、2年生ともに最も多く、次いで「遊ぶために使う」「自分の趣味のため」の順となった。学年別で大きな差はみられなかった。

【図表Ⅱ-4-1】お金の使い道（複数回答）＜学年＞



性別では、「自分が欲しいもの」が男子、女子ともに最も多く、男子は、次いで「自分の趣味のため」「遊ぶために使う」の順、女子は、「遊ぶために使う」「自分の趣味のため」の順となった。「友人や家族へのプレゼント」は男子に比べて女子が21ポイント高かった。

【図表Ⅱ-4-2】お金の使い道（複数回答）＜性別＞

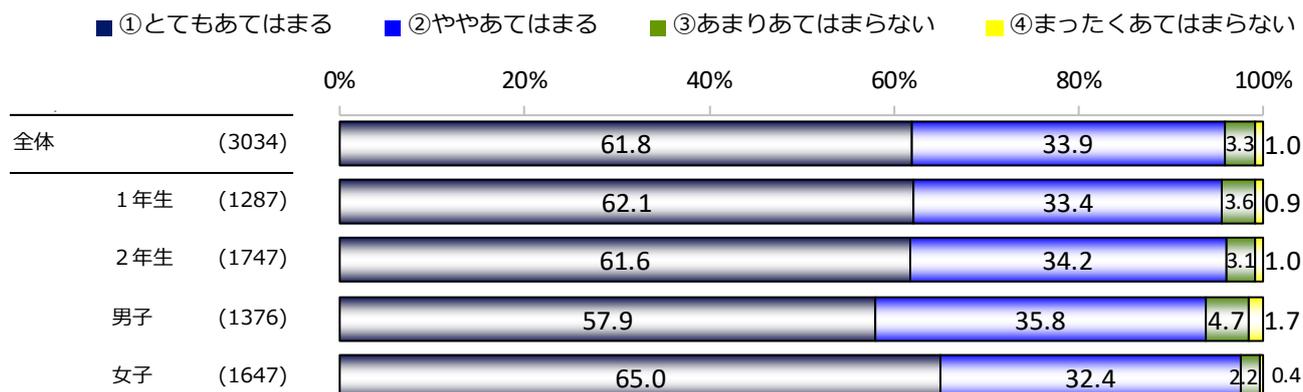


4-2 【新規項目】お金に関する考え方や傾向

(1) 【新規項目】お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う

全体の90%台半ばが「お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では「とてもあてはまる」は女子の割合が高かった。

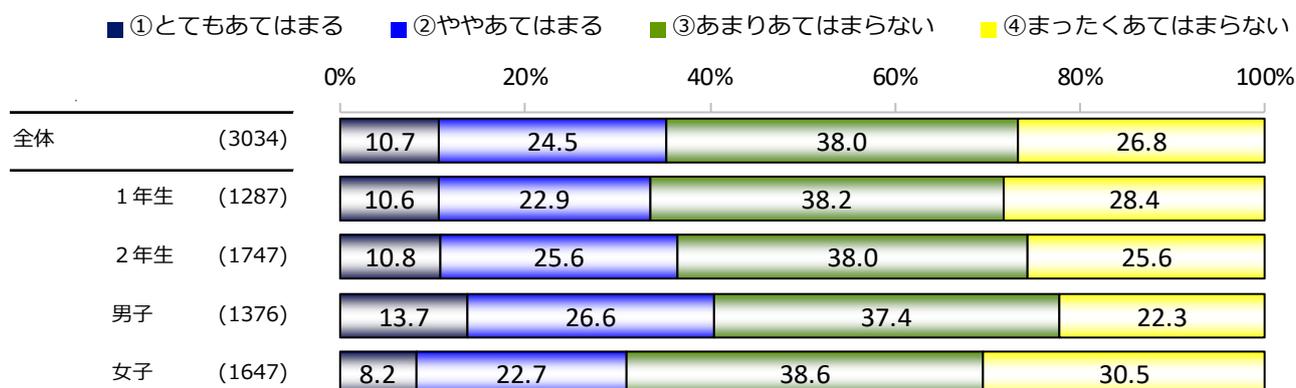
【図表Ⅱ-4-3】 お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う<全体・学年別・性別>



(2) 【新規項目】計画的にお金を借りることは問題ないと思う

全体の30%台半ばが「計画的にお金を借りることは問題ないと思う」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では「とてもあてはまる」は男子の割合が高く、「まったくあてはまらない」は女子の割合が高かった。

【図表Ⅱ-4-4】 計画的にお金を借りることは問題ないと思う<全体・学年別・性別>

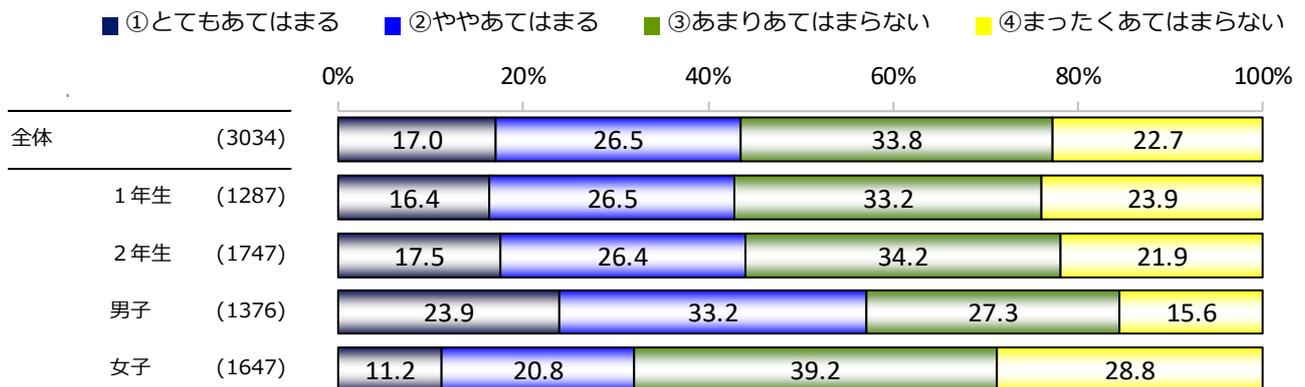


(3) 【新規項目】投資や資産運用などをするこで、お金を増やしたいと思う

全体の40%台半ばが「投資や資産運用などをするこで、お金を増やしたいと思う」と回答した。学年別で大きな差はみられなかった。性別では、「あてはまる(計)」は女子では30%強にとどまるが、男子は60%弱となり、25ポイント差が開いた。

【図表Ⅱ-4-5】投資や資産運用などをするこで、お金を増やしたいと思う

＜全体・学年別・性別＞

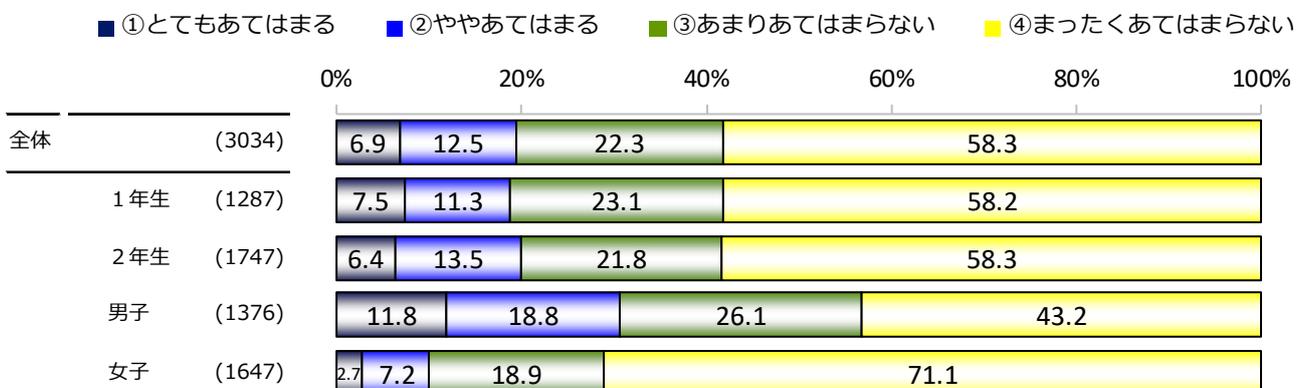


(4) 【新規項目】ギャンブルなど一攫千金(いっかくせんきん)でお金を稼ぐことに興味がある方だと思

全体の20%弱は「ギャンブルなど一攫千金(いっかくせんきん)でお金を稼ぐことに興味がある方だと思」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では、「あてはまる(計)」は、女子は約10%であるのに対し、男子は30%強が興味があると回答した。

【図表Ⅱ-4-6】ギャンブルなど一攫千金(いっかくせんきん)でお金を稼ぐことに興味がある方だと思

＜全体・学年別・性別＞

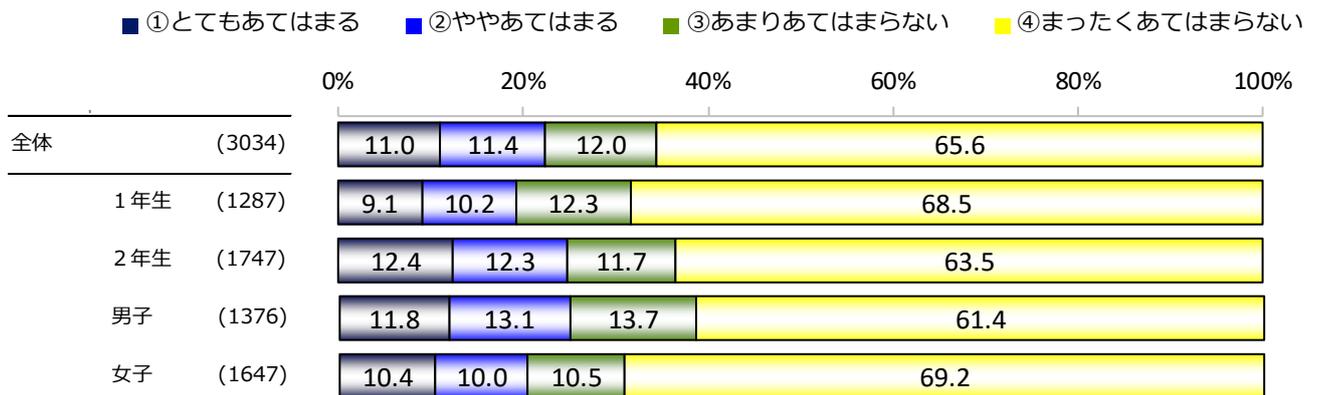


(5) 【新規項目】フリマアプリなどで、自分の持ち物を売ってお金を得たことがある

全体の20%強が「フリマアプリなどで、自分の持ち物を売ってお金を得たことがある」と回答した。学年別では「あてはまる（計）」は2年生の割合が高かった。性別では、「まったくあてはまらない」は女子の割合が高かった。

【図表Ⅱ-4-7】フリマアプリなどで、自分の持ち物を売ってお金を得たことがある

＜全体・学年別・性別＞

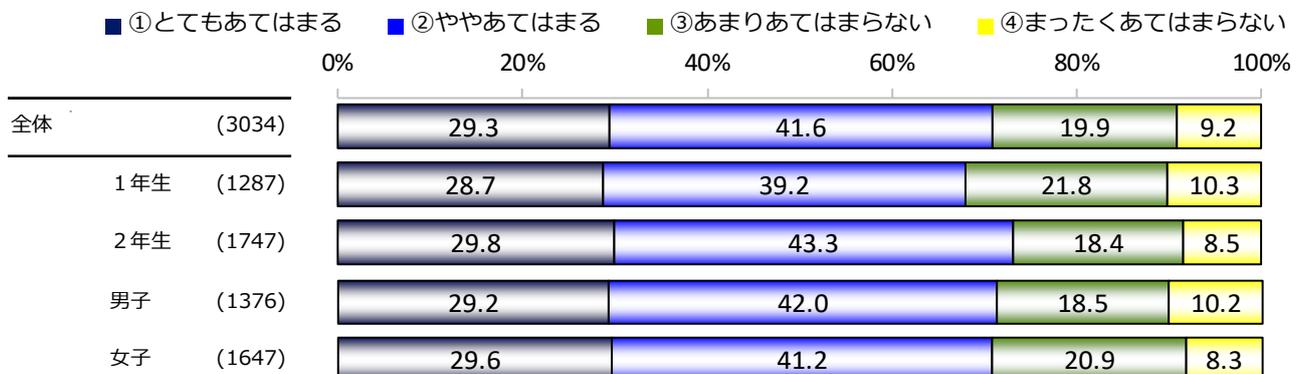


(6) 【新規項目】お金を使うときに手元のお金と出ていくお金のバランスを気にする方だと思う

全体の70%強が「お金を使うときに手元のお金と出ていくお金のバランスを気にする方だと思う」と回答した。学年では「あてはまる（計）」は2年生の割合が高かったが、性別では大きな差はみられなかった。

【図表Ⅱ-4-8】お金を使うときに手元のお金と出ていくお金のバランスを気にする方だと思う

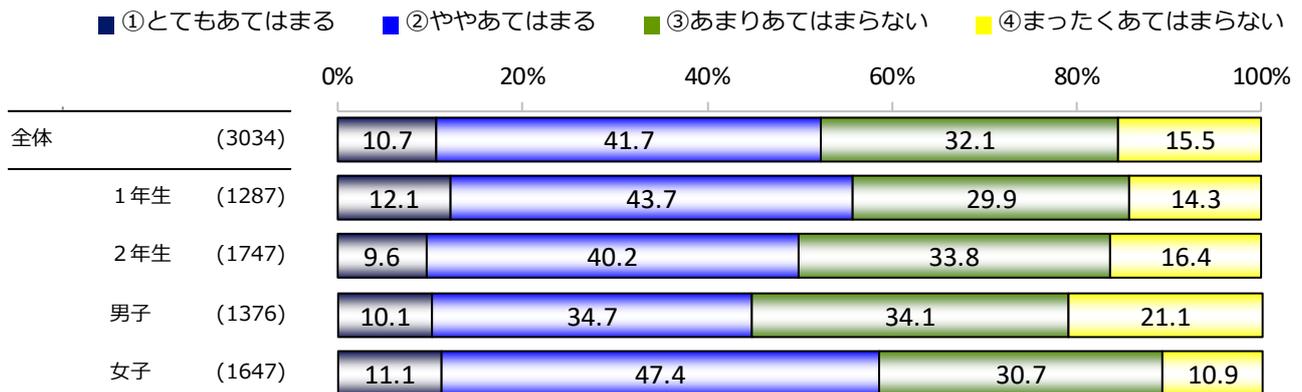
＜全体・学年別・性別＞



(7) 【新規項目】困っている人たちのために、お金を寄付したいと思う

全体の 50%強が「困っている人たちのために、お金を寄付したいと思う」と回答した。「あてはまる (計)」でみると、1年生の割合が高く、性別では女子の割合が高かった。

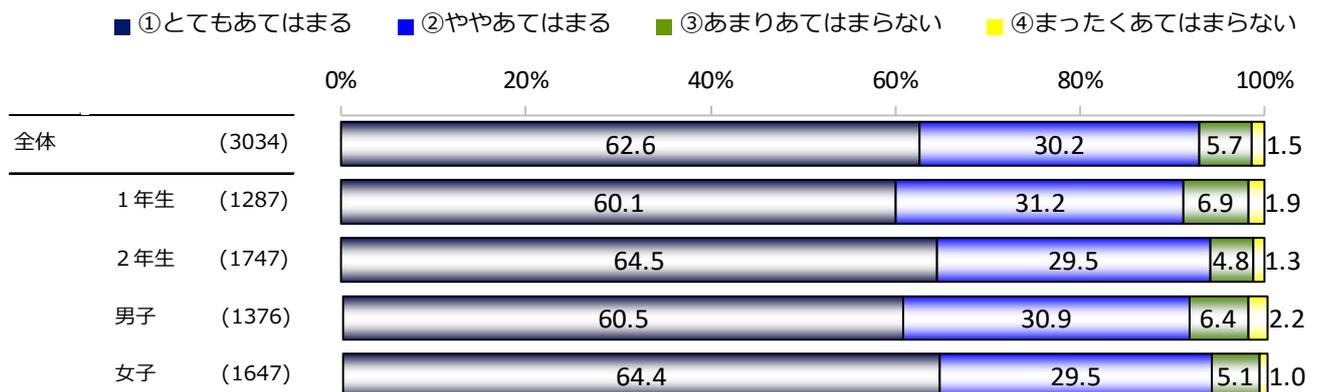
【図表Ⅱ-4-9】困っている人たちのために、お金を寄付したいと思う<全体・学年別・性別>



(8) 【新規項目】何をするにもお金が大切だと思う

全体の 90%強が「何をするにもお金が大切だと思う」と回答した。学年別、性別ともに大きな差はみられなかった。

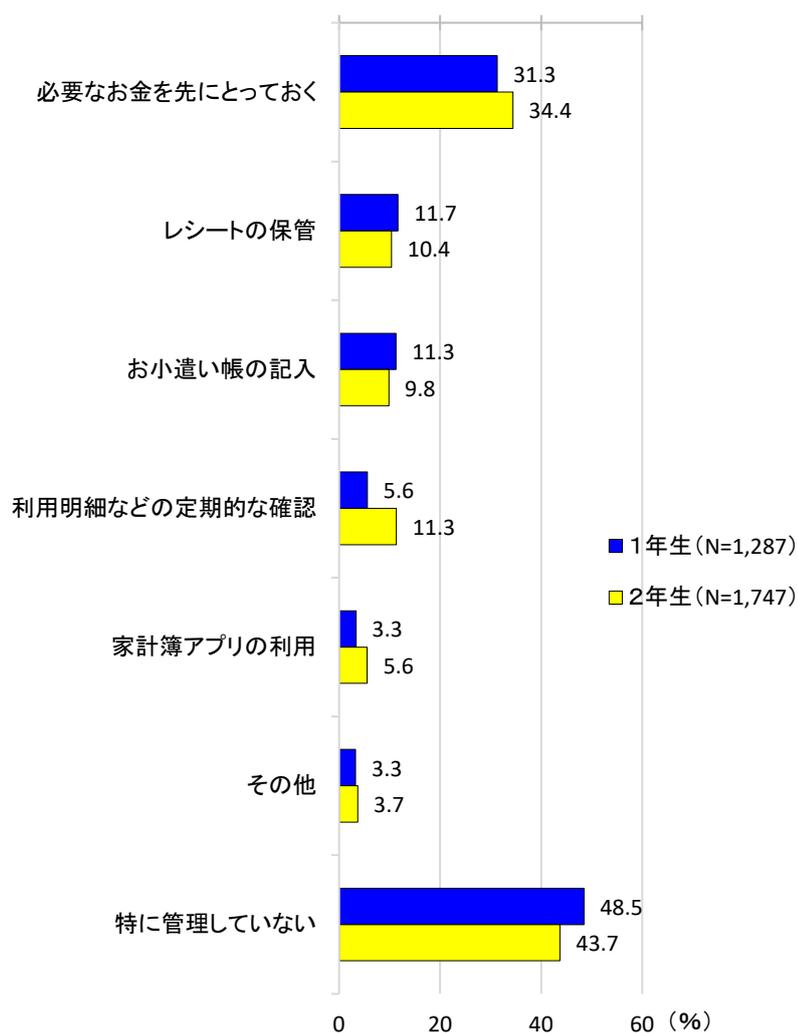
【図表Ⅱ-4-10】何をするにもお金が大切だと思う<全体・学年別・性別>



4-3 【新規項目】お金の管理方法

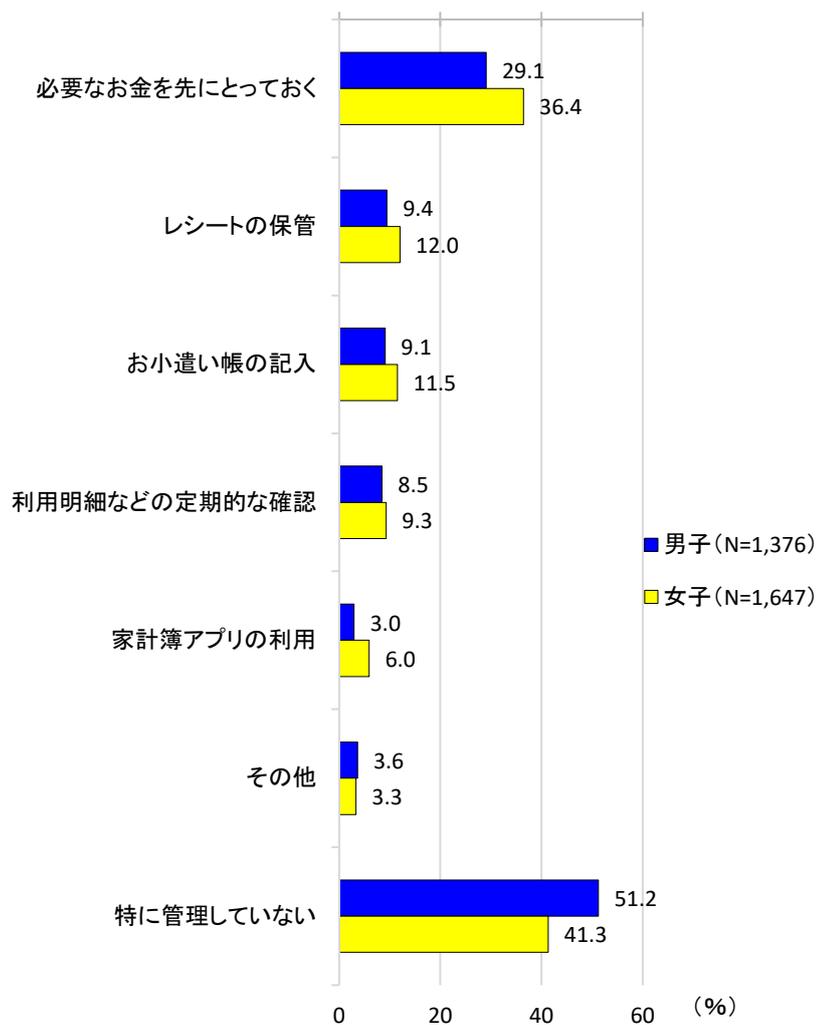
1年生で50%弱、2年生で40%台半ばが「特に管理していない」と回答した。管理している人の中では、1年生、2年生とも「必要なお金を先にとっておく」が最も多く、1年生が30%強、2年生が30%台半ばであった。「利用明細などの定期的な確認」は2年生の割合が高かった。

【図表Ⅱ-4-11】 お金の管理方法（複数回答）＜学年別＞



性別でも、男女ともに「特に管理していない」が最も多く、男子は半数を超え、女子より割合が高かった。管理している生徒の中では男女とも「必要なお金を先にとっておく」が最も多いが、女子は30%台半ばで男子より割合が高かった。

【図表Ⅱ-4-12】 お金の管理方法（複数回答）＜性別＞



Ⅲ 消費に関することについて

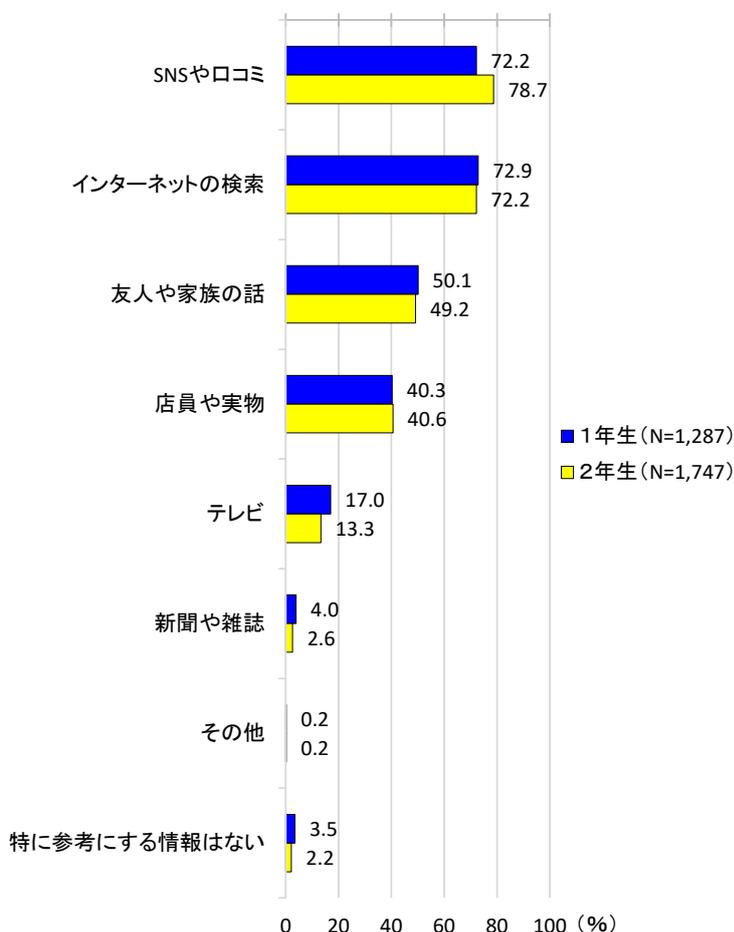
1. 買い物について

1-1 欲しいものがあるとき、参考にする情報

学年別では、1年生は「インターネットの検索」が70%強で最も多く、次いで「SNS やロコミ」の順となった。対して2年生は「SNS やロコミ」が80%弱で最も多く、次いで「インターネットの検索」の順となった。3位は1年生、2年生ともに「友人や家族の話」となった。どちらの学年も「特に参考にする情報はない」は5%未満であった。「SNS やロコミ」以外では学年による差はみられなかった。

【図表Ⅲ-1-1】欲しいものがあるとき、参考にする情報（複数回答）＜学年別＞

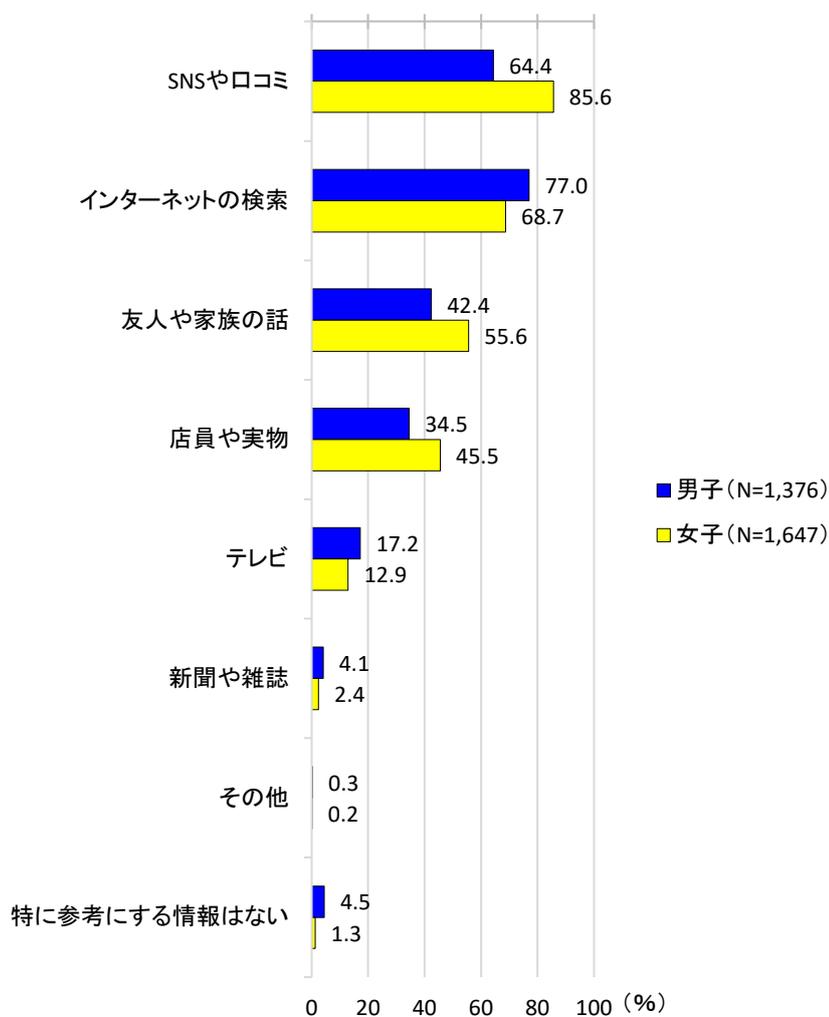
	1 位	2 位	3 位
1 年生 (N=1, 287)	インターネットの検索 (72.9%)	SNS やロコミ (72.2%)	友人や家族の話 (50.1%)
2 年生 (N=1, 747)	SNS やロコミ (78.7%)	インターネットの検索 (72.2%)	友人や家族の話 (49.2%)



性別では、男子は「インターネットの検索」が最も多く、70%台半ばとなった。対して女子は「SNS やロコミ」が最も多く 80%台半ばとなった。「SNS やロコミ」は女子が 20 ポイント以上上回り、「友人や家族の話」や「店員や実物」も、男子に比べて女子の割合が 10 ポイント以上高かった。

【図表Ⅲ-1-2】欲しいものがあるとき、参考にする情報（複数回答）＜性別＞

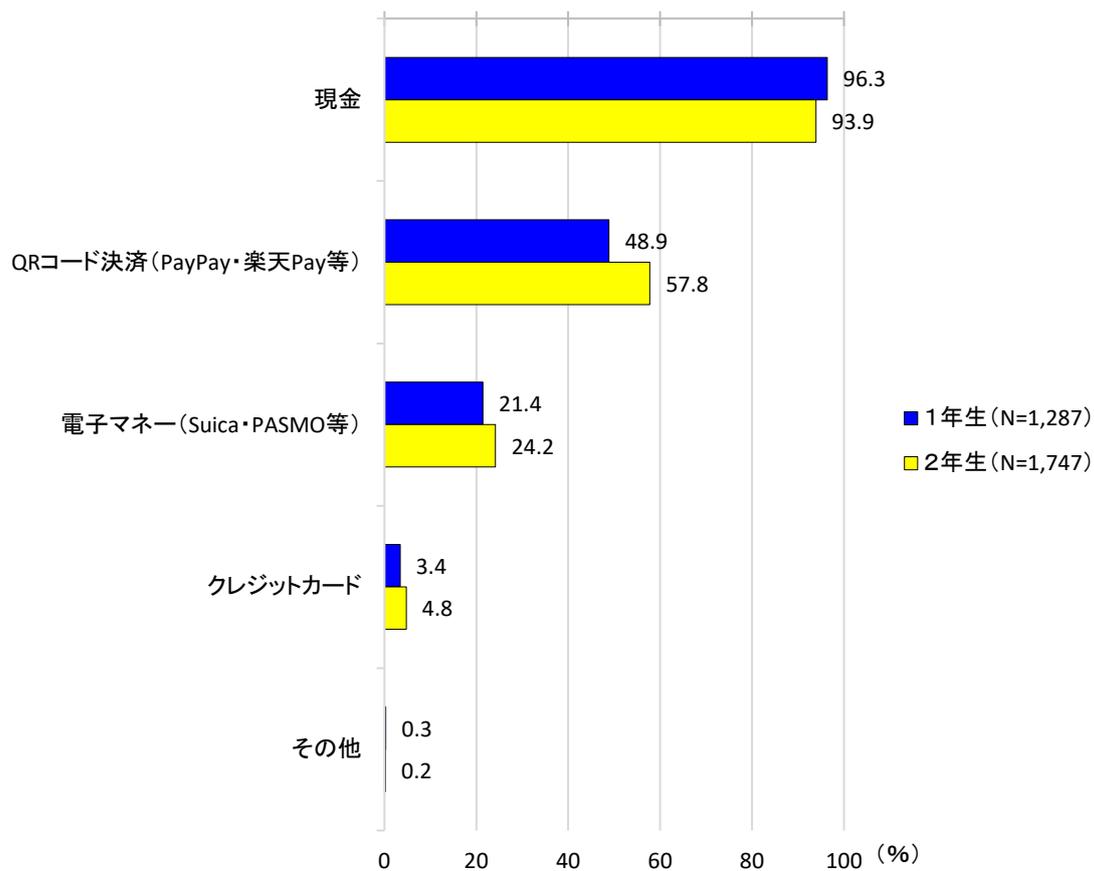
	1 位	2 位	3 位
男子 (N=1,376)	インターネットの検索 (77.0%)	SNS やロコミ (64.4%)	友人や家族からの話 (42.4%)
女子 (N=1,647)	SNS やロコミ (85.6%)	インターネットの検索 (68.7%)	友人や家族からの話 (55.6%)



1-2 店頭で購入時の支払い方法

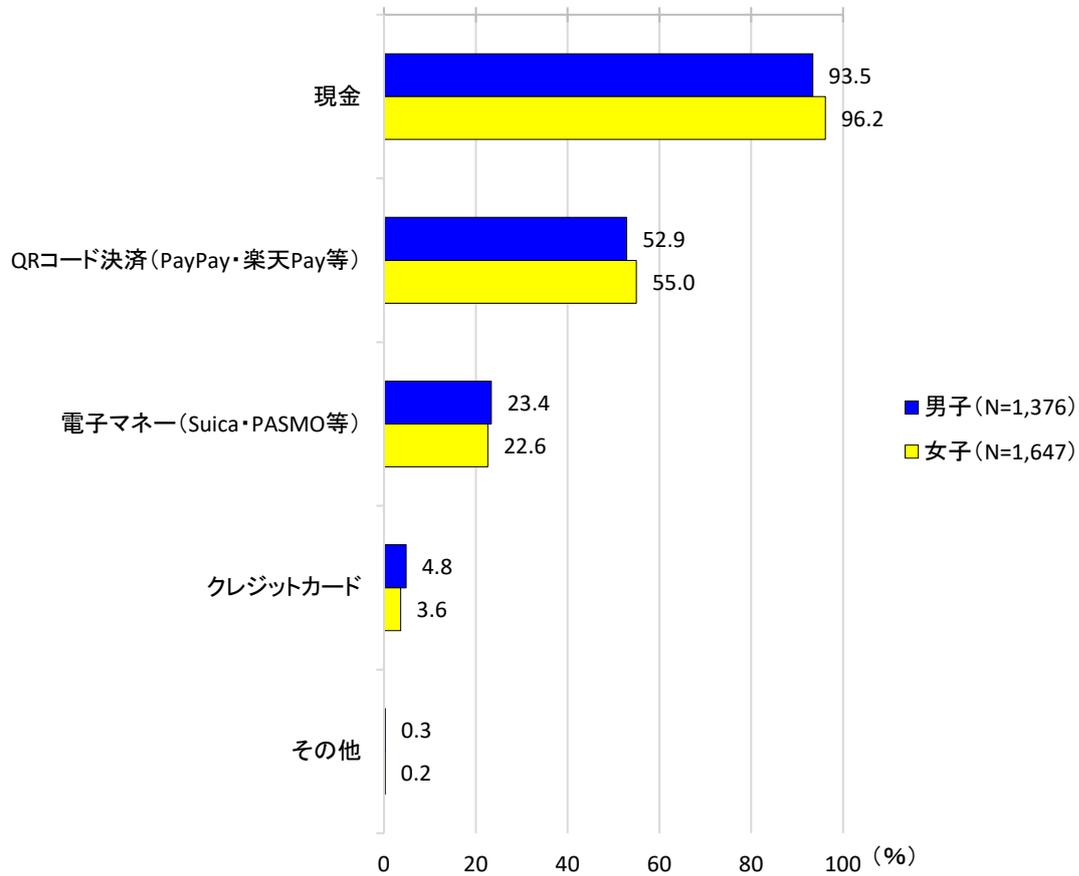
両学年とも「現金」が最も多く、1年生、2年生ともに90%を超える結果となった。次いで「QRコード決済（PayPay、楽天Pay等）」「電子マネー（Suica・PASMO等）」の順であるが、現金以外(その他を除く)は2年生の割合が高かった。

【図表Ⅲ-1-3】店頭で購入時の支払い方法（複数回答）＜学年別＞



性別でも「現金」が最も多く男女ともに90%を超え、次いで「QRコード決済（PayPay、楽天Pay等）」「電子マネー（Suica、PASMO等）」の順となった。性別で大きな差はみられなかった。

【図表Ⅲ-1-4】店頭で購入時の支払い方法（複数回答）＜性別＞

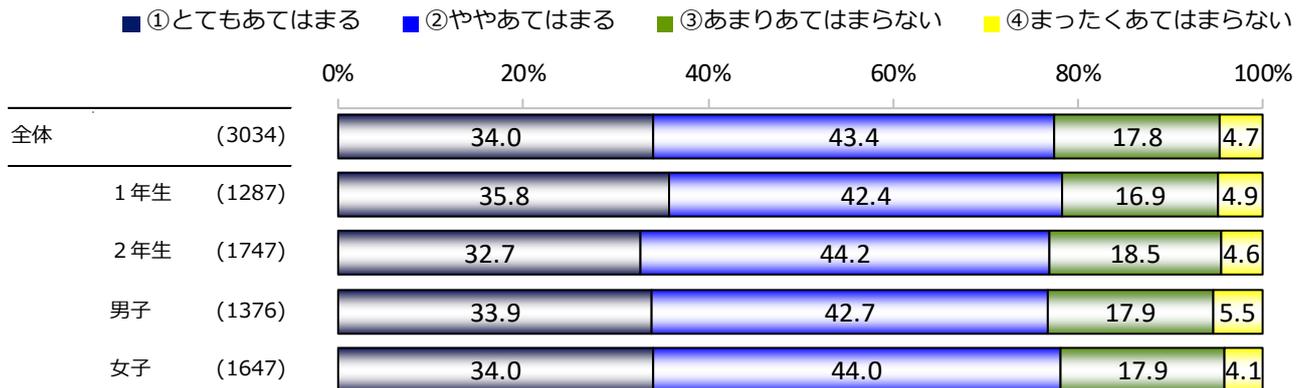


2. エシカル消費に関する考え方や傾向

(1) 【新規項目】気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う

全体の80%弱が「気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

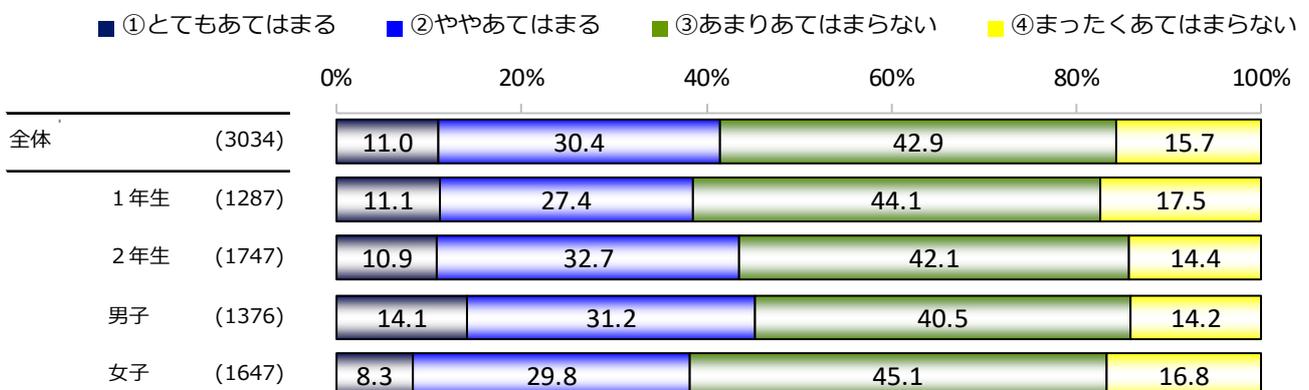
【図表Ⅲ-2-1】気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う<全体・学年別・性別>



(2) 【新規項目】高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う

全体の40%強が「高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う」と回答した。「あてはまる(計)」でみると、学年別では2年生の割合が高く、性別では男子の割合がそれぞれ高かった。

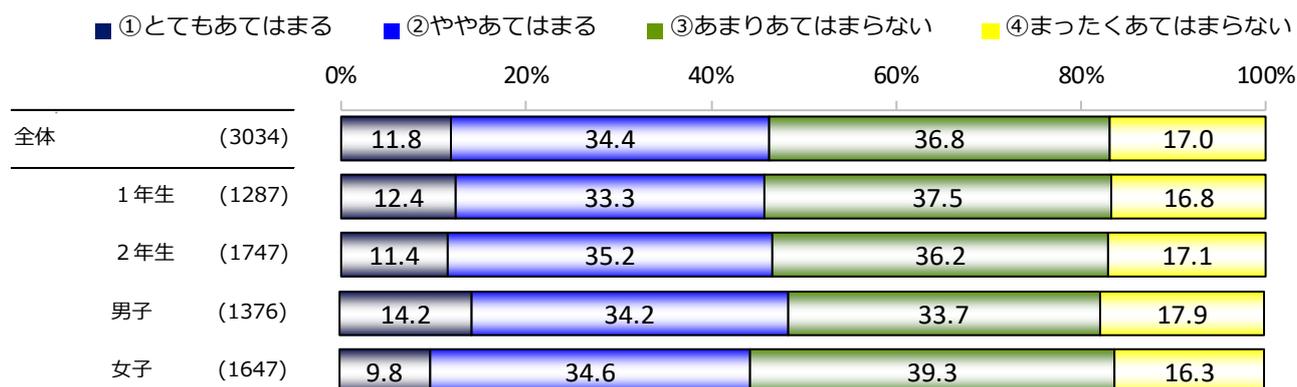
【図表Ⅲ-2-2】高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う
<全体・学年別・性別>



(3) 【新規項目】 買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思う

全体の40%台半ばが「買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思う」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「あまりあてはまらない」は女子の割合が高いが、「あてはまる（計）」では大きな差はみられなかった。

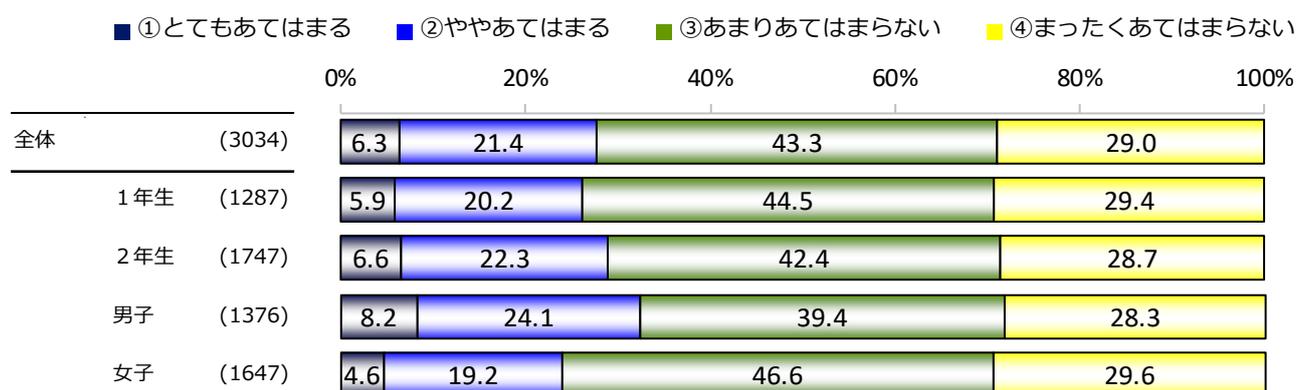
【図表Ⅲ-2-3】 買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思う<全体・学年別・性別>



(4) フェアトレード商品があれば積極的に選んでいる

全体の30%弱が「フェアトレード商品があれば積極的に選んでいる」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「あてはまる（計）」は男子の割合が高かった。

【図表Ⅲ-2-4】 フェアトレード商品があれば積極的に選んでいる<全体・学年別・性別>

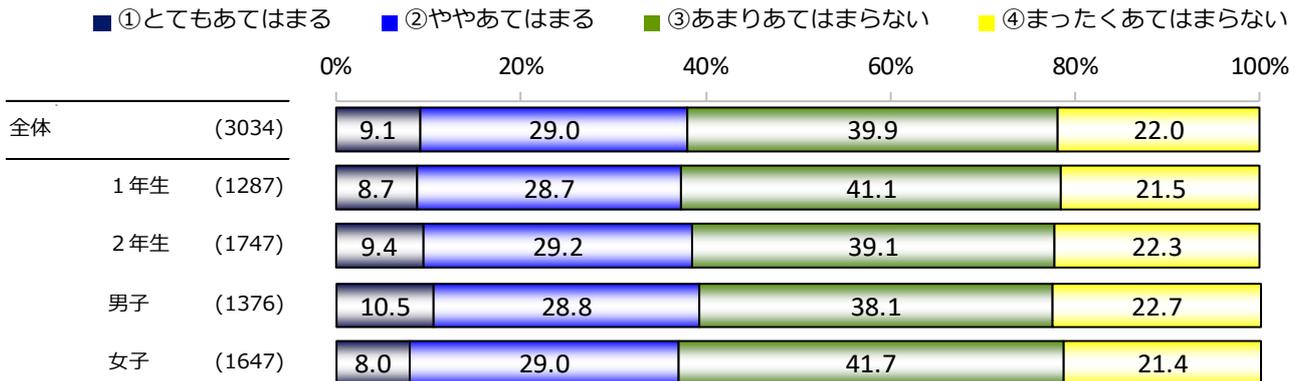


(5) 【新規項目】 社会や環境への配慮に欠けた製品/サービスを買うのを控えたことがある

全体の 40%弱が「社会や環境への配慮に欠けた製品/サービスを買うのを控えたことがある」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表Ⅲ-2-5】 社会や環境への配慮に欠けた製品/サービスを買うのを控えたことがある

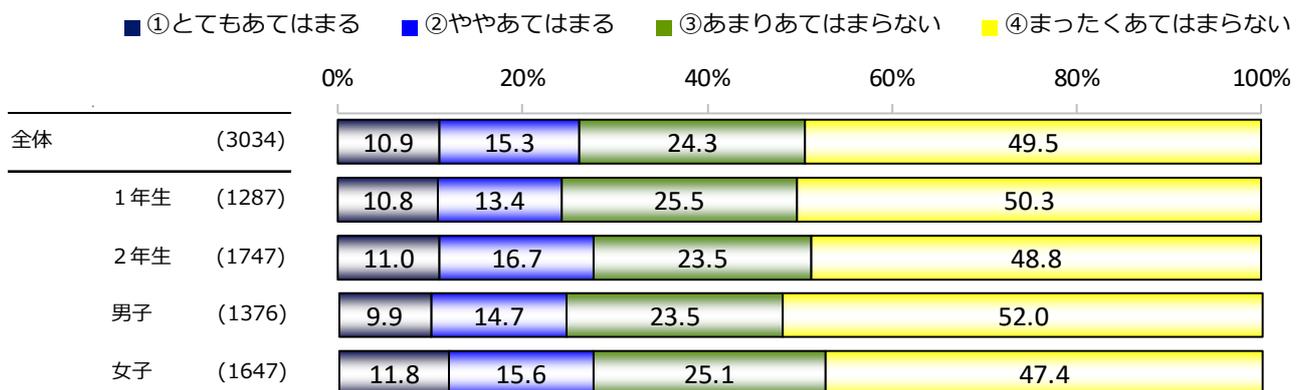
＜全体・学年別・性別＞



(6) コンビニでおにぎりを買う時、棚の奥から取る方だ

全体の 20%台半ばが「コンビニでおにぎりを買う時、棚の奥から取る方だ」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

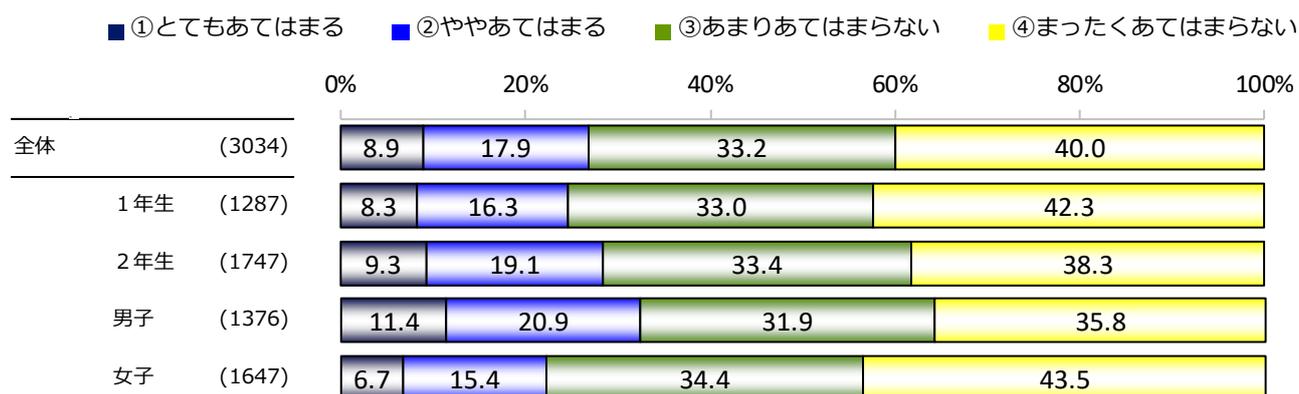
【図表Ⅲ-2-6】 コンビニでおにぎりを買う時、棚の奥から取る方だ＜全体・学年別・性別＞



（7）商品に問題があったときは、企業などに連絡をする方だ

全体の20%台半ばが「商品に問題があったときは、企業などに連絡をする方だ」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では「あてはまる（計）」は女子に比べて男子の割合が高かった。

【図表Ⅲ-2-7】商品に問題があったときは、企業などに連絡をする方だ＜全体・学年別・性別＞



（8）【新規項目】社会課題・環境問題の解決に取り組む政治家に投票したい

全体の60%台半ばが「社会課題・環境問題の解決に取り組む政治家に投票したい」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表Ⅲ-2-8】社会課題・環境問題の解決に取り組む政治家に投票したい＜全体・学年別・性別＞



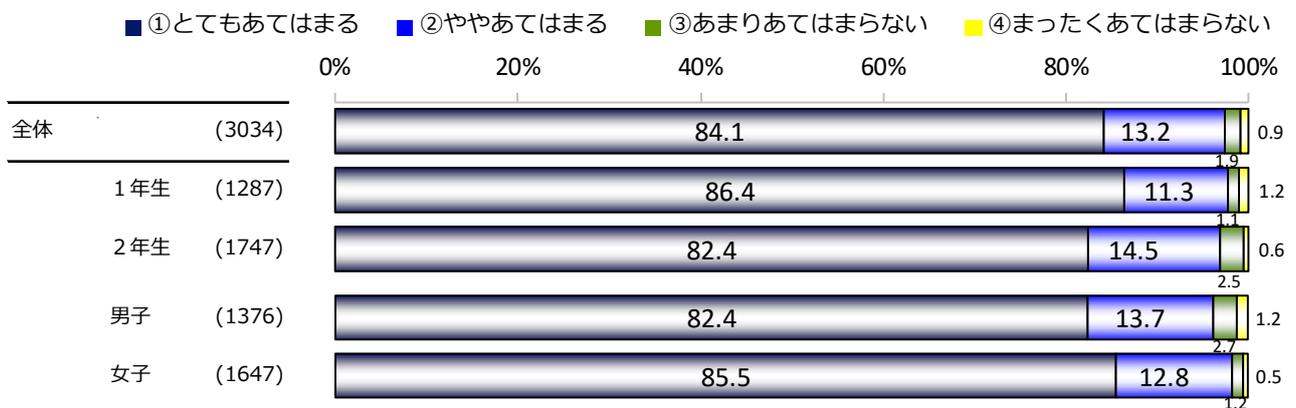
IV インターネット・SNS などに関連する消費者トラブルについて

1. 【新規項目】インターネット・SNS の利用に関する考え方や傾向

(1) 【新規項目】使い方を間違えなければ、とても便利なツールだと思う

全体の 97.3%が「使い方を間違えなければ、とても便利なツールだと思う」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

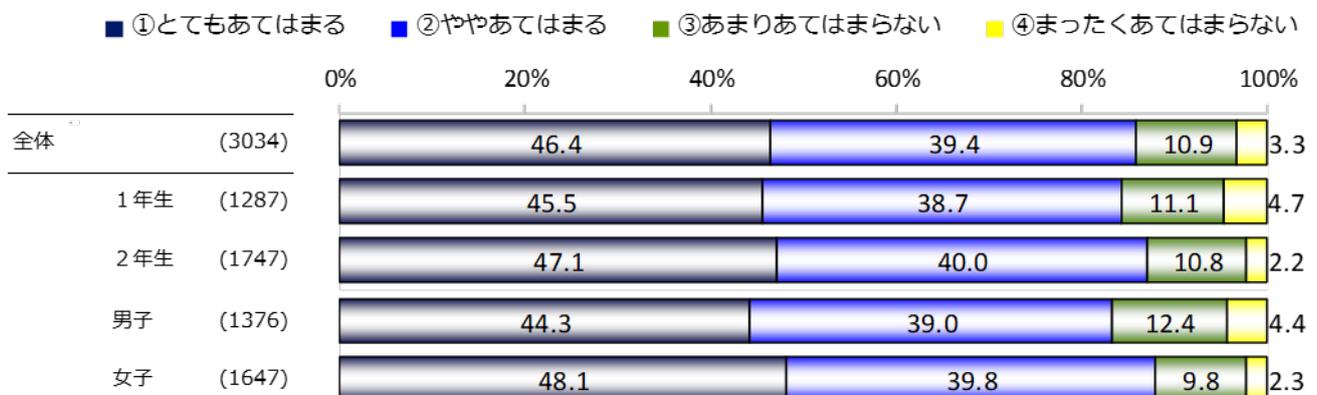
【図表IV-1-1】使い方を間違えなければ、とても便利なツールだと思う<全体・学年別・性別>



(2) 【新規項目】サイトを見るときは信頼できると思うサイトだけを見るように気を付けている

全体の 80%台半ばが「サイトを見るときは信頼できると思うサイトだけを見るように気を付けている」と回答した。学校別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表IV-1-2】サイトを見るときは信頼できると思うサイトだけを見るように気を付けている<全体・学年別・性別>

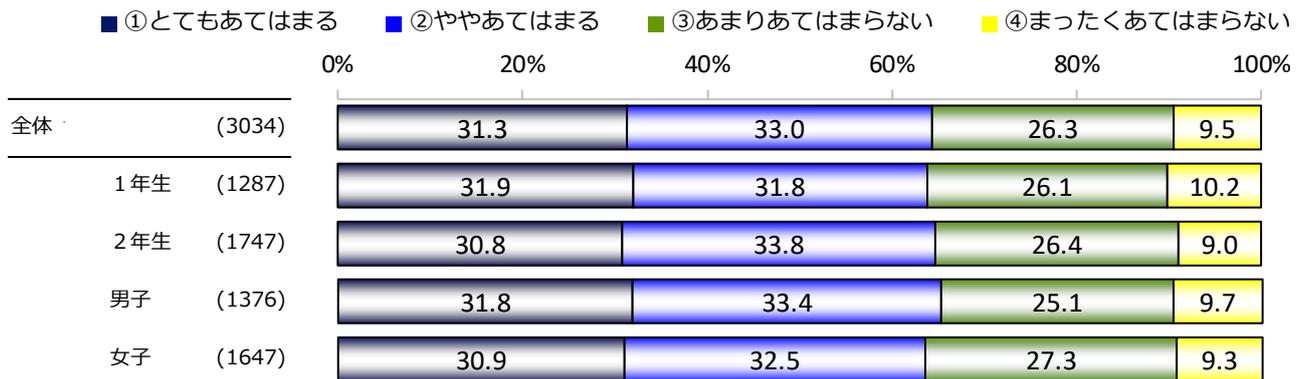


(3) 【新規項目】 友達に会うことより、SNS を使ってメッセージでやり取りする方が多い

全体の 60% 台半ばが「友達に会うことより、SNS を使ってメッセージでやり取りする方が多い」と回答した。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表Ⅳ-1-3】 友達に会うことより、SNS を使ってメッセージでやり取りする方が多い

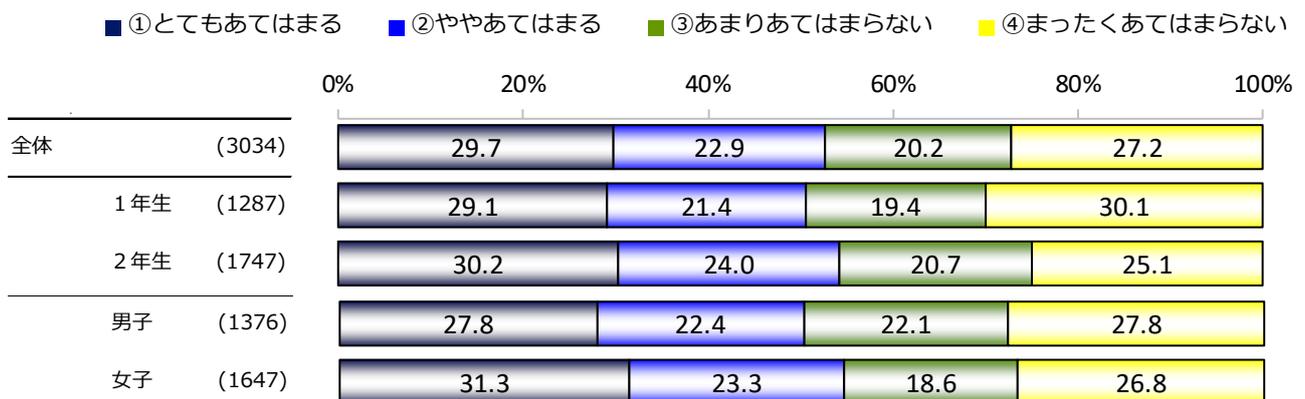
＜全体・学年別・性別＞



(4) 【新規項目】 新しい知り合いができたことがある

全体の 50% 強は「新しい知り合いができたことがある」と回答した。学年別では「まったくあてはまらない」は 1 年生の割合が高かった。性別では大きな差はみられなかった。

【図表Ⅳ-1-4】 新しい知り合いができたことがある＜全体・学年別・性別＞

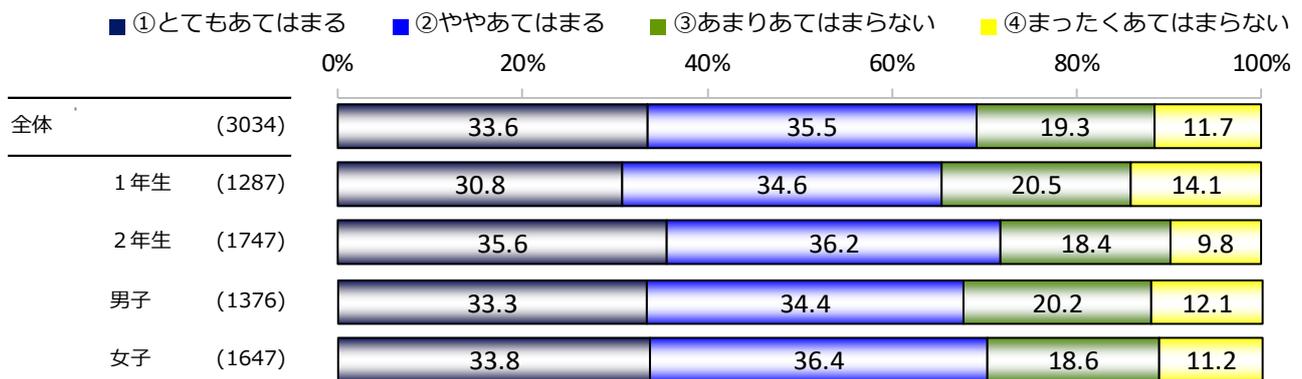


(5) 【新規項目】夜遅くまで利用していることで、睡眠時間が短くなっていると思う

全体の70%弱が「夜遅くまでを利用していることで、睡眠時間が短くなっていると思う」と回答した。学年別では「あてはまる(計)」は2年生の割合が高かった。性別による大きな差はみられなかった。

【図表Ⅳ-1-5】夜遅くまで利用していることで、睡眠時間が短くなっていると思う

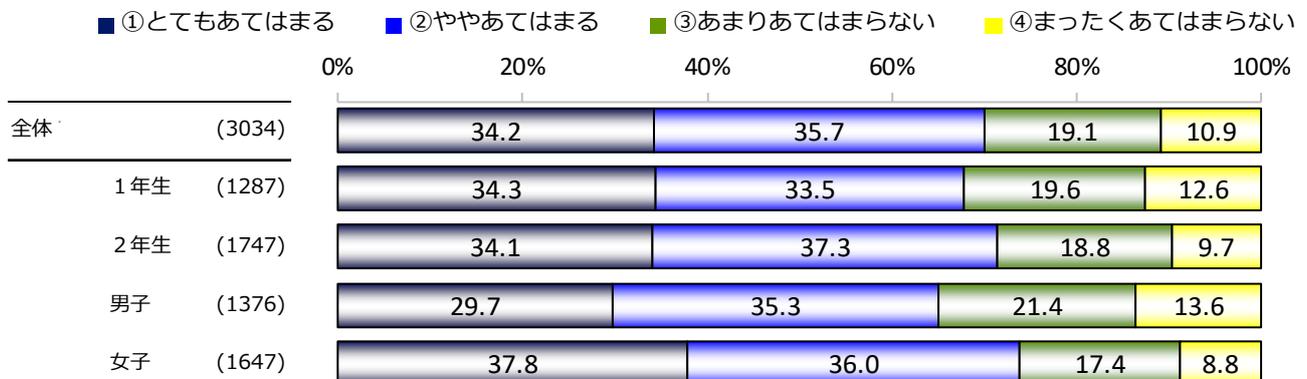
＜全体・学年別・性別＞



(6) 【新規項目】利用する時間や頻度を減らそうとしたことがある

全体の約70%が「利用する時間や頻度を減らそうとしたことがある」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では「とてもあてはまる」は女子の割合が高く、「あてはまる(計)」も女子の割合が高かった。

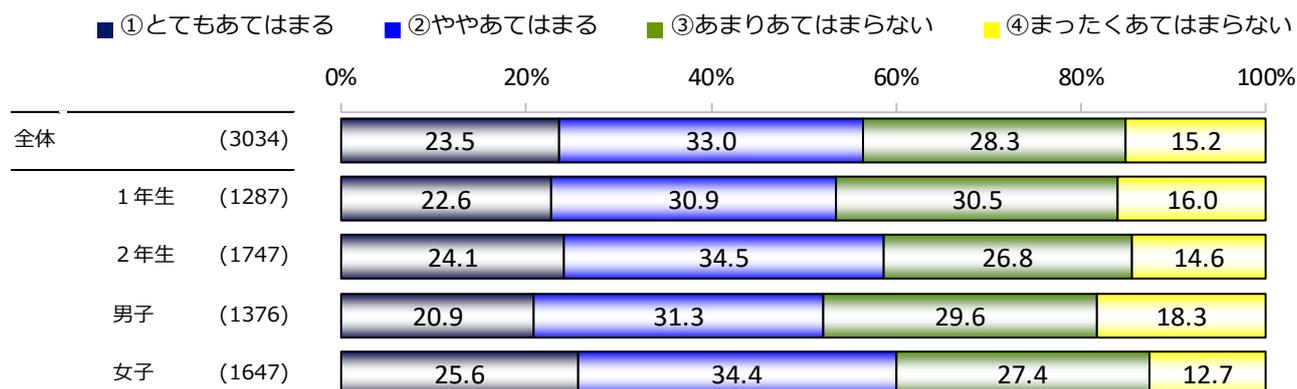
【図表Ⅳ-1-6】利用する時間や頻度を減らそうとしたことがある＜全体・学年別・性別＞



(7) 【新規項目】 SNS の返信などをわずらわしいと思うことがある

全体の 50% 台半ばが「SNS の返信などをわずらわしいと思うことがある」と回答した。「あてはまる (計)」でみると、学年別では 2 年生の割合が、性別では女子の割合がそれぞれ高かった。

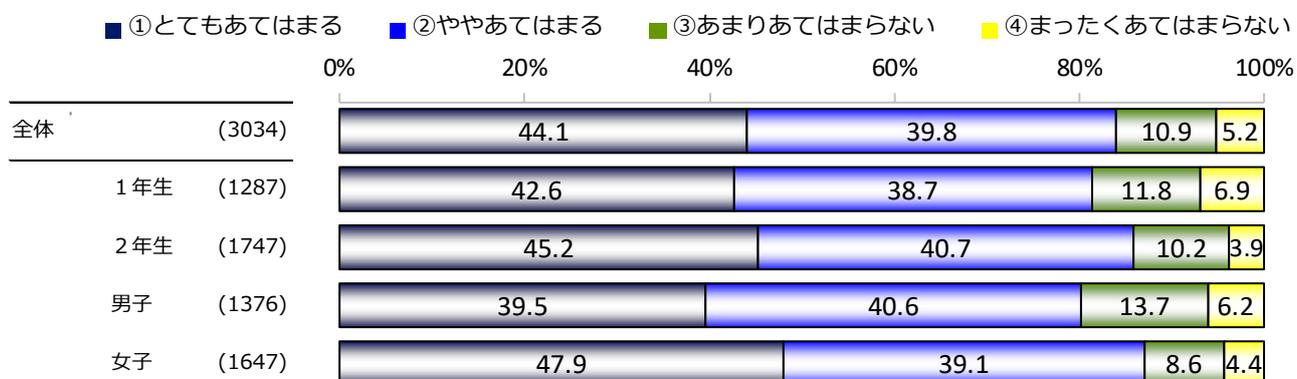
【図表Ⅳ-1-7】 SNS の返信などをわずらわしいと思うことがある<全体・学年別・性別>



(8) 【新規項目】 やらなければならないことがあっても、つつい利用してしまうことがある

全体の 80% 台半ばが「やらなければならないことがあっても、つつい利用してしまうことがある」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では「とてもあてはまる」は女子の割合が高かった。

【図表Ⅳ-1-8】 やらなければならないことがあっても、つつい利用してしまうことがある<全体・学年別・性別>

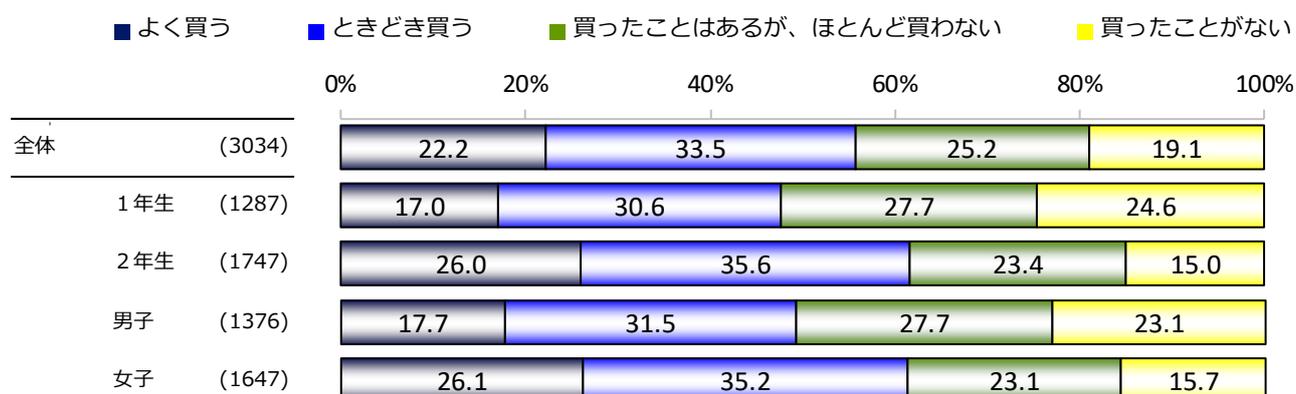


2. インターネットでの購入について

2-1 インターネットでの購入経験

全体の80%強がインターネットでの購入経験があると回答した。「よく買う」「ときどき買う」を合わせた「買う（計）」は、1年生が50%未満ではあるが、2年生は60%強となった。性別でも、「買う（計）」は男子が50%弱であるが、女子は60%強で差がみられた。

【図表IV-2-1】インターネットでの購入経験＜全体・学年別・性別＞



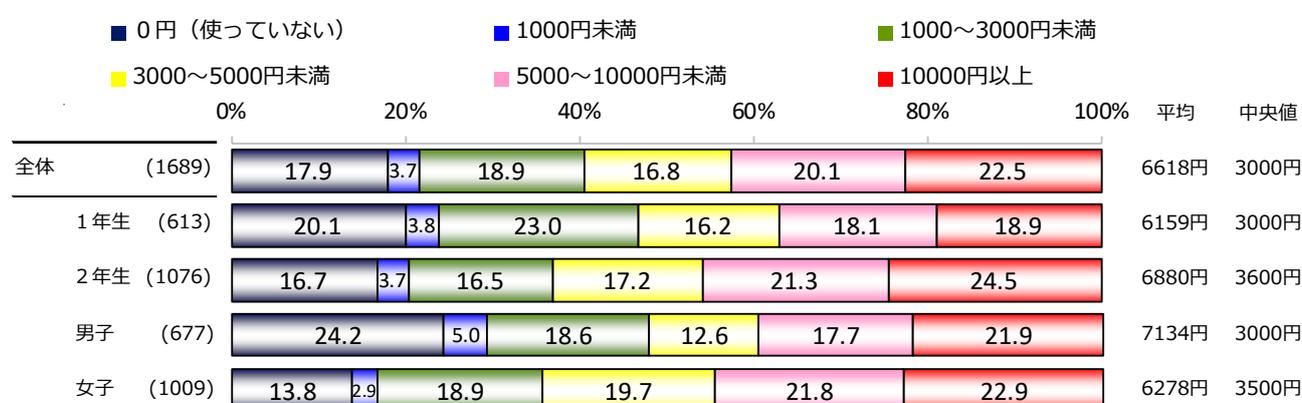
2-2 インターネットでの1カ月の使用金額

「買う（計）」生徒では、20%強が「10,000円以上」と回答しており、次いで「5,000～10,000円未満」が約20%を占めた。平均金額は6,618円、中央値は3,000円となった。

学年別では、平均金額は1年生と比べて2年生は721円高く、中央値も600円高かった。性別では、女子に比べて男子は856円高かった。中央値は男子に比べて女子が500円高かった。

男子は中央値が3,000円にもかかわらず平均値は7,000円を超えており、一部の男子が高額な購入をしていることがわかった。

【図表IV-2-2】インターネットでの1カ月の使用金額＜全体・学年別・性別＞

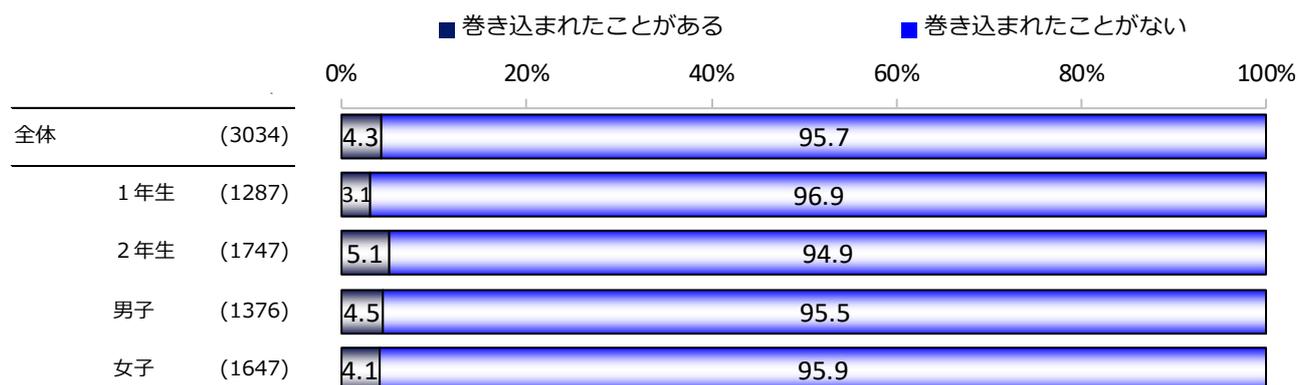


3. 【新規項目】インターネット・SNSでの消費者トラブルについて

3-1 【新規項目】インターネット・SNSでの消費者トラブルの有無

インターネットやSNSを通じたトラブルに巻き込まれたことがあるのは全体の5%未満（129人）であった。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

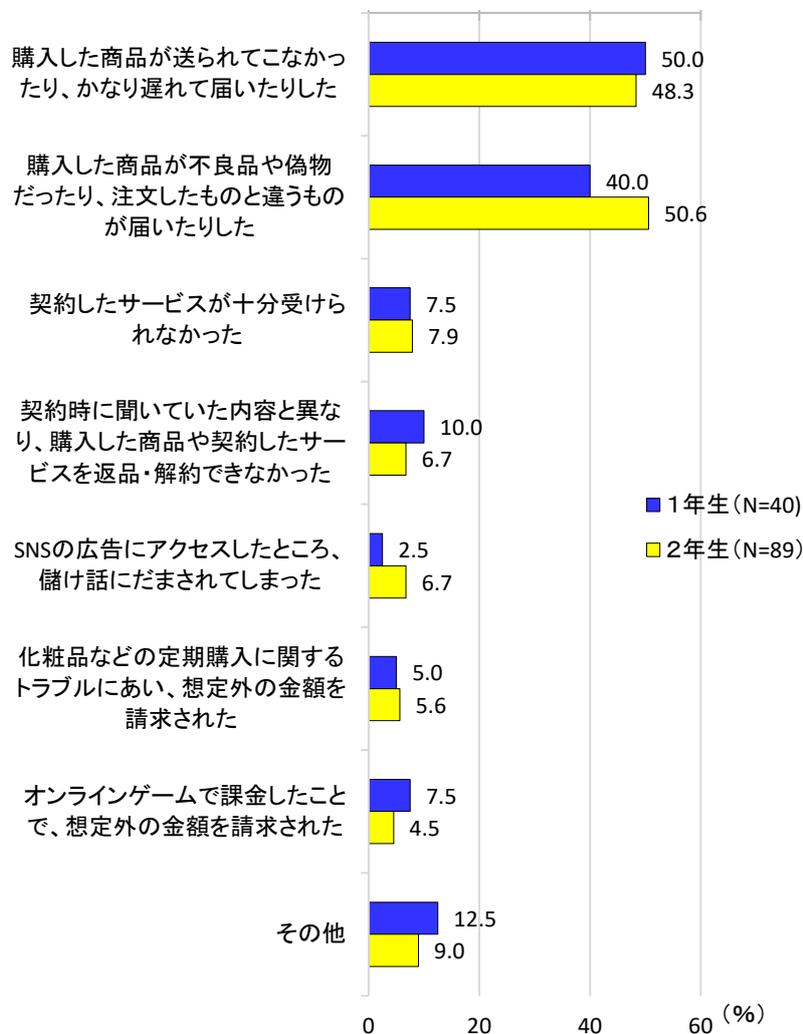
【図表IV-3-1】インターネット・SNSでの消費者トラブルの有無＜全体・学年別・性別＞



3-2 【新規項目】消費者トラブルの内容

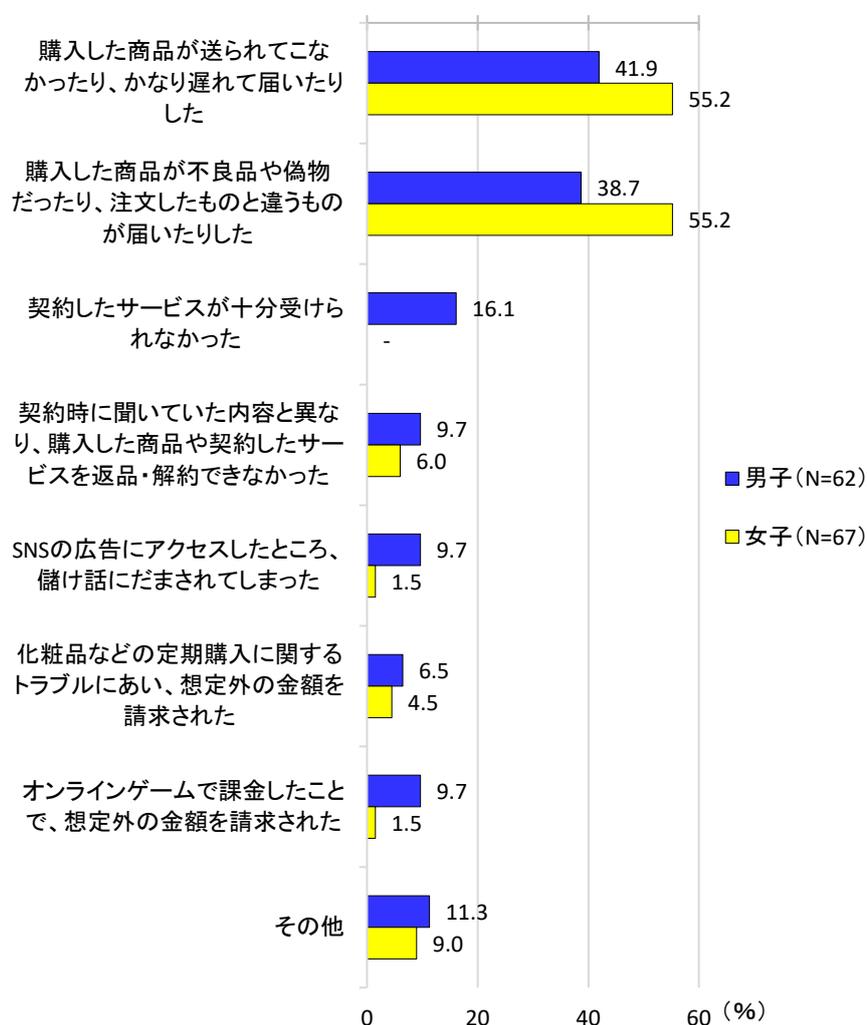
学年別では、1年生は「購入した商品が送られてこなかったり、かなり遅れて届いたりした」が最も多く、50%となった。次いで「購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした」の順となった。対して2年生は「購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした」が50%強と最も多いが、第2位の「購入した商品が送られてこなかったり、かなり遅れて届いたりした」も50%弱が回答した。なお、「購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした」は1年生に比べて2年生の割合が高かった。

【図表IV-3-2】消費者トラブルの内容（複数回答）＜学年別＞



性別では、女子は「購入した商品が送られてこなかったり、かなり遅れて届いたりした」「購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした」が同率で最も多く、50%台半ばであった。男子は「購入した商品が送られてこなかったり、かなり遅れて届いたりした」が40%強で最も多く、次いで「購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした」が続いた。一方、「契約したサービスが十分受けられなかった」「SNSの広告にアクセスしたところ、儲け話にだまされてしまった」「オンラインゲームで課金したことで、想定外の金額を請求された」は女子に比べて男子の割合が高かった。

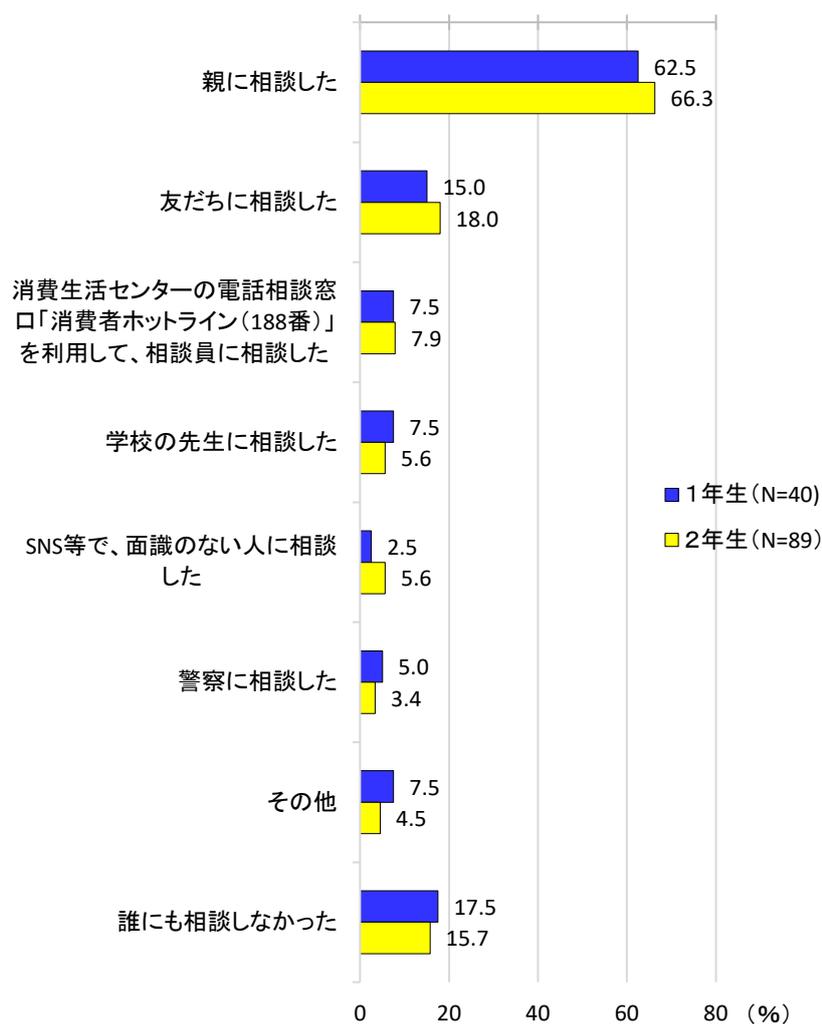
【図表IV-3-3】消費者トラブルの内容（複数回答）＜性別＞



3-3 【新規項目】消費者トラブルの相談先

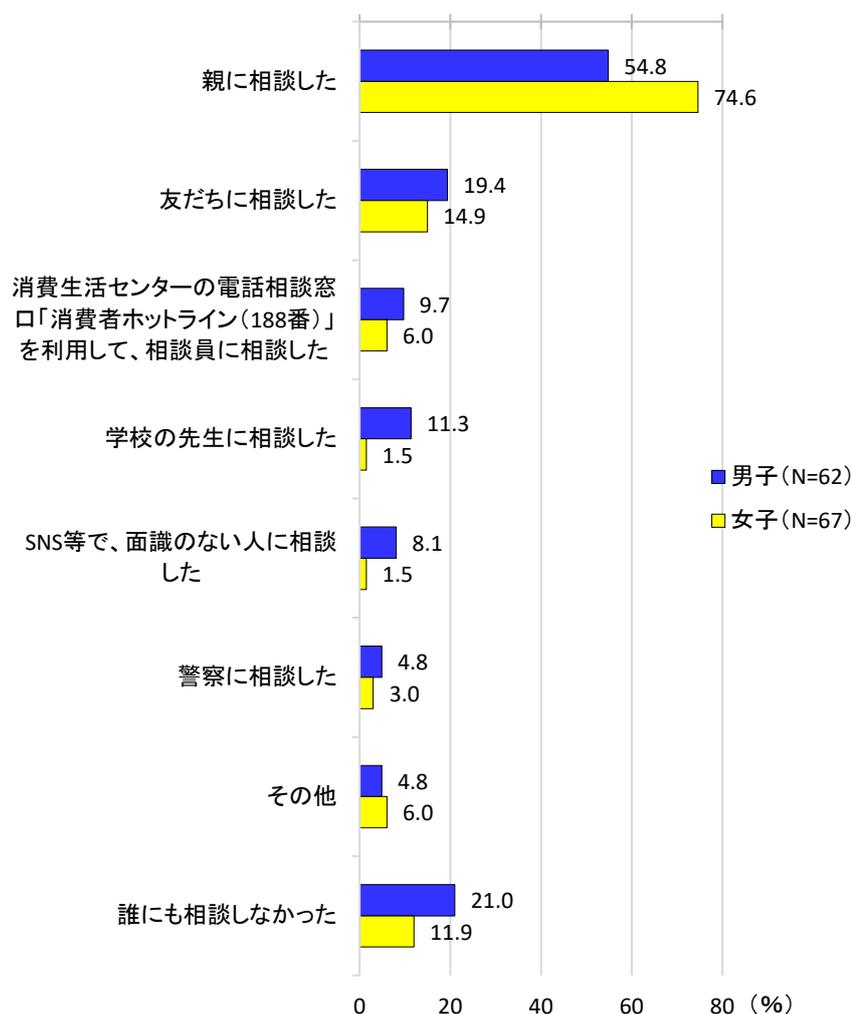
学年別では「親に相談した」が最も多く、1年生、2年生それぞれ60%を超える生徒が回答した。相談先は次いで両学年とも「友だちに相談した」であるが、10%台であり、他の相談先は10%未満であった。なお、1年生で20%弱、2年生で10%台半ばが「誰にも相談しなかった」と回答した。

【図表IV-3-4】消費者トラブルの相談先（複数回答）＜学年別＞



性別では、「親に相談した」が男子は50%台半ば、女子は70%台半ばと最も多く、女子は20ポイント高かった。相談先は次いで両学年とも「友だちに相談した」が続いた。他の相談先では、「学校の先生に相談した」「SNS等で、面識のない人に相談した」は女子に比べて男子の割合が高かった。なお、「誰にも相談しなかった」は、男子は20%強となり女子に比べて割合が高かった。

【図表Ⅳ-3-5】消費者トラブルの相談先（複数回答）＜性別＞



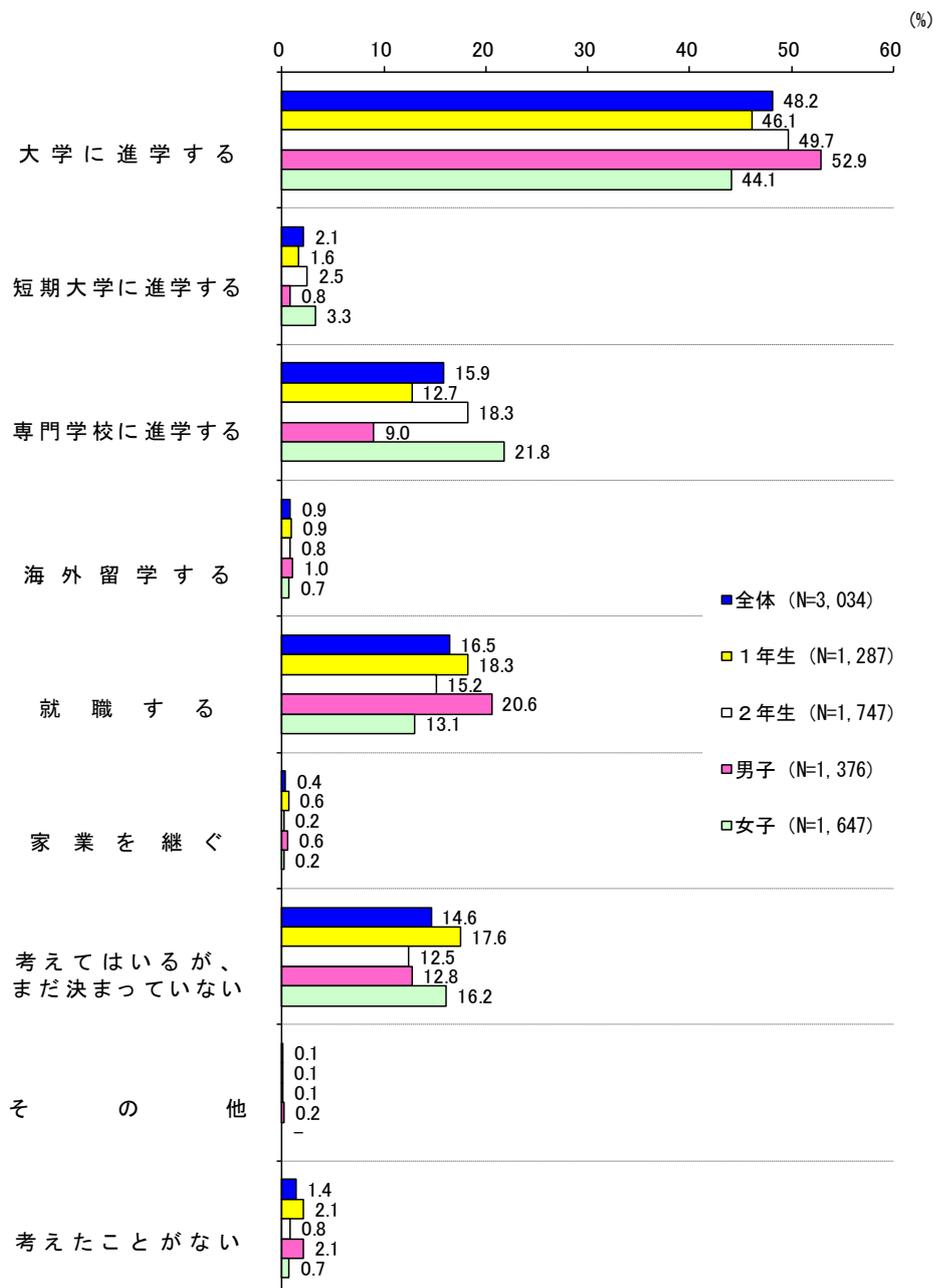
V 将来について

1. 卒業後の進路・働き方・暮らし方について

1-1 卒業後の進路

全体の50%弱が「大学に進学する」と回答した。学年別では、「専門学校に進学する」は、2年生の割合が高く、「考えてはいるが、まだ決まっていない」は1年生の割合が高かった。性別では、「大学に進学する」「就職する」は男子の割合が高く、「専門学校に進学する」は女子の割合が高かった。

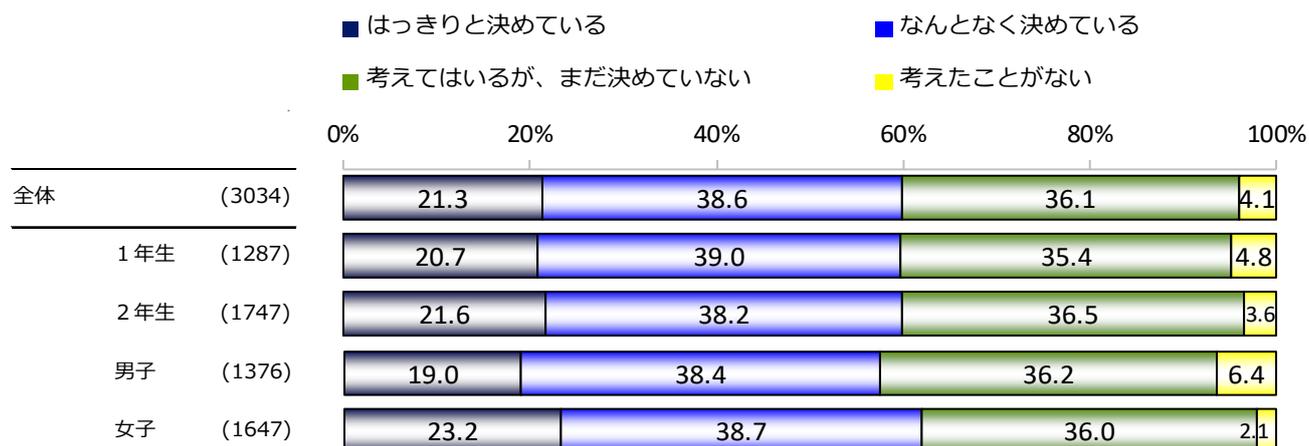
【図表V-1-1】卒業後の進路＜全体・学年別・性別＞



1-2 将来就きたい職業を決めているか

「はっきりと決めている」「なんとなく決めている」を合わせ、全体の約60%が決めていると回答した。そのうち「はっきりと決めている」と回答したのは20%強であった。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

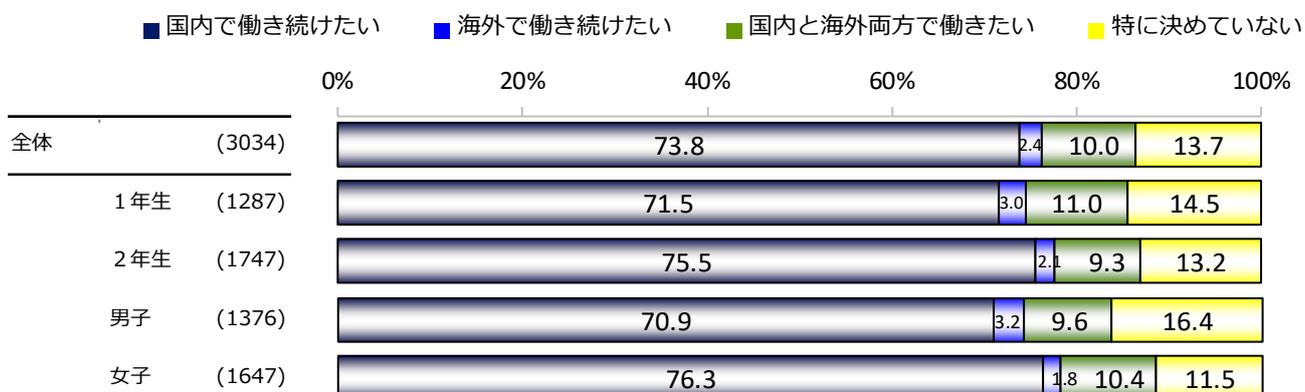
【図表V-1-2】将来就きたい職業を決めているか<全体・学年別・性別>



1-3 【新規項目】将来働きたい場所

全体では、70%台半ばが「国内で働き続けたい」と回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「国内で働き続けたい」は女子の割合が高かった。

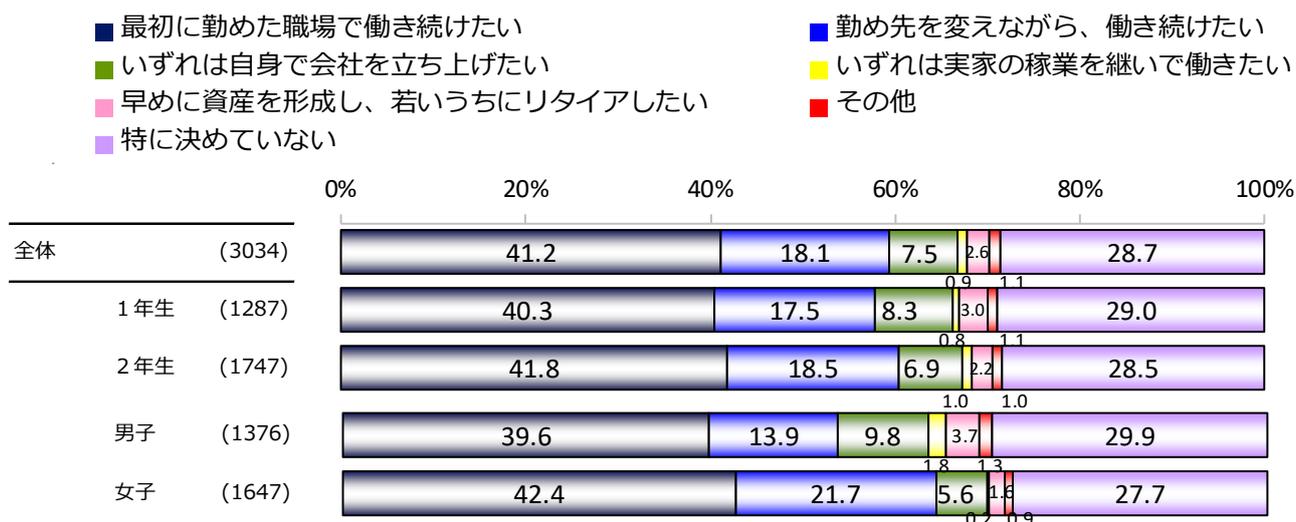
【図表V-1-3】将来働きたい場所<全体・学年別・性別>



1-4 【新規項目】将来の働き方

全体では、40%強が「最初に勤めた職場で働き続けたい」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では、「勤め先を変えながら、働き続けたい」は女子の割合が高かった。

【図表V-1-4】将来の働き方<全体・学年別・性別>



1-5 【新規項目】何歳まで働きたいか

全体の平均は、68.0歳であった。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、中央値は男女とも65歳だが、平均値では男子が69.8歳、女子が66.5歳と、性別による差がみられた。

【図表V-1-5】何歳まで働きたいか<全体・学年別・性別>

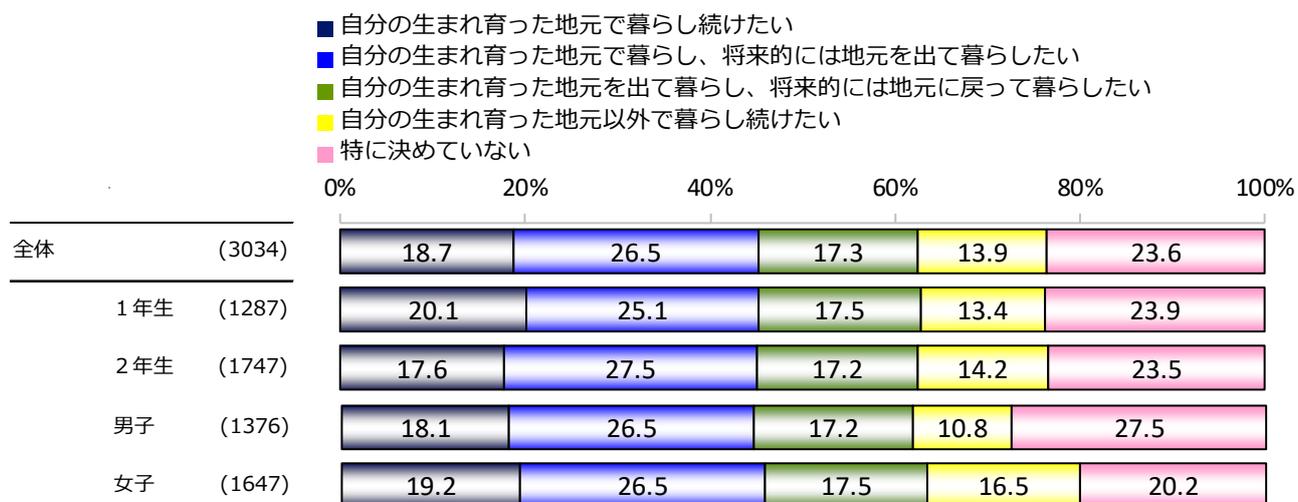
		平均値	中央値
学年別	高校1年生 (N=1, 287)	68.9	65
	高校2年生 (N=1, 747)	67.3	65
性別	男子 (N=1, 376)	69.8	65
	女子 (N=1, 647)	66.5	65
全体 (N=3, 034)		68.0	65

(単位：歳)

1-6 【新規項目】地元での暮らしに対する意識

全体では、「自分の生まれ育った地元で暮らし、将来的には地元を出て暮らしたい」が20%台半ばと割合が高く、次いで「特に決めていない」「自分の生まれ育った地元で暮らし続けたい」の順となった。学年別では大きな差はみられなかった。性別でみると、「自分の生まれ育った地元以外で暮らし続けたい」は女子の割合が高く、「特に決めていない」は男子の割合が高かった。

【図表V-1-6】地元での暮らしに対する意識＜全体・学年別・性別＞

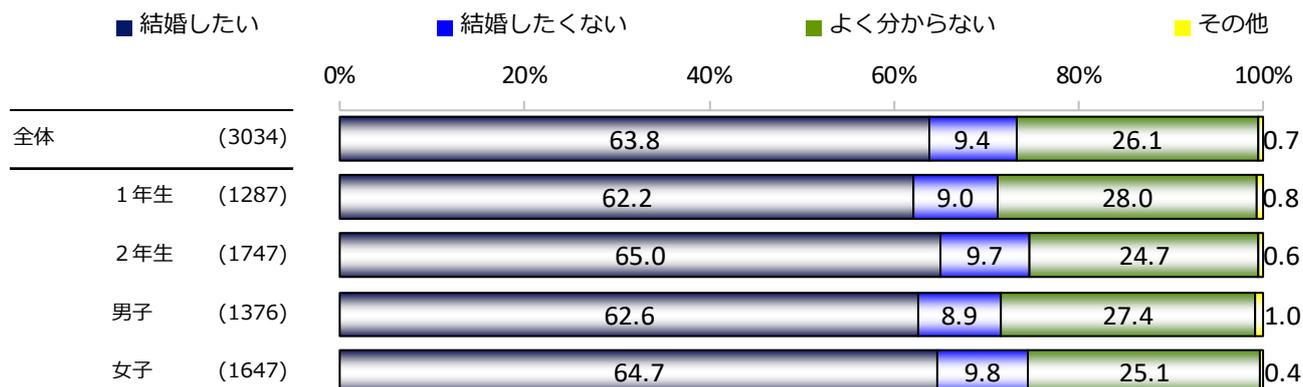


2. 結婚・子どもについて

2-1 結婚願望

全体の60%台半ばが「結婚したい」と回答した。「結婚したくない」と回答したのは10%弱だった。学年別、性別による大きな差はみられなかった。

【図表V-2-1】結婚願望＜全体・学年別・性別＞



結婚したい人の結婚希望年齢の平均は、全体では25.6歳であった。学年別、性別で大きな差はみられなかった。

【図表V-2-2】結婚希望年齢＜全体・学年別・性別＞

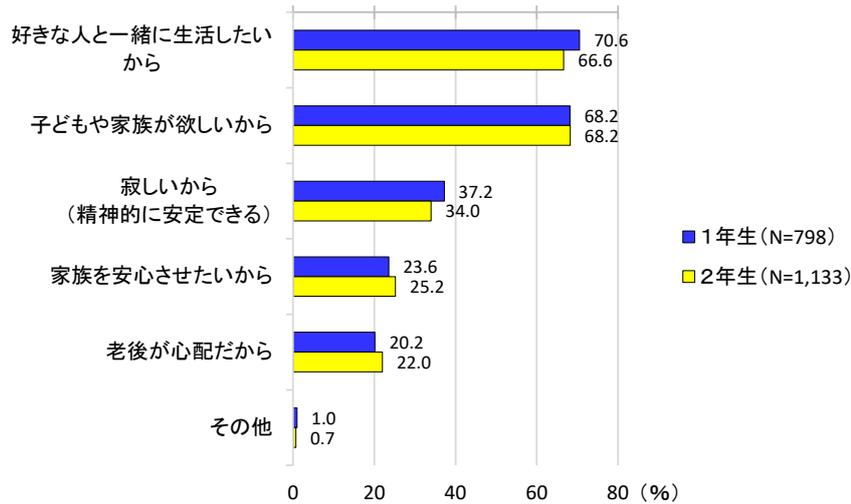
		平均値	中央値
学年別	高校1年生 (N=798)	25.7	25
	高校2年生 (N=1,133)	25.6	25
性別	男子 (N=861)	26.2	25
	女子 (N=1,063)	25.2	25
全体 (N=1,931)		25.6	25

(単位：歳)

2-2 結婚したい理由

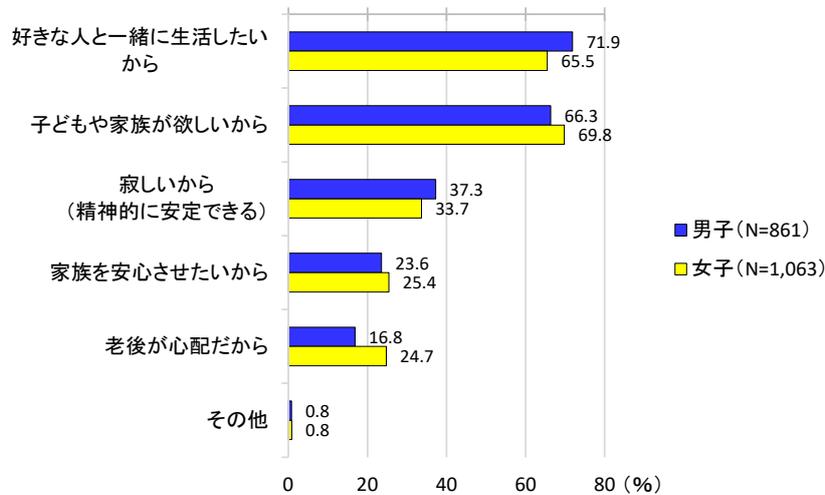
両学年とも70%前後が上位2項目として「好きな人と一緒に生活したいから」「子どもや家族が欲しいから」と回答した。次いで両学年とも「寂しいから（精神的に安定できる）」が続いた。学年別で大きな差はみられなかった。

【図表V-2-3】結婚したい理由<学年別>



性別では、男子は「好きな人と一緒に生活したいから」が最も多く、70%強となった。対して女子は「子どもや家族が欲しいから」約70%で最も多かった。「好きな人と一緒に生活したいから」は男子の割合が、「老後が心配だから」は女子の割合がそれぞれ高かった。

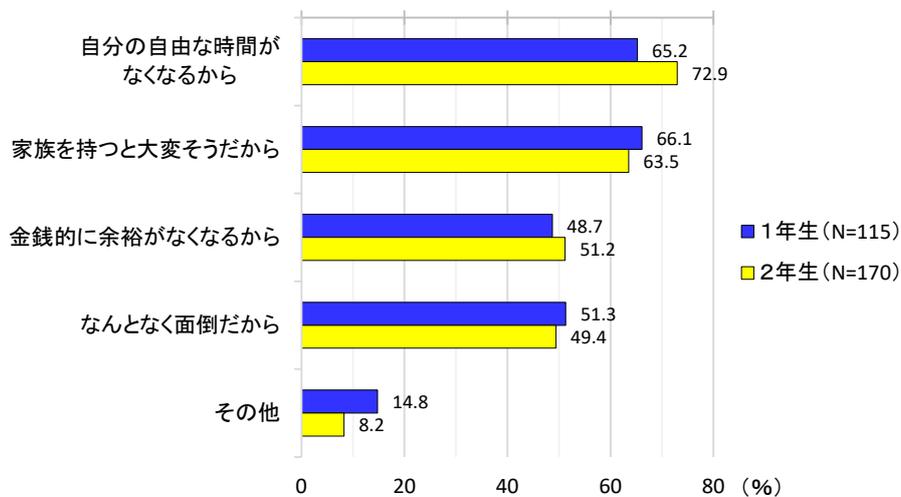
【図表V-2-4】結婚したい理由<性別>



2-3 結婚したくない理由

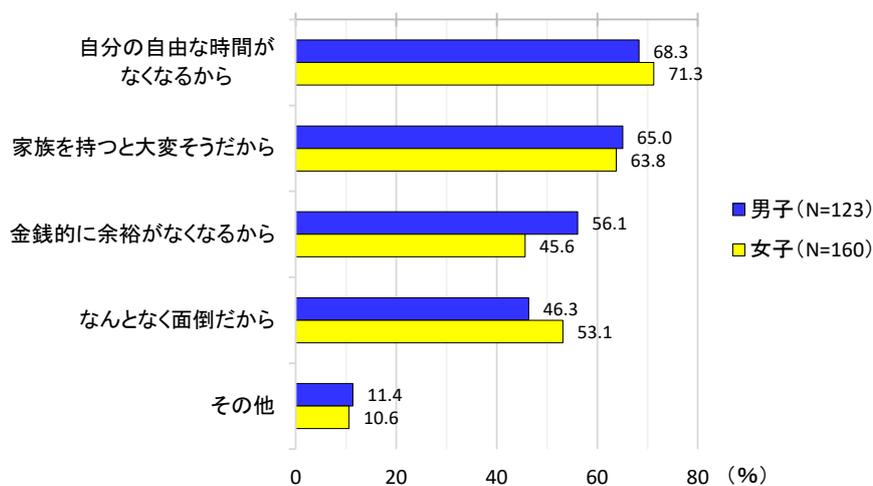
1年生は「家族を持つと大変そうだから」が60%台半ばと最も多く、僅差で「自分の自由な時間がなくなるから」が続いた。2年生は「自分の自由な時間がなくなるから」が70%強と最も多く、次いで「家族を持つと大変そうだから」が続いた。「自分の自由な時間がなくなるから」は1年生に比べて2年生の割合が高かった。「金銭的に余裕がなくなるから」「なんとなく面倒だから」は両学年とも50%前後が回答した。

【図表V-2-5】結婚したくない理由<学年別>



性別では、男女ともに「自由な時間がなくなるから」が70%前後で最も多く、次いで「家族を持つと大変そうだから」が続いた。「金銭的に余裕がなくなるから」は女子に比べて男子の割合が高く、「なんとなく面倒だから」は男子に比べて女子の割合が高かった。

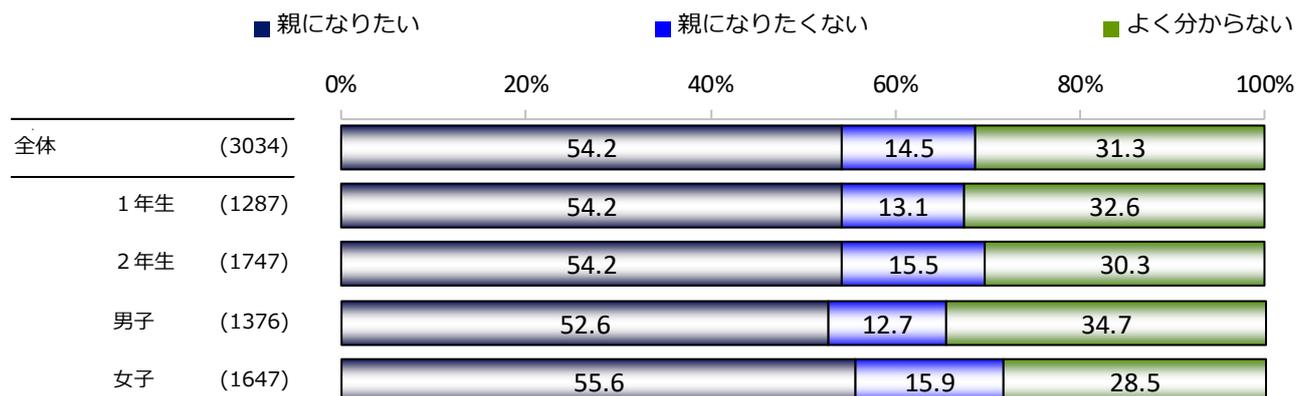
【図表V-2-6】結婚したくない理由<性別>



2-4 親になりたいか

全体の50%台半ばが「親になりたい」と回答した。「親になりたくない」は10%台半ばであった。学年別では大きな差はみられなかった。性別では、「よく分からない」は、男子の割合が女子よりも高かった。

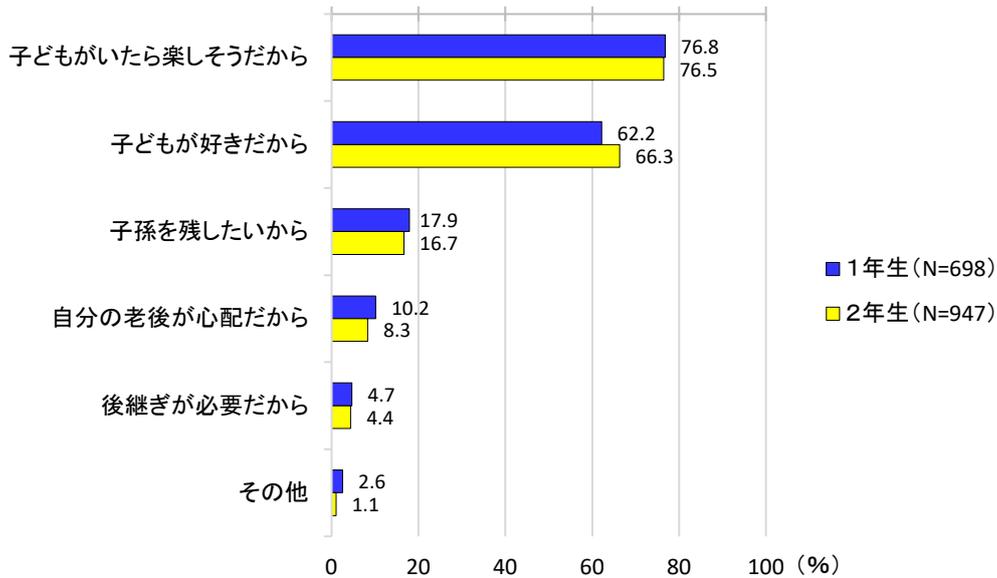
【図表V-2-7】親になりたいか<全体・学年別・性別>



2-5 親になりたい理由

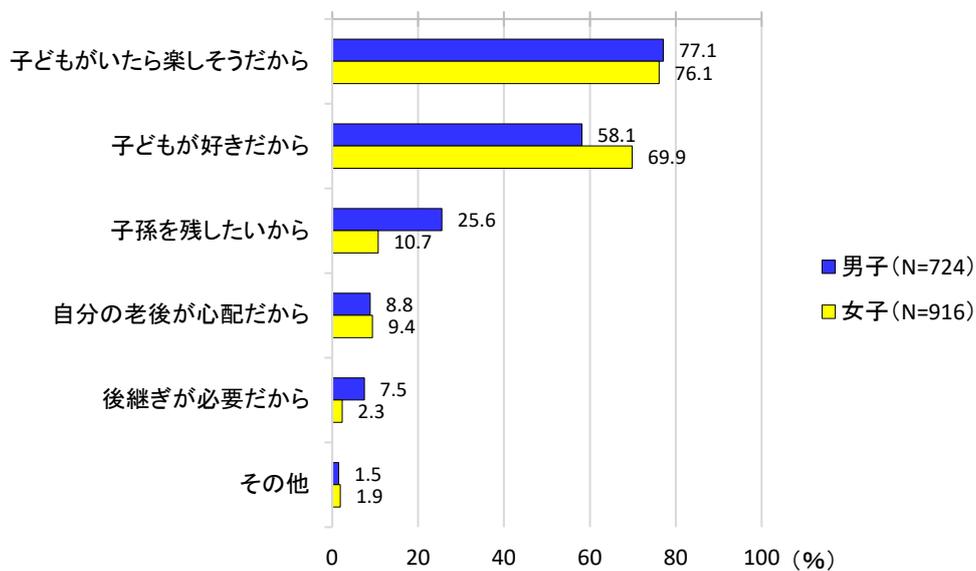
1年生、2年生ともに「子どもがいたら楽しそうだから」が最も多く、70%台半ばが回答した。次いで「子どもが好きだから」の順で、学年で大きな差はみられなかった。

【図表V-2-8】親になりたい理由<学年別>



性別でも、男女ともに「子どもがいたら楽しそうだから」「子どもが好きだから」が上位の回答となった。「子どもが好きだから」は女子の割合が、「子孫を残したいから」は男子の割合が高く、性別による差がみられた。

【図表V-2-9】親になりたい理由<性別>



「親になりたい」と回答した生徒が将来希望する子どもの人数は、全体で平均「2.5人」という結果となった。学年別、性別で大きな差はみられなかった。

【図表V-2-10】子どもの希望人数<全体・学年別・性別>

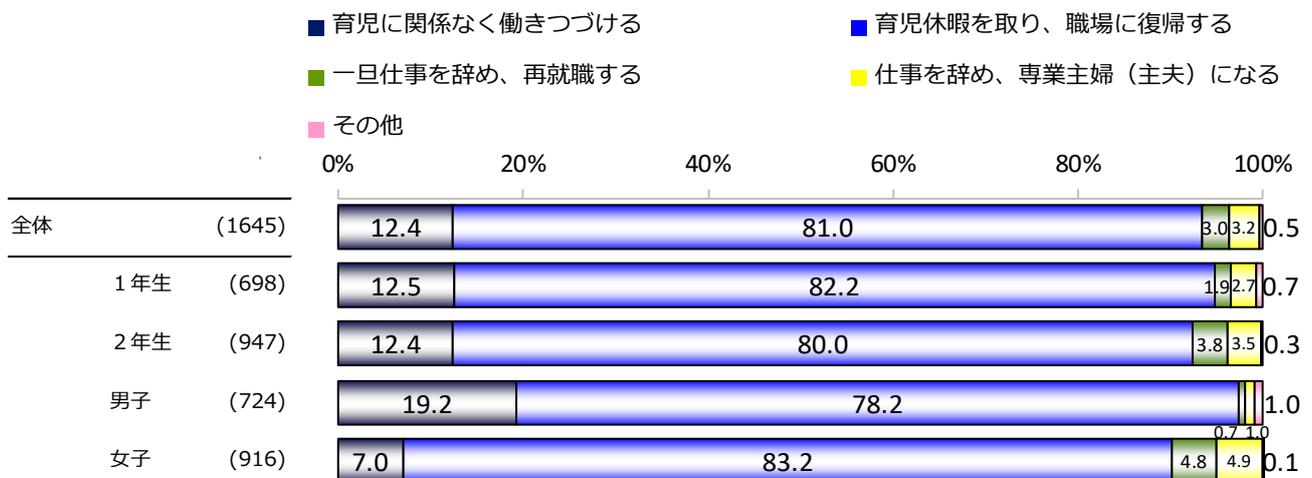
		平均値	中央値
学年	1年生 (N=698)	2.5	2
	2年生 (N=947)	2.5	2
性別	男子 (N=724)	2.6	2
	女子 (N=916)	2.4	2
全体 (N=1,645)		2.5	2

(単位：人)

2-6 将来子どもが生まれたときの働き方

全体では80%強が「育児休暇を取り、職場に復帰する」と回答した。「育児に関係なく働き続ける」は10%強で、「一旦仕事を辞め、再就職する」や「仕事を辞め、専業主婦（主夫）になる」はそれぞれ5%に満たなかった。学年別では大きな差はみられなかった。性別で見ると、「育児休暇を取り、職場に復帰する」は男子よりも女子の割合の方が高かった。一方、「育児に関係なく、働き続ける」は男子が20%弱であるのに対し、女子は10%に満たず、男子の割合の方が高かった。

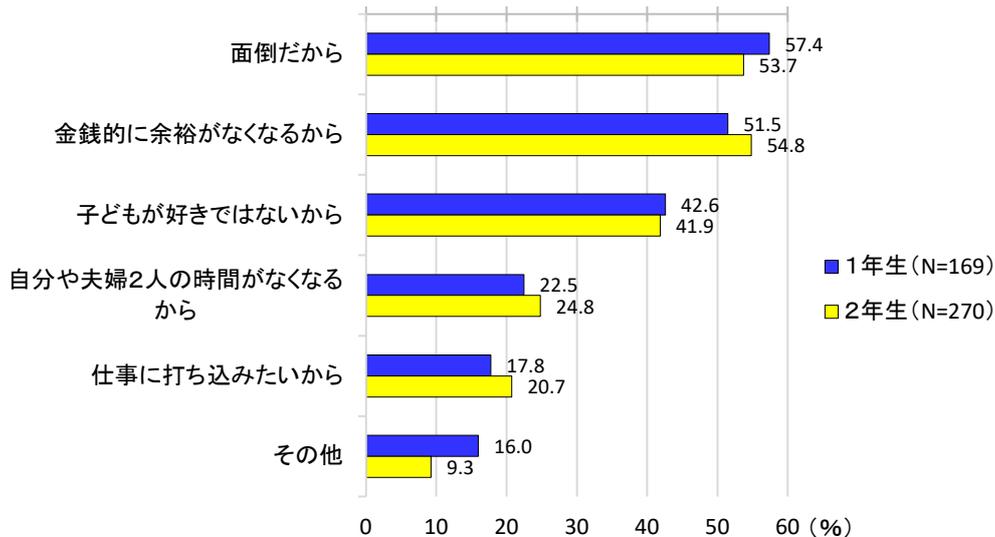
【図表V-2-11】将来子どもが生まれたときの働き方<全体・学年別・性別>



2-7 親になりたくない理由

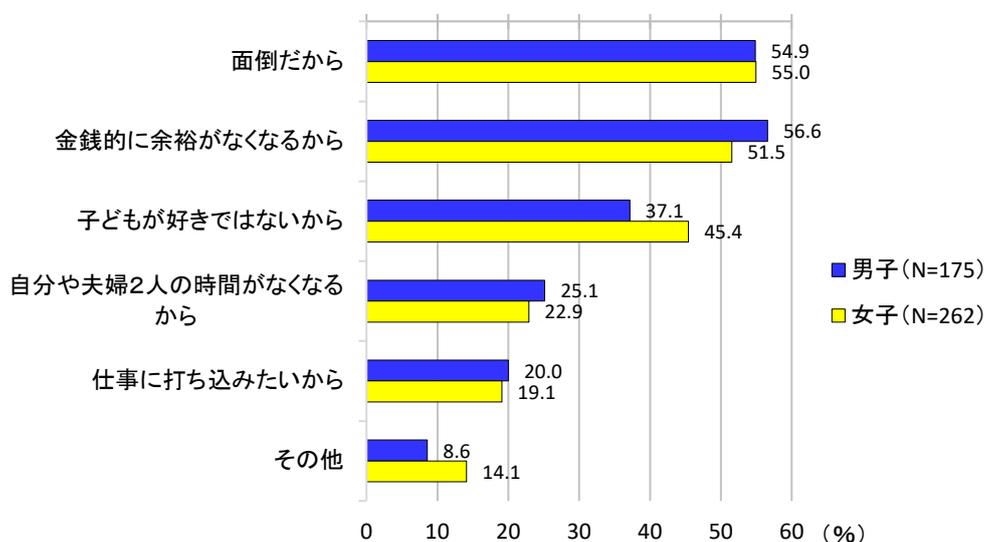
1年生は「面倒だから」が最も多く60%弱が回答し、次いで「金銭的に余裕がなくなるから」「子どもが好きではないから」の順となった。2年生は「金銭的に余裕がなくなるから」が最も多く50%台半ばが回答し、僅差で「面倒だから」が続き、次いで「子どもが好きではないから」の順となった。学年別では大きな差はみられなかった。

【図表V-2-12】親になりたくない理由<学年別>



性別でも、男女ともに「面倒だから」「金銭的に余裕がなくなるから」が上位の回答となった。「金銭的に余裕がなくなるから」は女子と比べて男子の割合が、「子どもが好きではないから」は男子と比べて女子の割合が高かった。

【図表V-2-13】親になりたくない理由<性別>



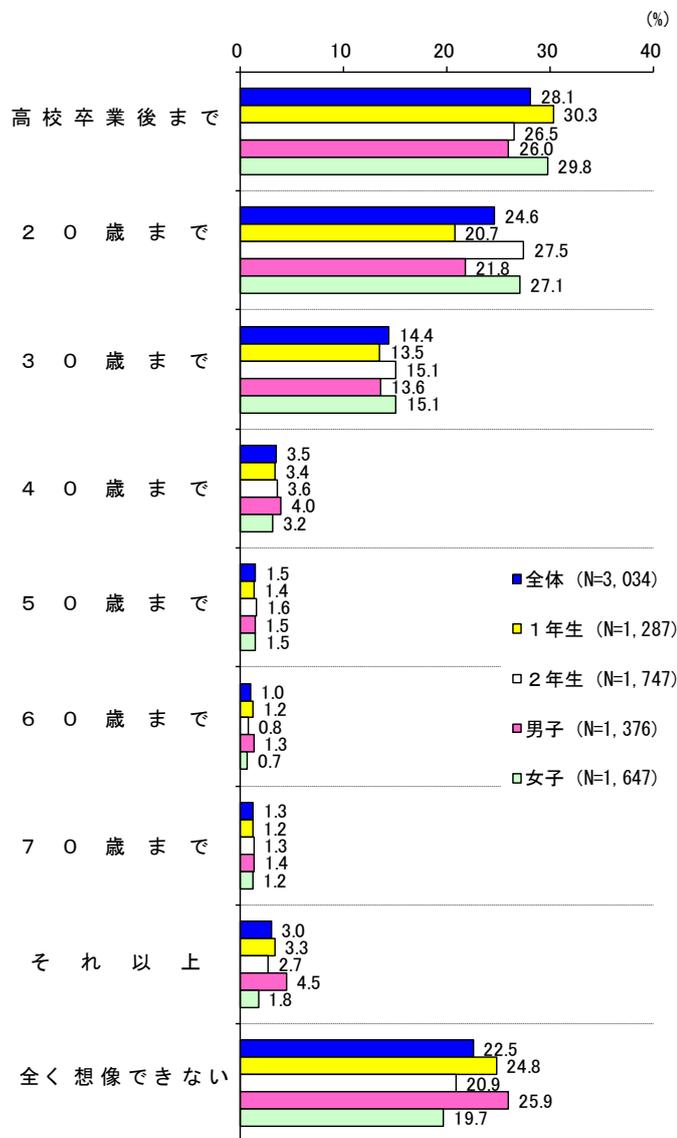
3. 将来の生活について

3-1 将来が思い描ける年齢

全体では、「高校卒業後まで」が30%弱で最も高く、「20歳まで」と合わせると50%強となった。20歳より先の将来を思い描いている人は20%台半ばにとどまった。一方、20%強が「全く想像できない」と回答した。学年別では、「20歳まで」は2年生の割合が高かった。性別では、男女ともに「高校卒業まで」が最も高い割合であった。

【図表V-3-1】

将来が思い描ける年齢<全体・学年別・性別>

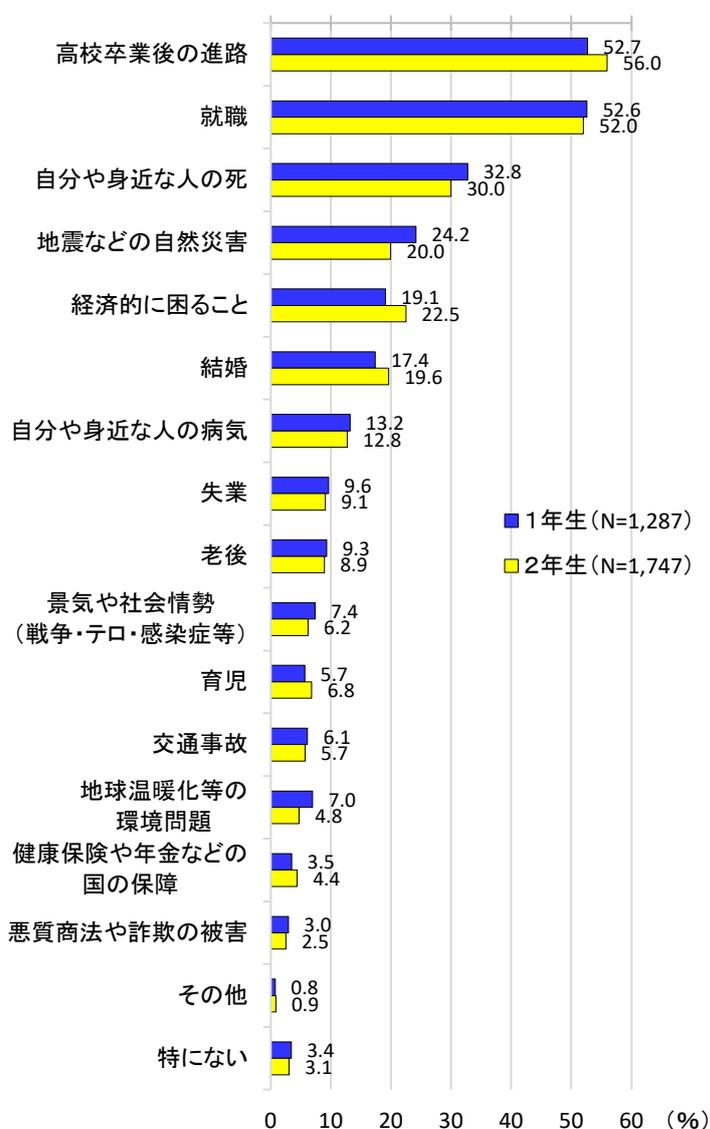


3-2 将来不安なこと

1年生、2年生ともに上位3位までの順位は同じとなった。「高校卒業後の進路」「就職」がそれぞれ半数を超え、次いで、「自分や身近な人の死」が1年生は30%強、2年生は30%の回答となった。学年別では大きな差はみられなかった。

【図表V-3-2】将来不安なこと（複数回答3つまで）＜学年別＞

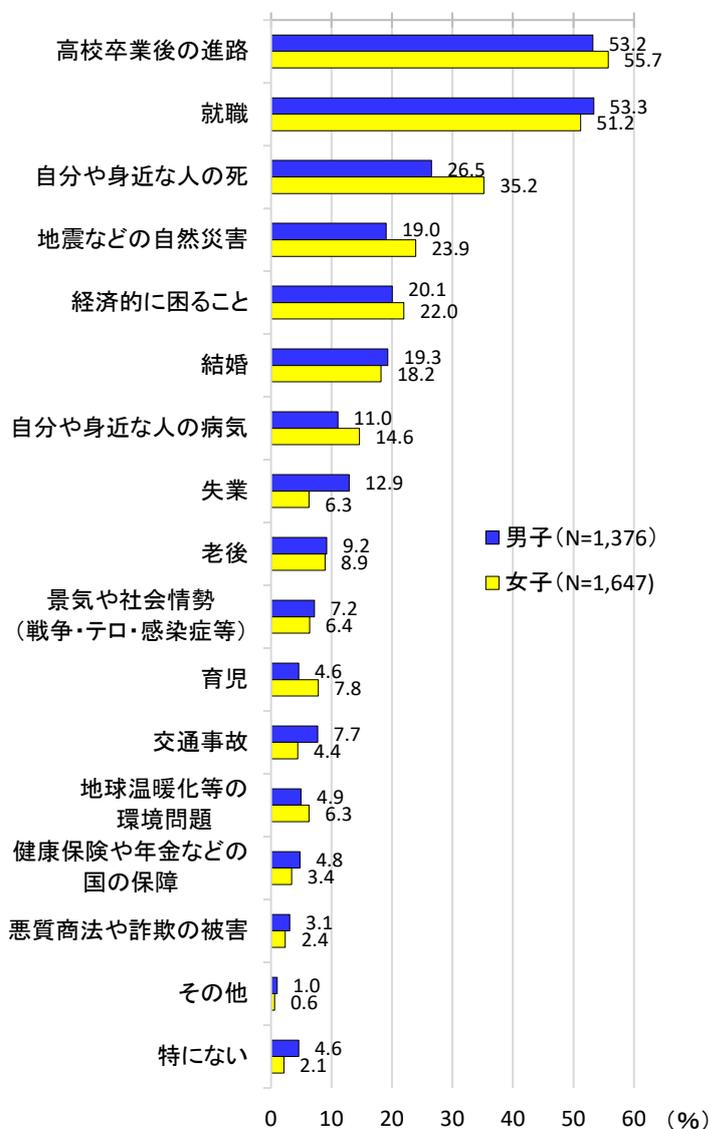
	1位	2位	3位
1年生 (N=1,287)	高校卒業後の進路 (52.7%)	就職 (52.6%)	自分や身近な人の死 (32.8%)
2年生 (N=1,747)	高校卒業後の進路 (56.0%)	就職 (52.0%)	自分や身近な人の死 (30.0%)



性別でも、学年別と同様「高校卒業後の進路」「就職」が半数を超え上位の回答となった。男女の差がみられた回答として、「自分や身近な人の死」は男子より女子の割合が高く、「失業」は女子より男子の割合が高かった。

【図表V-3-3】将来不安なこと（複数回答3つまで）＜性別＞

	1 位	2 位	3 位
男子 (N=1,376)	就職 (53.3%)	高校卒業後の進路 (53.2%)	自分や身近な人の死 (26.5%)
女子 (N=1,647)	高校卒業後の進路 (55.7%)	就職 (51.2%)	自分や身近な人の死 (35.2%)



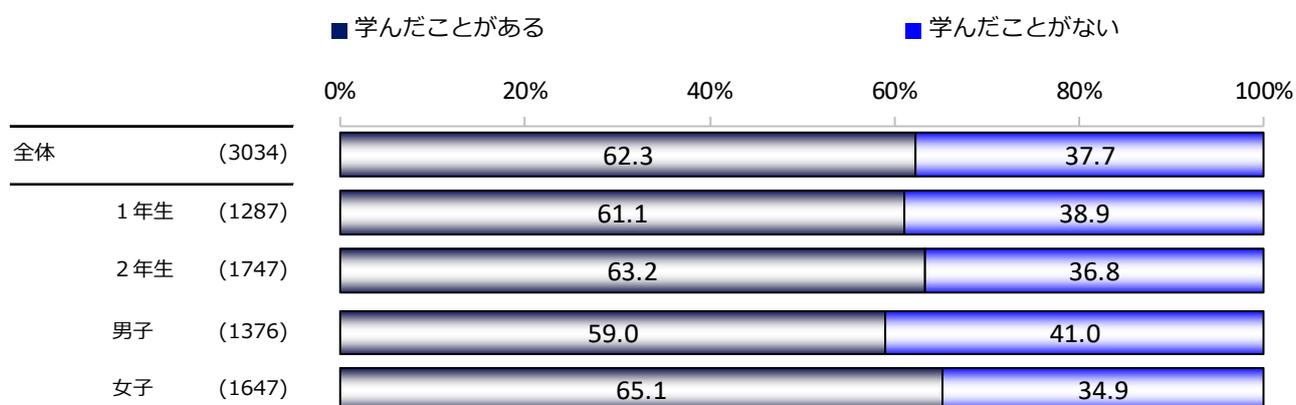
VI これまでの学習状況について

1. 「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習について

1-1 「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習経験

「お金や生活設計（ライフプラン）」について、全体では、60%強が「学んだことがある」と回答した。学年別では大きな差はみられなかったが、性別では、「学んだことがある」は男子よりも女子の割合の方が高かった。

【図表VI-1-1】「消費生活や生活設計（ライフプラン）」の学習経験＜全体・学年別・性別＞

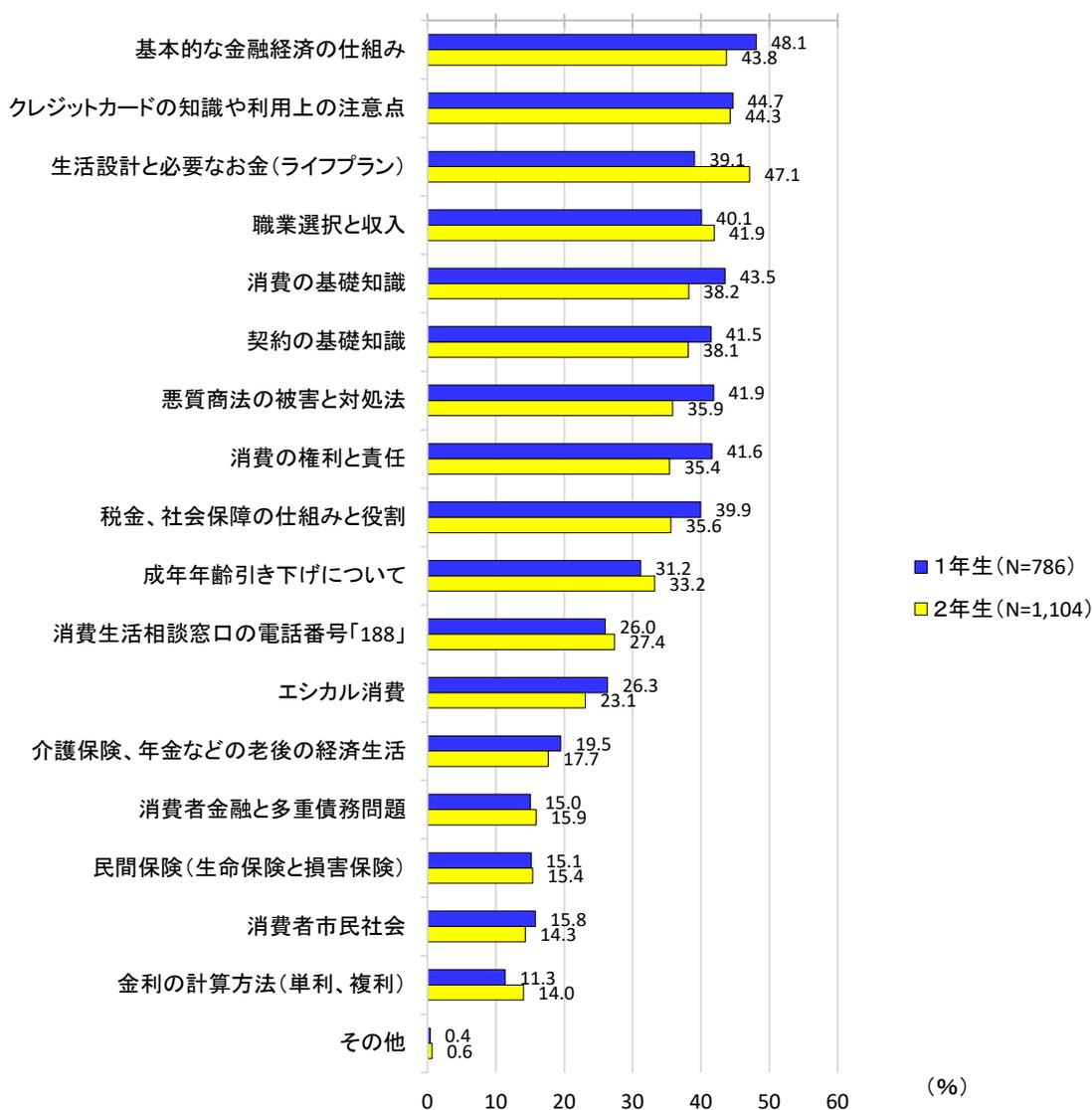


1-2 学習項目

各項目について実際に学んだことのある生徒の割合は、1年生は「基本的な金融経済の仕組み」が50%弱となっており、次いで「クレジットカードの知識や利用上の注意点」「消費の基礎知識」が40%台半ばとなった。2年生は「生活設計と必要なお金（ライフプラン）」が50%弱で1位となり、次いで「クレジットカードの知識や利用上の注意点」「基本的な金融経済の仕組み」が40%台半ばとなった。「生活設計と必要なお金（ライフプラン）」は2年生の割合が高かった。

【図表VI-1-2】学習項目（複数回答）＜学年別＞

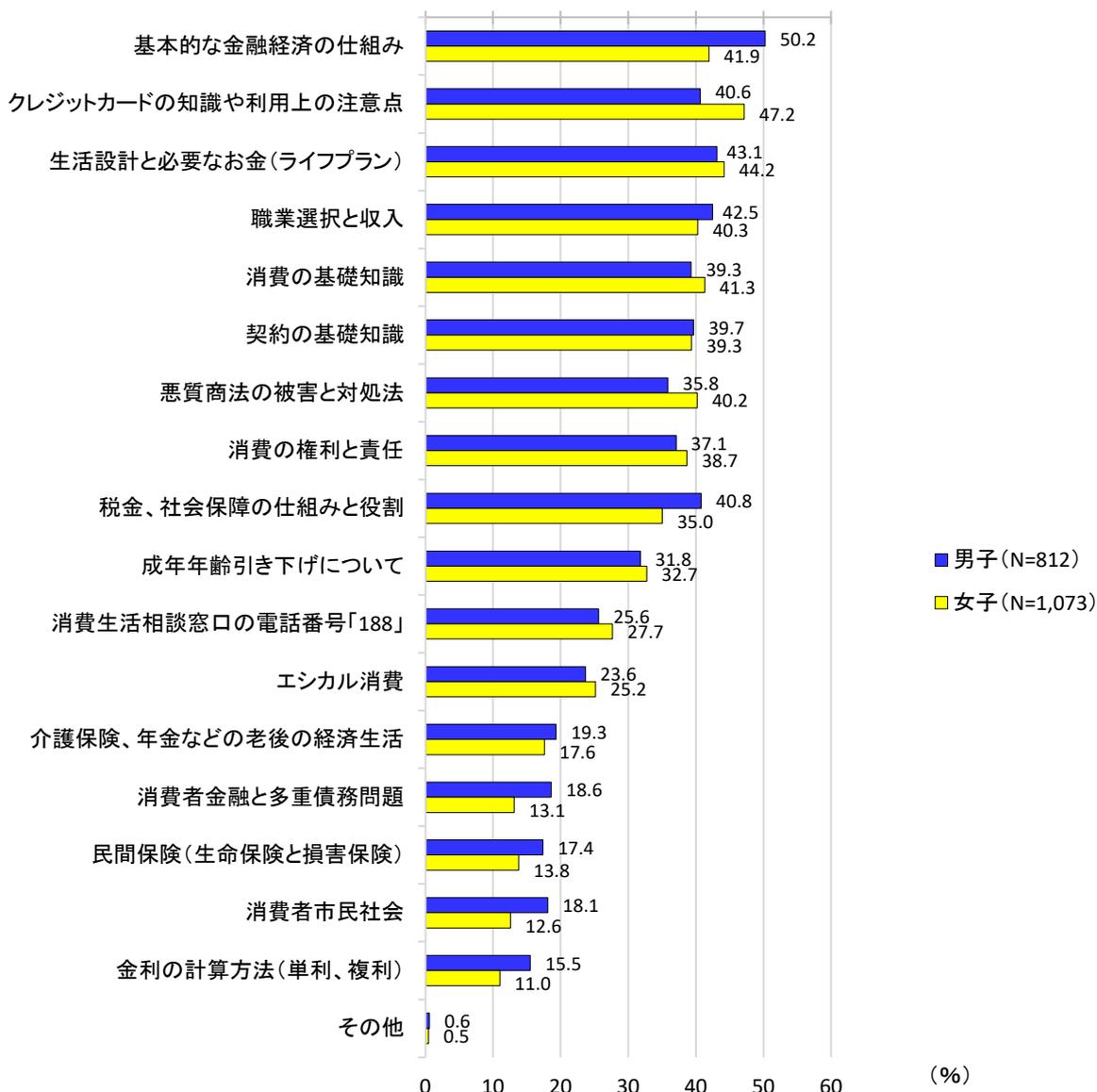
	1 位	2 位	3 位
1 年生 (N=786)	基本的な金融経済の 仕組み (48.1%)	クレジットカードの知識 や利用上の注意点 (44.7%)	消費の基礎知識 (43.5%)
2 年生 (N=1,104)	生活設計と必要なお金 (ライフプラン) (47.1%)	クレジットカードの知識 や利用上の注意点 (44.3%)	基本的な金融経済の 仕組み (43.8%)



性別では、男子は「基本的な金融経済の仕組み」が約50%となっており、次いで「生活設計と必要なお金（ライフプラン）」が40%台半ば、「職業選択と収入」が40%強となった。女子は「クレジットカードの知識や利用上の注意点」が50%弱ばで1位となり、次いで「生活設計と必要なお金（ライフプラン）」が40%台半ば、「基本的な金融経済の仕組み」が40%強で続いた。上位3位まででみると、「基本的な金融経済の仕組み」は男子の割合が、「クレジットカードの知識や利用上の注意点」は女子の割合が高かった。

【図表VI-1-3】学習項目（複数回答）＜性別＞

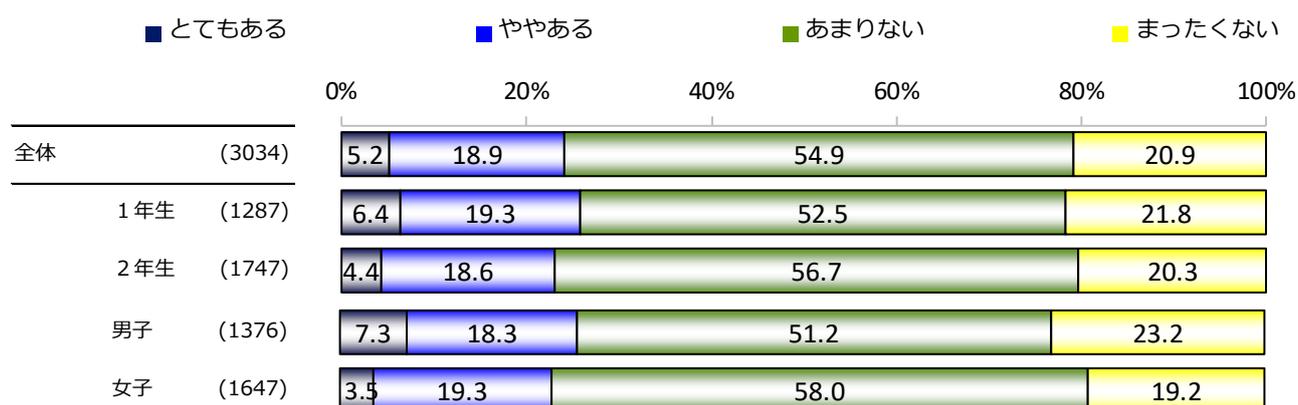
	1 位	2 位	3 位
男子 (N=812)	基本的な金融経済の 仕組み (50.2%)	生活設計と必要なお金（ラ イフプラン） (43.1%)	職業選択と収入 (42.5%)
女子 (N=1,073)	クレジットカードの知識や 利用上の注意点 (47.2%)	生活設計と必要なお金（ラ イフプラン） (44.2%)	基本的な金融経済の 仕組み (41.9%)



2.【新規項目】外部講師の授業で印象に残った話

全体では、「とてもある」「ややある」を合わせると、20%台半ばの生徒が外部の団体や企業等から来た講師の授業で印象に残った話があると回答した。学年別では大きな差はみられなかった。性別でも、「とてもある」「ややある」を合わせた割合では大きな差はみられなかった。

【図表VI-2-1】外部講師の授業で印象に残った話<全体・学年別・性別>



印象に残った理由についての自由記述では、「自分の将来に関係のある・役立つ話を聞くことができたから」という回答が最も多く、次いで「内容がよかったから（面白かった、すごいと思った、楽しかったから等）」の順となった。

【図表VI-2-2】印象に残った理由について（自由記述、複数回答）

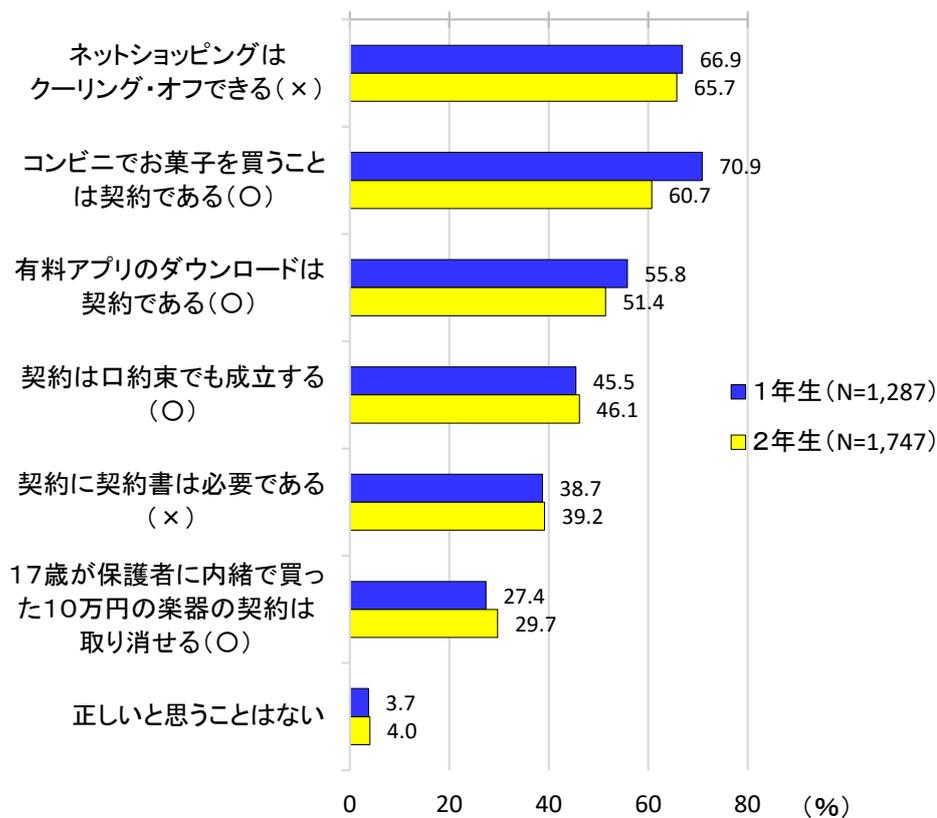
＜主な回答＞	
・自分の将来に関係のある・役立つ話を聞くことができたから	125人
・内容がよかったから（面白かった、すごいと思った、楽しかったから等）	107人
・今まで知らなかった話を聞くことができたから	92人
・内容に興味があったから（税金、詐欺等）	86人
・講師の話し方がよかったから（熱意があったから、大切な話をしていたから等）	59人

Ⅶ 契約と生活リスクに関する知識について

1. 契約に関する知識

正答率が最も高かった「ネットショッピングはクーリング・オフできる」は、両学年とも60%台半ばが正答した。次いで「コンビニでお菓子を買うことは契約である」は、1年生は70%強、2年生は60%強が正答した。一方、「17歳が保護者に内緒で買った10万円の楽器の契約は取り消せる」は、70%以上が正しく回答できなかった。

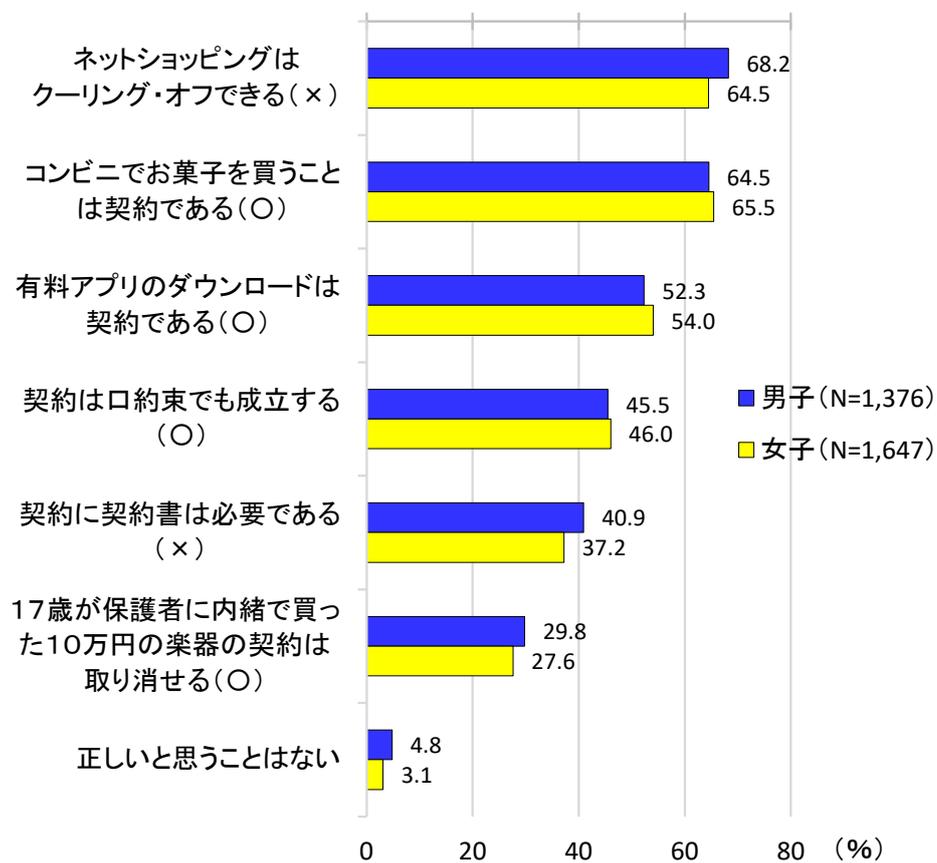
【図表Ⅶ-1-1】正答率<学年別>



※上記に記載の○×は、各項目の正誤を示しています。

性別では正答率に大きな差はみられなかった

【図表Ⅶ-1-2】正答率<性別>

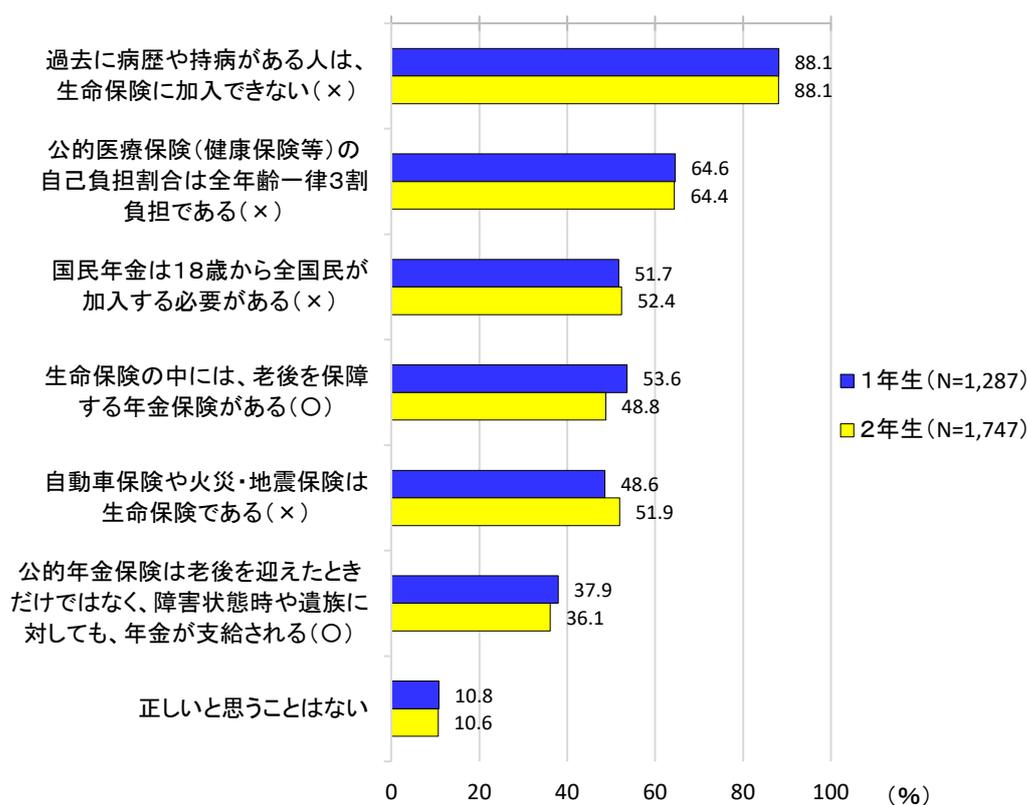


※上記に記載の○×は、各項目の正誤を示しています。

2. 【新規項目】生活におけるリスク（病気・ケガ、死亡、介護等）に関する知識

正答率が最も高かった「過去に病歴や持病がある人は生命保険に加入できない」は、両学年とも90%弱が正答した。一方、「公的年金保険は老後を迎えたときだけでなく、障害状態時や遺族に対しても、年金が支給される」は、60%以上が正しく回答できなかった。学年で見ると、正答率に大きな差はみられなかったが、概ね2年生に比べて1年生の正答率が高い傾向にあった。

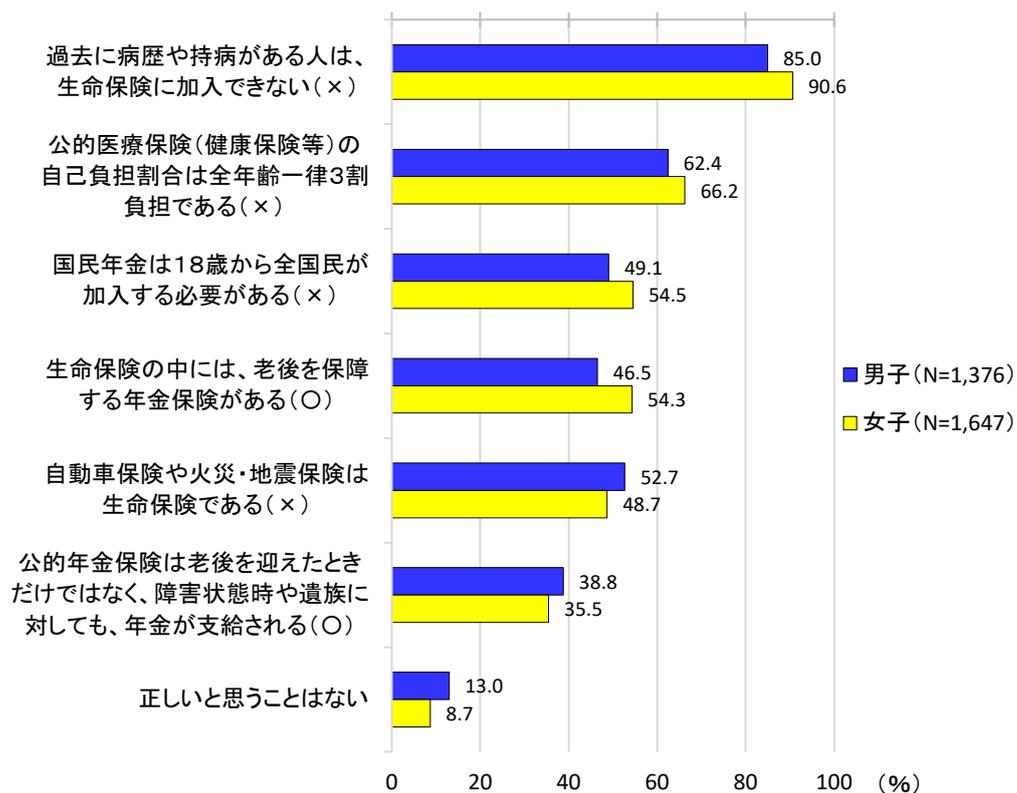
【図表Ⅶ-2-1】正答率＜学年別＞



※上記に記載の○×は、各項目の正誤を示しています。

性別では、「過去に病歴や持病がある人は、生命保険に加入できない」「公的医療保険（健康保険等）の自己負担割合は全年齢一律30%負担である」「国民年金は18歳から全国民が加入する必要がある」「生命保険の中には、老後を保障する年金保険がある」は、男子より女子の正答率が高かった。

【図表Ⅶ-2-2】正答率＜性別＞



※上記に記載の○×は、各項目の正誤を示しています。

「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート」

【調査票・単純集計結果】

(高校1年生・2年生 N=3,034)

「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査」のお願い

このアンケートは、全国の高校生を対象に暮らしとお金、将来に対する考え方などについてお聞きするものです。名前の入力は不要です。日ごろの様子や、感じることをありのままに教えてください。

1 あなた自身のことについて

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておうかがいします。

問1 (1) あなたの学年を教えてください。(1つ選択)

1) 学年 1年生 (42.4) 2年生 (57.6)

問1 (2) 続いて、あなたの性別を教えてください。(1つ選択)

2) 性別 男子 (45.4) 女子 (54.3) 無回答 (0.4)

問2 あなたは今、どのようなことに興味がありますか？最大3つまで選択してください。
(3つまで選択可)

1 勉強	(15.8)	9 SNS・動画投稿サイト (LINE・X (旧 Twitter) ・ Instagram・TikTok・YouTube 等)	(33.9)
2 部活動	(31.6)	10 動画配信 (Netflix・Amazon Prime 等)	(9.8)
3 習い事	(3.2)	11 アルバイト	(6.0)
4 ファッション	(21.4)	12 友達付き合い	(14.2)
5 マンガ・アニメ	(29.2)	13 恋愛	(16.3)
6 ゲーム	(31.7)	14 アウトドア (キャンプ・登山・ピクニック等)	(3.4)
7 音楽	(48.8)	15 その他 (回答：スポーツ、筋トレ、読書等)	(4.0)
8 好きな芸能人	(10.2)		

問3 あなたの「普段の生活」に関する考え方や傾向について聞きます。とてもあてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、まったくあてはまらないの中から、どれか1つを選択してください。（それぞれ1つずつ選択）

	① とてもあてはまる	② ややあてはまる	③ あまりあてはまらない	④ まったくあてはまらない
1 欲しいものはすぐ手に入れたい	(31.2)	(49.0)	(17.7)	(2.0)
2 買ったものはできるだけ長く使う	(53.8)	(37.8)	(7.5)	(0.9)
3 買い物は値段が安いのがいちばんだと思う	(16.4)	(37.7)	(38.3)	(7.6)
4 何かを決めるときは複数のものを比較して決めている	(44.7)	(41.9)	(10.8)	(2.6)
5 これから先のことは、あれこれと考えなくてもどうにかなると思う	(16.3)	(29.0)	(37.8)	(16.9)
6 社会の一員として、何か社会のためになることをしたいと思う	(26.0)	(50.7)	(17.6)	(5.7)
7 自分の考えを主張するより、周りの人の考えを優先している	(25.4)	(53.4)	(18.3)	(2.9)
8 自分が成長するためには、困難にも立ち向かっていくべきと思う	(44.8)	(45.9)	(7.6)	(1.6)

問4 あなたは家族と、次のことについて話しますか？よく話す、ときどき話す、あまり話さない、まったく話さないの中から、どれか1つを選択してください。（それぞれ1つずつ選択）

	① よく話す	② ときどき話す	③ あまり話さない	④ まったく話さない
1 学校での出来事	(46.8)	(34.7)	(12.4)	(6.2)
2 高校卒業後の進路	(24.2)	(43.6)	(23.7)	(8.4)
3 悩みごと（進路以外）	(17.8)	(22.7)	(32.6)	(26.9)
4 お小遣いの使い方	(11.4)	(24.4)	(33.5)	(30.7)
5 今の家計状況	(9.5)	(18.7)	(36.1)	(35.7)
6 親の仕事内容	(18.0)	(33.4)	(27.4)	(21.2)
7 政治・経済などのニュース、出来事	(13.8)	(34.0)	(29.2)	(23.0)
8 万が一のこと（病気・ケガ・事故等）に備えるための手段（注※）	(9.1)	(24.2)	(38.5)	(28.2)

注※社会保険（健康保険などの国の保障）や民間保険（生命保険・損害保険）

問5 18歳になると皆さんは成年になり、例えば一人で契約できるようになります。そのことについてあなたはどのように思いますか？（複数選択可）

- | | | | |
|--------------------------|--------|-----------------------------|--------|
| 1 大人の仲間入りができて
うれしい | (24.1) | 5 消費者被害にあうかも
しれないと不安を感じる | (27.2) |
| 2 社会の一員として期待さ
れていると思う | (7.4) | 6 なんとなく面倒を感じる | (33.9) |
| 3 法律や制度について詳し
く知ろうと思う | (25.7) | 7 特に何も思わない | (19.7) |
| 4 プレッシャーを感じる | (38.8) | | |

2 お金に関することについて

問6 あなたは現在、お小遣いをもらっていますか？（ひとつ選択）

- | | |
|--------------|--------|
| 1 定期的にもらっている | (48.4) |
| 2 その都度もらっている | (31.8) |
| 3 もらっていない | (19.8) |

問6で「定期的にもらっている」「その都度もらっている」と答えた人に聞きます。

問6-1 1カ月にもらっている金額はいくらですか？（数値入力）

N=2,434 （平均 6,181、中央値 5,000）円くらい

※半角数字でご入力ください。

問6で「もらっていない」と答えた人に聞きます。

問6-2 欲しいものがあつた場合、どうしますか？（複数選択可）

N=600

- | | | | |
|---------------|--------|---------------------------|--------|
| 1 アルバイトでお金を稼ぐ | (42.0) | 4 我慢する | (30.3) |
| 2 お年玉や貯金を使う | (58.2) | 5 その他(回答:お手伝いを
してもらう等) | (2.0) |
| 3 保護者に買ってもらう | (46.7) | 6 欲しいものは特にない | (3.0) |

問7 あなたはアルバイトをしていますか(したことがありますか)? (1つ選択)

- 1 家計を助けるためにアルバイトをしている(したことがある) (3.1)
- 2 自分で使うお金のためにアルバイトをしている(したことがある) (14.2)
- 3 アルバイトをしてみたいが、したことはない (67.9)
- 4 アルバイトをしたことはないし、まだ当分やりたくない (14.8)

▶問7で「家計を助けるためにアルバイトをしている(したことがある)」「自分で使うお金のためにアルバイトをしている(したことがある)」と答えた人に聞きます。

問7-1 平均して、1カ月にどのくらい収入がありますか?(ありましたか?)
(数値入力)

N=525 (平均 42,395、中央値 40,000) 円くらい

※半角数字でご入力ください。

問8 あなたは現在、お金を貯めていますか?(ひとつ選択)

- 1 目的をもってお金を貯めている (25.1)
- 2 目的はないが、お金を貯めている (38.4)
- 3 貯めたいが、貯められない (29.1)
- 4 その他(回答:親が管理している等) (0.6)
- 5 貯めようと思わない (6.7)

▶問8で「目的をもってお金を貯めている」と答えた人に聞きます。

問8-1 どのような目的でお金を貯めているか教えてください。

N=763

欲しいものを買うため、将来のため、遊び・旅行のため、進学のため 等

問9 あなたは、お小遣いやアルバイトで得たお金を、どのようなものに使いますか?
(複数選択可)

- 1 自分が欲しいもの (87.1)
- 2 遊ぶために使う (72.6)
- 3 自分の趣味のため (68.5)
- 4 学校の教材費や部活動 (8.6)
- 5 大学等の進学のため (10.8)
- 6 友人や家族へのプレゼント (44.8)
- 7 募金や寄付 (2.7)
- 8 預貯金 (25.3)
- 9 その他(回答:生活費等) (1.5)

問 10 あなたの「お金」に関する考え方や傾向について聞きます。とてもあてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、まったくあてはまらないの中から、どれか一つを選択してください。（それぞれ1つ選択）

	①とてもあてはまる	②ややあてはまる	③あまりあてはまらない	④まったくあてはまらない
1 お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う	(61.8)	(33.9)	(3.3)	(1.0)
2 計画的にお金を借りることは問題ないと思う	(10.7)	(24.5)	(38.0)	(26.8)
3 投資や資産運用などを行うことで、お金の増やしたいと思う	(17.0)	(26.5)	(33.8)	(22.7)
4 ギャンブルなど一攫千金（いっかくせんきん）でお金を稼ぐことに興味がある方だと思う	(6.9)	(12.5)	(22.3)	(58.3)
5 フリマアプリなどで、自分の持ち物を売ってお金を得たことがある	(11.0)	(11.4)	(12.0)	(65.6)
6 お金を使うときに手元のお金と出ていくお金のバランスを気にする方だと思う	(29.3)	(41.6)	(19.9)	(9.2)
7 困っている人たちのために、お金を寄付したいと思う	(10.7)	(41.7)	(32.1)	(15.5)
8 何をするにもお金が大切だと思う	(62.6)	(30.2)	(5.7)	(1.5)

問 11 あなたは、どのような方法でお金の管理を行っていますか？（複数選択可）

1 お小遣い帳の記入	(10.4)	5 必要なお金を先にとっておく	(33.1)
2 家計簿アプリの利用	(4.6)	6 その他（回答：親に預ける等）	(3.5)
3 レシートの保管	(10.9)	7 特に管理していない	(45.7)
4 利用明細などの定期的な確認	(8.9)		

3 「消費」に関することについて

問 12 あなたは欲しいものがある時、どこからの情報を参考にして商品をえらびますか？
(複数選択可)

1 テレビ	(14.9)	5 友人や家族の話	(49.6)
2 インターネットの検索	(72.5)	6 店員や実物	(40.5)
3 SNS や口コミ	(75.9)	7 その他 (回答: アプリでみる等)	(0.2)
4 新聞や雑誌	(3.2)	8 特に参考にする情報はない	(2.7)

問 13 お店 (コンビニなど) で買い物する時、あなたはどのような方法で支払いますか
(複数選択可)

1 現金	(94.9)	4 クレジットカード	(4.2)
2 電子マネー (Suica・PASMO 等)	(23.0)	5 その他 (回答: QUO カード等)	(0.3)
3 QR コード決済 (PayPay・楽天 Pay 等)	(54.0)		

問 14 あなたの「エシカル消費 (人・社会・地域・環境に配慮した消費行動)」に関する考え方や傾向について聞きます。とてもあてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、まったくあてはまらないの中から、どれか一つを選択してください。(それぞれ1つ選択)

①とてもあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

1 気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う	(34.0)	(43.4)	(17.8)	(4.7)
2 高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う	(11.0)	(30.4)	(42.9)	(15.7)
3 買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思う	(11.8)	(34.4)	(36.8)	(17.0)
4 フェアトレード (注※) 商品があれば積極的に選んでいる	(6.3)	(21.4)	(43.3)	(29.0)
5 社会や環境への配慮に欠けた製品/サービスを買うのを控えたことがある	(9.1)	(29.0)	(39.9)	(22.0)
6 コンビニでおにぎりを買う時、棚の奥から取る方だ	(10.9)	(15.3)	(24.3)	(49.5)
7 商品に問題があったときは、企業などに連絡をする方だ	(8.9)	(17.9)	(33.2)	(40.0)
8 社会課題・環境問題の解決に取り組む政治家に投票したい	(20.0)	(43.5)	(22.0)	(14.5)

(注※) フェアトレード (公正な貿易) とは、発展途上で生産された作物や製品を、適正な価格で継続的に取引し、生産者の持続的な生活向上を支える仕組み。チョコレートやコーヒー、バナナなどがあります。

4 インターネット・SNS などに関連する消費者トラブルについて

問 15 あなたの「インターネットや SNS の利用」に関する考え方や傾向について聞きます。
とてもあてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、まったくあてはまらないの中から、どれか一つを選択してください。（それぞれ 1 つ選択）

	①とてもあてはまる	②ややあてはまる	③あまりあてはまらない	④まったくあてはまらない
1 使い方を間違えなければ、とても便利なツールだと思う	(84.1)	(13.2)	(1.9)	(0.9)
2 サイトを見るときは信頼できると思うサイトだけを見るように気を付けている	(46.4)	(39.4)	(10.9)	(3.3)
3 友達に会うことより、SNS を使ってメッセージでやり取りする方が多い	(31.3)	(33.0)	(26.3)	(9.5)
4 新しい知り合いができたことがある	(29.7)	(22.9)	(20.2)	(27.2)
5 夜遅くまで利用していることで、睡眠時間が短くなっていると思う	(33.6)	(35.5)	(19.3)	(11.7)
6 利用する時間や頻度を減らそうとしたことがある	(34.2)	(35.7)	(19.1)	(10.9)
7 SNS の返信などをわずらわしいと思うことがある	(23.5)	(33.0)	(28.3)	(15.2)
8 やらなければならないことがあっても、ついつい利用してしまうことがある	(44.1)	(39.8)	(10.9)	(5.2)

問 16 パソコン・スマートフォン等を利用して、インターネットで商品やサービスを買ったことはありますか？（1 つ選択）

- | | | | |
|----------|--------|----------------------|--------|
| 1 よく買う | (22.2) | 3 買ったことはあるが、ほとんど買わない | (25.2) |
| 2 ときどき買う | (33.5) | 4 買ったことがない | (19.1) |

問 16 で「よく買う」「ときどき買う」と答えた人に聞きます。

問 16-1 インターネットでの買い物のためにここ 1 カ月で使った金額はいくらですか？
(数値入力)

N=1,689 (平均 6,618 、 中央値 3,000) 円くらい

※半角数字でご入力ください。

問 17 あなたはインターネットや SNS を通して、商品やサービスに関するトラブルに巻き込まれたことがありますか？（1つ選択）

- 1 巻き込まれたことがある (4.3) 2 巻き込まれたことがない (95.7)

→ 問 17 で「巻き込まれたことがある」と答えた人に聞きます。

問 17-1 どのようなトラブルにありましたか？（複数選択可）

N=129

- 1 購入した商品が不良品や偽物だったり、注文したものと違うものが届いたりした (47.3)
2 購入した商品が送られてこなかったり、かなり遅れて届いたりした (48.8)
3 契約したサービスが十分受けられなかった (7.8)
4 契約時に聞いていた内容と異なり、購入した商品や契約したサービスを返品・解約できなかった (7.8)
5 SNS の広告にアクセスしたところ、儲け話にだまされてしまった (5.4)
6 化粧品などの定期購入に関するトラブルにあい、想定外の金額を請求された (5.4)
7 オンラインゲームで課金したことで、想定外の金額を請求された (5.4)
8 その他 (回答：取引相手のアカウント停止による、取引中止等) (10.1)

→ 問 17 で「巻き込まれたことがある」と答えた人に聞きます。

問 17-2 その際に解決をはかるために誰に相談しましたか？（複数選択可）

N=129

- 1 親に相談した (65.1) 5 警察に相談した (3.9)
2 学校の先生に相談した (6.2) 6 SNS 等で、面識のない人に相談した (4.7)
3 友だちに相談した (17.1) 7 その他 (回答：アプリの相談窓口等) (5.4)
4 消費生活センターの電話相談窓口「消費者ホットライン (188 番)」を利用して、相談員に相談した (7.8) 8 誰にも相談しなかった (16.3)

5 あなたの将来のことについて

問 18 あなたは高校卒業後、どのような進路を考えていますか？（1つ選択）

- 1 大学に進学する (48.2) 6 家業を継ぐ (0.4)
2 短期大学に進学する (2.1) 7 考えてはいるが、まだ決まっていない (14.6)
3 専門学校に進学する (15.9) 8 その他 (回答：ミュージシャン活動等) (0.1)
4 海外留学する (0.9) 9 考えたことがない (1.4)
5 就職する (16.5)

問 19 あなたは、将来つきたい職業を決めていますか？（1つ選択）

- | | | |
|---|------------------|--------|
| 1 | はっきりと決めている | (21.3) |
| 2 | なんとなく決めている | (38.6) |
| 3 | 考えてはいるが、まだ決めていない | (36.1) |
| 4 | 考えたことがない | (4.1) |

問 20 あなたは、将来どこで働きたいと思いますか？（1つ選択）

- | | | |
|---|--------------|--------|
| 1 | 国内で働きたい | (73.8) |
| 2 | 海外で働きたい | (2.4) |
| 3 | 国内と海外両方で働きたい | (10.0) |
| 4 | 特に決めていない | (13.7) |

問 21 あなたの将来の働き方についてお聞きします。（1つ選択）

- | | | |
|---|--------------------------|--------|
| 1 | 最初に勤めた職場で働きたい | (41.2) |
| 2 | 勤め先を変えながら、働きたい | (18.1) |
| 3 | いずれは自身で会社を立ち上げたい | (7.5) |
| 4 | いずれは実家の稼業を継いで働きたい | (0.9) |
| 5 | 早めに資産を形成し、若いうちにリタイアしたい | (2.6) |
| 6 | その他（回答：フリーランスも視野に入れて働く等） | (1.1) |
| 7 | 特に決めていない | (28.7) |

問 22 人生 100 年時代と言われていますが、何歳くらいまで働きたいですか？（数値入力）

（ 平均 68.0 、 中央値 65 ） 歳くらい

※半角数字でご入力ください。

問 23 将来暮らすにあたり自分の生まれ育った地元についてどう思いますか？（1つ選択）

- | | | |
|---|------------------------------------|--------|
| 1 | 自分の生まれ育った地元で暮らし続けたい | (18.7) |
| 2 | 自分の生まれ育った地元で暮らし、将来的には地元を出て暮らしたい | (26.5) |
| 3 | 自分の生まれ育った地元を出て暮らし、将来的には地元に戻って暮らしたい | (17.3) |
| 4 | 自分の生まれ育った地元以外で暮らし続けたい | (13.9) |
| 5 | 特に決めていない | (23.6) |

問 24 あなたは将来、結婚したいと思いますか？（1つ選択）

- | | | | |
|-----------|--------|--------------------|--------|
| 1 結婚したい | (63.8) | 3 よく分からない | (26.1) |
| 2 結婚したくない | (9.4) | 4 その他(回答:どちらでもよい等) | (0.7) |

問 24 で「結婚したい」と答えた人に聞きます。

問 24-1 何歳くらいに結婚したいですか？(数値入力)

N=1,931 (平均 25.6、中央値 25) 歳くらい

※半角数字でご入力ください。

問 24 で「結婚したい」と答えた人に聞きます。

問 24-2 結婚したい理由は何ですか？(複数選択可)

N=1,931

- | | | | |
|--------------------|--------|--------------------------|--------|
| 1 子どもや家族が欲しいから | (68.2) | 4 老後が心配だから | (21.2) |
| 2 寂しいから(精神的に安定できる) | (35.3) | 5 家族を安心させたいから | (24.5) |
| 3 好きな人と一緒に生活したいから | (68.3) | 6 その他(回答:支えてくれる人がほしいから等) | (0.8) |

問 24 で「結婚したくない」と答えた人に聞きます。

問 24-3 結婚したくない理由は何ですか？(複数選択可)

N=285

- | | | | |
|-------------------|--------|-----------------------|--------|
| 1 自分の自由な時間がなくなるから | (69.8) | 4 なんとなく面倒だから | (50.2) |
| 2 金銭的に余裕がなくなるから | (50.2) | 5 その他(回答:責任を持ってないから等) | (10.9) |
| 3 家族を持つと大変そうだから | (64.6) | | |

問 25 あなたは将来、親になりたいと思いますか？（1つ選択）

- | | |
|------------|--------|
| 1 親になりたい | (54.2) |
| 2 親になりたくない | (14.5) |
| 3 よく分からない | (31.3) |

問 25 で「親になりたい」と答えた人に聞きます。

問 25-1 親になりたい理由は何ですか？(複数選択可)

N=1,645

- | | | | |
|------------------|--------|--------------------|--------|
| 1 子どもが好きだから | (64.6) | 4 子孫を残したいから | (17.2) |
| 2 子どもがいたら楽しそうだから | (76.6) | 5 自分の老後が心配だから | (9.1) |
| 3 後継ぎが必要だから | (4.6) | 6 その他(回答:子育てがしたい等) | (1.7) |

問 25 で「親になりたい」と答えた人に聞きます。

問 25-2 子どもは何人くらい欲しいですか？（数値入力）

N=1,645 （平均 2.5 、中央値 2 ）人

※半角数字でご入力ください。

問 25-3 将来子どもが生まれた場合、どのような働き方を選択すると思いますか？
（1つ選択）

N=1,645

- | | |
|---------------------|--------|
| 1 育児に関係なく働きつづける | (12.4) |
| 2 育児休暇を取り、職場に復帰する | (81.0) |
| 3 一旦仕事を辞め、再就職する | (3.0) |
| 4 仕事を辞め、専業主婦（主夫）になる | (3.2) |
| 5 その他（回答：その時に決める等） | (0.5) |

問 25 で「親になりたくない」と答えた人に聞きます。

問 25-4 親になりたくない理由は何ですか？（複数選択可）

N=439

- | | | | |
|-----------------|--------|-----------------------|--------|
| 1 面倒だから | (55.1) | 4 子どもが好きではないから | (42.1) |
| 2 金銭的に余裕がなくなるから | (53.5) | 5 自分や夫婦2人の時間がなくなるから | (23.9) |
| 3 仕事に打ち込みたいから | (19.6) | 6 その他（回答：育てられる自信がない等） | (11.8) |

問 26 あなたは今からどのくらい先の生活まで思い描くことができますか？（1つ選択）

- | | | | |
|-----------|--------|------------|--------|
| 1 高校卒業後まで | (28.1) | 6 60歳まで | (1.0) |
| 2 20歳まで | (24.6) | 7 70歳まで | (1.3) |
| 3 30歳まで | (14.4) | 8 それ以上 | (3.0) |
| 4 40歳まで | (3.5) | 9 全く想像できない | (22.5) |
| 5 50歳まで | (1.5) | | |

問 27 将来の生活を考えた時、特に不安を感じることは何ですか？

最大3つまで選択してください。(3つまで選択可)

1	高校卒業後の進路	(54.6)	10	交通事故	(5.9)
2	就職	(52.3)	11	健康保険などの国の保障	(4.0)
3	失業	(9.3)	12	地球温暖化等の環境問題	(5.7)
4	結婚	(18.7)	13	悪質商法や詐欺の被害	(2.7)
5	育児	(6.3)	14	経済的に困ること	(21.1)
6	老後	(9.1)	15	景気や社会情勢(戦争・テロ・感染症等)	(6.7)
7	自分や身近な人の病気	(13.0)	16	その他(回答:選択肢の全て、政治等)	(0.8)
8	自分や身近な人の死	(31.2)	17	特にない	(3.2)
9	地震などの自然災害	(21.8)			

6 これまでの学習状況について

問 28 あなたはこれまで、学校で「消費生活や生活設計（ライフプラン）」に関することを学んだことはありますか？（1つ選択）

- 1 学んだことがある (62.3) 2 学んだことがない (37.7)

※消費生活や生活設計（ライフプラン）とは以下のような内容です。

1	基本的な金融経済の仕組み	10	成年年齢引き下げについて
2	生活設計と必要なお金（ライフプラン）	11	クレジットカードの知識や利用上の注意点
3	職業選択と収入	12	消費者金融と多重債務問題
4	税金、社会保障の仕組みと役割	13	悪質商法の被害と対処法
5	民間保険（生命保険と損害保険）	14	消費生活相談窓口の電話番号「188」
6	介護保険、年金などの老後の経済生活	15	消費の権利と責任
7	金利の計算方法（単利、複利）	16	消費者市民社会
8	契約の基礎知識	17	エシカル消費
9	消費の基礎知識		

問 28 「学んだことがある」と答えた方に聞きます。

問 28-1 どのような内容を学びましたか？（複数選択可）

N=1,890

- | | | | | | |
|---|--------------------|--------|----|---------------------|--------|
| 1 | 基本的な金融経済の仕組み | (45.6) | 10 | 成年年齢引き下げについて | (32.4) |
| 2 | 生活設計と必要なお金（ライフプラン） | (43.8) | 11 | クレジットカードの知識や利用上の注意点 | (44.4) |
| 3 | 職業選択と収入 | (41.2) | 12 | 消費者金融と多重債務問題 | (15.5) |
| 4 | 税金、社会保障の仕組みと役割 | (37.4) | 13 | 悪質商法の被害と対処法 | (38.4) |
| 5 | 民間保険（生命保険と損害保険） | (15.3) | 14 | 消費生活相談窓口の電話番号「188」 | (26.8) |
| 6 | 介護保険、年金などの老後の経済生活 | (18.4) | 15 | 消費の権利と責任 | (38.0) |
| 7 | 金利の計算方法（単利、複利） | (12.9) | 16 | 消費者市民社会 | (14.9) |
| 8 | 契約の基礎知識 | (39.5) | 17 | エシカル消費 | (24.4) |
| 9 | 消費の基礎知識 | (40.4) | 18 | その他（回答：商品開発等） | (0.5) |

問 29 学校の先生ではなく、外部の団体や企業等から来た講師の授業で印象に残った話がありましたか？

- | | | |
|---|--------|---------|
| 1 | とてもある | (5. 2) |
| 2 | ややある | (18. 9) |
| 3 | あまりない | (54. 9) |
| 4 | まったくない | (20. 9) |

問 29 で「とてもある」「ややある」と答えた人に聞きます。

問 29-1 その話が印象に残った理由は何ですか？

N=732

自分の将来に関係のある・役立つ話を聞くことができたから
内容がよかったから（面白かった、すごいと思った、楽しかったから等）
今まで知らなかった話を聞くことができたから
内容に興味があったから（税金、詐欺等）

等

7 最後にお伺いします。

問 30 契約に関する知識についてお聞きします。次のうち正しいと思うことに○をつけてください。(複数選択可)

正答率

- | | | | |
|-----------------------------------|--------|--|--------|
| 1 契約に契約書は必要である
(解答：×) | (61.0) | 5 有料アプリのダウンロードは契約
である(解答：○) | (53.3) |
| 2 契約は口約束でも成立する
(解答：○) | (45.8) | 6 17歳が保護者に内緒で買った10
万円の楽器の契約は取り消せる
(解答：○) | (28.7) |
| 3 コンビニでお菓子を買うことは
契約である(解答：○) | (65.0) | 7 正しいと思うことはない
(解答：×) | (3.9) |
| 4 ネットショッピングはクーリン
グ・オフできる(解答：×) | (33.8) | | |

問 31 生活におけるリスク(病気・ケガ、死亡、介護等)についてお聞きします。次のうち正しいと思うことに○をつけてください。(複数選択可)

正答率

- | | | | |
|---|--------|--|--------|
| 1 国民年金は18歳から全国民が
加入する必要がある。
(解答：×) | (47.9) | 5 過去に病歴や持病がある人は、生
命保険に加入できない。(解答：×) | (11.9) |
| 2 公的年金保険は老後を迎えたと
きだけではなく、障害状態時や
遺族に対しても、年金が支給さ
れる。(解答：○) | (36.9) | 6 生命保険の中には、老後を保障す
る年金保険がある。(解答：○) | (50.8) |
| 3 公的医療保険(健康保険等)の自
己負担割合は全年齢一律3割負
担である。(解答：×) | (35.5) | 7 正しいと思うことはない
(解答：×) | (10.7) |
| 4 自動車保険や火災・地震保険は
生命保険である。(解答：×) | (49.5) | | |

◆公益財団法人 消費者教育支援センター

消費者教育の総合的かつ効果的な推進を図ることを目的に、1990年に経済企画庁(現消費者庁および内閣府)と文部省(現文部科学省)の共管法人として設立。平成24年4月1日より公益財団法人に移行。主な活動としては、消費者教育に関する調査や教材開発、シンポジウムやセミナーの開催、企業・行政を対象とする教材表彰、講座運営および講師派遣、機関誌『消費者教育研究』の発行等を行っている。

◆公益財団法人 生命保険文化センター

公正・中立な立場で生活設計や生命保険に関する情報提供等を行うことを目的に、1976年(昭和51年)に設立。「消費者啓発・情報提供活動」「学術振興事業」「調査活動」の3つを柱に事業活動を行っている。主な活動としては、高校・大学等への講師派遣、消費者や消費生活相談員等対象の学習会の実施、学校教育用副教材や消費者向け小冊子の作成等。生活保障に関する意識や生命保険の加入実態等を探る調査活動も行っている。

「高校生の消費生活と生活設計に関する調査報告書」(2025年度)

発行日 2026年3月

発行 公益財団法人 消費者教育支援センター

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷 1-17-14 全国婦人会館 3階

TEL : 03-5466-7341

FAX : 03-5466-2051

公益財団法人 生命保険文化センター

〒100-0005

東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 3階

TEL : 03-5220-8510 (代表)

FAX : 03-5220-9090